

卒業研究と進路のための

履修ガイド

平成26年度版



宇都宮大学 国際学部

このガイドの趣旨と利用法

◎このガイドは、2部から構成されています。

◎第1部では、卒業研究に至るまでの履修の仕方について説明しています。最初に、全体としての方針を述べた後、具体的な履修方法について、学科基礎科目に基づく体系的な方法と、卒業研究や専門分野を視野に入れた方法を説明しています。

◎第2部では、進路別ガイドを示しています。公務員試験，資格試験を中心に，勉学の指針を示しています。

国際学部

卒業研究と進路のための履修ガイド

目次

このガイドの趣旨と利用法

第1部 履修領域別ガイド

1. 国際学部での履修について ～自発的な学習の推奨～	1
2. 学科基礎科目に基づく体系化された履修方法の例	4
3. 卒業研究や専門分野を視野に入れた履修方法 ～教員ごとのページ～	8
4. レポート/論文作成の際の注意事項	77

第2部 進路別ガイド

1. 進路に関する基本的な留意点	81
2. 進路の選択とその時期	85
3. 民間企業への就職活動	86
4. 公務員等	91
5. 教員	94
6. 日本語教員と日本語教育プログラム	94
7. 大学院進学	95
8. 留学	97
9. まとめ	99
参考資料	100

第1部 履修領域別ガイド

1. 国際学部での履修について～自発的な学習の推奨～

はじめに

国際学部は、グローバル社会に生起する多様な国際問題に対応できる人材の育成を目的として 1994 年に国立大学としては初めて設置されました。1990 年の冷戦終結後、平和になるかに思われた世界はむしろ民族や宗教的対立による戦争が繰り返され、21 世紀の現在においてなお平和な世界の実現は困難視されています。

一方、国家の利害を超えて市民の力で紛争や対立を克服し、グローバル社会の下で共生と協力を目指そうとする運動も生まれています。NGO・NPO などの市民組織が国際機関と連携して環境、人口、貧困、移民などの問題に取り組み、市民の力で人々が平和に共生できる世界をつくろうという取り組みです。国際学部は 21 世紀のグローバルな諸課題を多様な国際的知識・方法・意見をもって解決できる地球市民を育成します。

「国際学」とは何か

国際学 International Studies は、学際的教育研究による広く深い知識が獲得できるところに特徴があります。グローバリゼーションの進行とともに、世界には多様な課題が多様な形で存在していることが明らかになってきました。それらは総合的・学際的に研究されて、初めてその実態と解決方法が明らかになるものです。国際学は、国家間ばかりではなく、市民組織・NPO、国際 NGO、国際機関等が連携して解決を目指すトランスナショナルな課題解決に寄与する「学」の確立を目標としています。そのためには多様な学問の融合が必要です。

宇都宮大学国際学部のカリキュラムは、この意味で多様な領域の授業が開講されています。例えば、アジアの貧困問題の解決には、歴史、政治、経済、社会、文化、思想、言語といった幅広い知識を動員するばかりでなく、実際にそこに出かけ調査や分析することによって（いわゆる「フィールドワーク」によって）、実態を理解することも必要不可欠です。

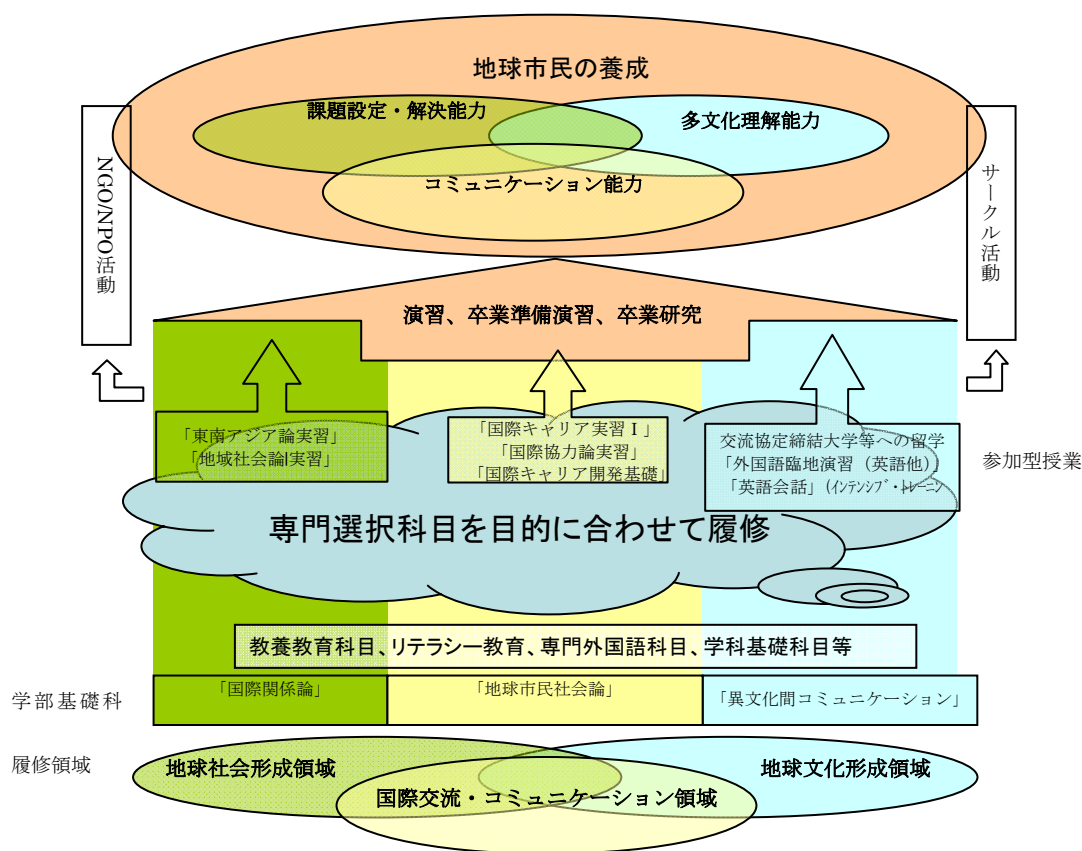
国際学部は、現在、国家の利害関係の解決を目的としたインターナショナルな課題から、国家の枠を超えた人口問題、貧困問題、環境問題などトランスナショナル課題の解決方法を研究する学問体系の構築を目指しています。

カリキュラムの特徴と履修方法

カリキュラムの履修方法については、『国際学部履修案内』に書かれています。学生は履修規程に従って単位を修得し卒業します。学生個人は、充実した学生生活を送るためには、自分にあった履修計画を自ら作成する必要があります。

国際学部は国際社会学科と国際文化学科から構成されていますが、学生はこの両学科の枠組みを越えてある程度自由に相互の授業科目を履修することができます。また、卒業研究についても、両学科の枠を超えて教員の指導を受けることができます。このことは、国際学部が学際性・総合性を教育研究の基本としていることの最も顕著な証拠であり特徴です。この制度を大いに活用しましょう。

履修領域について



上記の図は、入学から卒業までの履修の流れを示しています。履修領域には A 地球社会形成領域、B 地球文化形成領域、C 国際交流・コミュニケーション領域の 3 つがあります。地球社会形成領域は、世界の課題設定・解決に焦点を当てます。地球文化形成領域は、多文化理解を促します。国際交流・コミュニケーション領域は、相互理解の促進をめざします。いずれの領域も国際的知識・相互理解を深めるためには不可欠です。

自発的な学習と参加型学習

国際学部での理論と実践のために

国際学部では社会・文化・地域・国際交流などに関する専門知識の修得のみならず、コミュニケーション能力（言語によるものと言語によらないもの）、課題設定・解決能力、多文化理解能力も求められます。これらの実践的能力は、教室や図書館での学修を基礎に外国や地域での経験によってより深化します。このように国際学部の学修には理論と自発的な実践が有効です。このために、国際学部では、自発的な学習を促す、講義科目と演習・実習・実験科目が用意されています。国際学部では、自発的な学習をする一つの有効な方法として、参加型学習をすすめています。

参加型学習と「参加型授業」

参加型学習とは、コミュニケーション能力、課題設定・解決能力、多文化理解能力という実践的な能力を育成するために、学生が授業に積極的に参加し、授業を教員と協同で行うような学習の方法・学習への姿勢のことをいいます。具体的には、学生が企画から運営全般にわたって参加する、学生が教員と合宿に参加して集中的に課題に取り組む、学生自ら国際交流や国際協力のフィールドに足を運ぶというような学習の方法・姿勢です。国際学部には、このような参加型学習が求められる「参加型授業」があります。

「参加型授業」の中には、大学以外の国際協力機関や NGO・NPO などへの参加・調査が授業の一環として組み込まれているものがあります。「国際協力論実習」がその例です。それ以外に国内外に一定期間実習に出かけ、単位として認定される「国際キャリア実習」、学生による企画運営・合宿の形態で行う「国際キャリア開発」（国際キャリア合宿セミナー）などがあります。以上のような「参加型授業」は国際学部の学生にとって大いに活用されてしかるべきで、国際学部に対応しいものであるといえるでしょう。

国際学部では、外国語学習が重要視されています。そのために多様な外国語科目が開講されています。また、外国語の授業時間・必修単位数が他の学部、大学と比較して多く開講・配置されています。このような外国語についても、参加型学習が求められる「参加型授業」が用意されています。特に英語に関しては効率的習得のために、集中的に、しかも学外で合宿しながら実際に英語を使って学習する「英語会話」(Intensive Training Course)が開講されています。また、英語も含む多様な外国語を現地で学習して、一定の基準を満たした場合、それを外国語科目の単位として認定する「外国語臨地演習」があります。現在、「外国語臨地演習（英語）」と「外国語臨地演習（中国語）」が開講されています。さらに、海外の学術交流協定校との交換留学制度も外国語の実践訓練の場として有効です。交換留学の場合、留学先で取得した単位が卒業単位として認定されるというメリットもあります。大いに活用してください。

以上のような参加型学習と「参加型授業」には、卒業論文を書いたり、卒業後に就職や進学をしたりするのに意義があると言えます。

国際学部では、自発的・自律的な学習を育むためにも卒業研究を重視しています。それまでに授業で学んできた理論や実践の集大成として、それぞれ的好奇心を探求した個性のある卒業研究を展開して下さい。

2. 学科基礎科目に基づく体系化された履修方法の例

1では、国際学部がめざすもの、国際学部での履修方法の基本的な考え方、自発的な学習の奨励について説明してきました。しかし、新入学生のみなさんは、実際には学科に所属して学習していくことになります。

そこで、1で述べたような学部全体の方針をふまえつつ、所属する学科でどのような学科基礎科目を履修し、その上でどのような選択科目をとり、さらに演習・実験・実習科目を履修して、卒業研究準備演習と卒業研究へとつなげていくかを考えることにしましょう。

学科基礎科目については、国際社会学科では「国際法」「国際経済論」「国際社会論」「国際政治論」が、国際文化学科では「言語学」「芸術文化論」「文化人類学」「比較文化論」が開講されており、それぞれの学科の学問体系を構成しています。すなわち、国際社会学科では社会科学、国際文化学科では人文諸学の体系をなしています。ただし、両学科は、国際学の構築という目標を掲げて、地球市民の育成をめざすという点で共通していると言えます。

各学科において学生のみなさんは、それぞれの興味・関心に応じて学科基礎科目4科目中の2科目を選択履修することになります。これは学生ひとり一人の学問的な興味に応じつつ、体系的で質の高い履修計画を立ててもらうという意図があるからです。

この方針に従って、6, 7ページには、学科基礎科目関連科目一覧として、国際社会学科と国際文化学科のそれぞれについて、選択履修する学科基礎科目2科目に対応する選択科目などが例示してあります。各学科6通りの分類が示されています。また、学科基礎科目と対応する選択科目のすぐ下には、6分類には属さない横長の枠内に示した科目があります。これは学科基礎科目に限定されない科目を表し、国際社会学科では「地域研究」「国際協力」に関する科目が、国際文化学科では「文化論」「日本語教育」に関する科目が該当します。さらにその下にも、同様に横長の枠があり、これは両学科で開講されている科目を表しています。一番下には、学科基礎科目と選択科目に対応する演習・実験・実習科目が示されており、講義科目の区分と同様に6つに分類されるものと、そうした分類には属さないものとがあります。

各分類に示された科目はあくまで参考例です。すべて履修しなければならないものではありませんし、さらに特定の分類に例示されていない科目を履修することもできます。このことと関連しますが、学科としての学問体系の観点から、

各学科において選択履修した学科基礎科目2科目に加えて、残りの2科目もできるだけ履修することをお勧めします。また、必要があれば、他学科基礎科目も積極的に履修してください。

最後に、上で少し触れた両学科で開講されている科目について説明します。具体的には、環境、国際キャリア開発、哲学・思想、歴史、地理・地誌・民族誌、情報・統計、特殊講義・特別講義、留学生対象科目が該当します。これらの科目は、特定の学科基礎科目に限定されない科目であるため、両学科で開講されています。特に、哲学・思想関連科目と歴史学関連科目は、すべての学問にとっての基盤となるため、学部として重視しています。この重視の方針はこの関連科目一覧にも反映されています。

基礎科目関連科目リスト(国際社会学科)

国際社会学科 基礎科目	国際経済論 国際法	国際法 国際政治論	国際政治論 国際社会論	国際社会論 国際経済論	国際経済論 国際政治論	国際法 国際社会論
国際社会学科 選択科目	途上国経済発展論 アメリカの経済と社会 国際金融論 経済学概論 ミクロ経済学 マクロ経済学 経済政策論 財政学 国際機構論 民法 憲法 国際人権法	国際機構論 民法 憲法 国際人権法 余暇政策論 現代福祉事情 社会福祉学概論 都市計画 地区計画 行政学 グローバル・ガバナンス概論 地方自治論 日本の政治 行政学 Japan-U. S. Relations 国際時事問題 Japan's International Relations 地方自治論 日本の政治 Japan-U. S. Relations 国際時事問題 Japan's International Relations	余暇政策論 現代福祉事情 社会福祉学概論 都市計画 地区計画 行政学 グローバル・ガバナンス概論 地方自治論 日本の政治 Japan-U. S. Relations 国際時事問題 Japan's International Relations 東アジア社会史 現代日本社会論 タイ都市社会論 地域社会論Ⅰ 地域社会論Ⅱ 地域分析基礎論 グローバル教育論 多文化共生教育	現代日本社会論 タイ都市社会論 地域社会論Ⅰ 地域社会論Ⅱ 地域分析基礎論 途上国経済発展論 アメリカの経済と社会 国際金融論 経済学概論 ミクロ経済学 マクロ経済学 経済政策論 財政学	途上国経済発展論 アメリカの経済と社会 国際金融論 経済学概論 ミクロ経済学 マクロ経済学 経済政策論 財政学 余暇政策論 現代福祉事情 社会福祉学概論 都市計画 地区計画 行政学 グローバル・ガバナンス概論 地方自治論 日本の政治 Japan-U. S. Relations 国際時事問題 Japan's International Relations	国際機構論 民法 憲法 国際人権法 現代日本社会論 タイ都市社会論 地域社会論Ⅰ 地域社会論Ⅱ 地域分析基礎論
	【地域研究】 地域研究論, アフリカ論, 近現代中国論, 東北アジア論, 東南アジア論, 中東地域研究, An Introductory Course to Latin America					
	【国際協力】 国際協力論					
	【環境】 地球環境政策論, 環境と国際協力 【国際キャリア開発】 国際キャリア開発, 国際キャリア実習, International Career Seminar 【哲学・思想】 哲学概論, 現代文化と哲学, 西洋現代思想, 日本思想史, 比較思想論, ヨーロッパ思想構造論, アジア近現代思想論 【歴史】 日本史概説A, 日本史概説B, 東洋史概説, 西洋史概説, 考古学概説 【地理・地誌・民族誌】 自然地理学, 都市地理学, 人口地理学, アジア比較地誌論, 地誌学概論A, 地誌学概論B, 民族誌学 【情報・統計】 情報ネットワーク概論, データベース入門, 統計学 【特殊・特別講義】 外国語特別講義Ⅰ(ポルトガル語), 外国語特別講義Ⅱ(ポルトガル語), 外国語特別講義Ⅲ(ロシア語), 外国語特別講義Ⅳ(ロシア語), グローバル化と外国人児童生徒教育					
演習および実験・ 実習科目	国際経済論演習 途上国経済発展論演習 国際法演習 国際関係論演習	国際法演習 国際関係論演習 行政学演習 多文化共生教育演習 グローバル・ガバナンス論演習	行政学演習 多文化共生教育演習 国際関係論演習 地域社会論Ⅰ実習 地域社会論Ⅱ演習	地域社会論Ⅰ実習 地域社会論Ⅱ演習 国際経済論演習 途上国経済発展論演習	国際経済論演習 途上国経済発展論演習 行政学演習 多文化共生教育演習 国際関係論演習	国際法演習 国際関係論演習 東アジア社会史演習 地域社会論Ⅰ実習 地域社会論Ⅱ演習
	東南アジア論実習 環境と国際協力演習 Seminar in Latin American Studies		近現代中国論演習 アジア比較地誌論演習	中東地域研究演習 民族誌学演習	国際協力論実習 情報ネットワーク実習	

基礎科目関連科目リスト(国際文化学科)

国際文化学科 基礎科目	言語学 比較文化論	芸術文化論 言語学	言語学 文化人類学	比較文化論 芸術文化論	文化人類学 比較文化論	芸術文化論 文化人類学
国際文化学科 選択科目	言語と音声 言語と認知科学 英語学特講I 英語学特講II 日本語論 日本語史 対照言語学 国際コミュニケーション論 対人コミュニケーション論 身体表現論 東西比較文化論 日韓文化交流史 日欧比較文学論 比較思想論 翻訳文学論 イギリス文学史 アメリカ文学史 比較児童文学論 ジェンダー論 移民と多文化教育 Linguistic Typology and Language Communication	表象文化論 西洋現代思想 哲学概論 現代文化と哲学 ヨーロッパ思想構造論 アジア近現代思想論 比較思想論 日本思想史 キリスト教文化論 言語と音声 言語と認知科学 英語学特講I 英語学特講II 日本語論 日本語史 対照言語学 国際コミュニケーション論 対人コミュニケーション論 身体表現論	言語と音声 言語と認知科学 英語学特講I 英語学特講II 日本語論 日本語史 対照言語学 国際コミュニケーション論 対人コミュニケーション論 身体表現論 民族誌学 日本史概説A 日本史概説B 東洋史概説 西洋史概説 考古学概説 日本思想論 日本語史 自然地理学 都市地理学 人口地理学 地誌学概論 アジア比較地誌論	東西比較文化論 日韓文化交流史 日欧比較文学論 比較思想論 翻訳文学論 イギリス文学史 アメリカ文学史 比較児童文学論 対照言語学 ジェンダー論 表象文化論 西洋現代思想 哲学概論 現代文化と哲学 ヨーロッパ思想構造論 アジア近現代思想論 日本思想史 キリスト教文化論 移民と多文化教育	民族誌学 日本史概説A 日本史概説B 東洋史概説 西洋史概説 考古学概説 日本思想論 日本語史 自然地理学 都市地理学 人口地理学 地誌学概論 アジア比較地誌論 東西比較文化論 日韓文化交流史 日欧比較文学論 比較思想論 翻訳文学論 イギリス文学史 アメリカ文学史 比較児童文学論 対照言語学 ジェンダー論 移民と多文化教育	表象文化論 西洋現代思想 哲学概論 現代文化と哲学 ヨーロッパ思想構造論 アジア近現代思想論 比較思想論 日本思想史 キリスト教文化論 民族誌学 日本史概説A 日本史概説B 東洋史概説 西洋史概説 考古学概説 日本思想論 日本語史 自然地理学 都市地理学 人口地理学 地誌学概論 アジア比較地誌論
	【文化論】 日本文化論（歳時編）， 日本文化論（文学編）， 中国文化論， 韓国文化論， ヨーロッパの歴史と文化， イギリス文化論， フランス文化論， ドイツ文化論A， ドイツ文化論B， ドイツ学－文芸と社会， アメリカ文化論， 英語圏文化論					
	【日本語教育】 日本語教育Ⅰ， 日本語教育Ⅱ， 日本語教育方法論					
	【環境】 地球環境政策論， 環境と国際協力 【国際キャリア開発】 国際キャリア開発， 国際キャリア実習， International Career Seminar 【哲学・思想】 哲学概論， 現代文化と哲学， 西洋現代思想， 日本思想史， 比較思想論， ヨーロッパ思想構造論， アジア近現代思想論 【歴史】 日本史概説A， 日本史概説B， 東洋史概説， 西洋史概説， 考古学概説 【地理・地誌・民族誌】 自然地理学， 都市地理学， 人口地理学， アジア比較地誌論， 地誌学概論A， 地誌学概論B， 民族誌学 【情報・統計】 情報ネットワーク概論， データベース入門， 統計学 【特殊・特別講義】 外国語特別講義Ⅰ（ポルトガル語）， 外国語特別講義Ⅱ（ポルトガル語）， 外国語特別講義Ⅲ（ロシア語）， 外国語特別講義Ⅳ（ロシア語）， グローバル化と外国人児童生徒教育					
演習および実験・ 実習科目	言語学演習 日本語論演習 国際英語コミュニケーション演習 対人コミュニケーション論実験 比較文化論演習 日欧比較文学論演習 翻訳文学論演習 イギリス文学演習 アメリカ文学演習	表象文化論演習 ヨーロッパ思想構造論演習 言語学演習 日本語論演習 国際英語コミュニケーション演習 対人コミュニケーション論実験	言語学演習 日本語論演習 国際英語コミュニケーション演習 対人コミュニケーション論実験 民族誌学演習	比較文化論演習 日欧比較文学論演習 翻訳文学論演習 イギリス文学演習 アメリカ文学演習 表象文化論演習 移民と多文化教育演習	民族誌学演習 比較文化論演習 日欧比較文学論演習 翻訳文学論演習 イギリス文学演習 アメリカ文学演習 移民と多文化教育演習	表象文化論演習 民族誌学演習
	日本文化論演習 フランス文化論演習 中国文化論演習 ドイツ文化論演習 韓国文化論演習 アメリカ文化論演習 イギリス文化論演習 民族誌学演習					

	日本語教育Ⅰ 演習	日本語教育Ⅰ 実習	日本語教育Ⅱ 演習	日本語教育方法論演習
--	-----------	-----------	-----------	------------

3. 卒業研究や専門分野を視野に入れた履修方法

～教員ごとのページ～

1では、国際学部がめざすもの、国際学部での履修方法の基本的な考え方、自発的な学習の奨励について、2では、学科基礎科目に基づく体系化された履修方法について説明しました。このように、これまでは、学部の理念をふまえ、学部と学科の基礎科目から始めて卒業研究に至るまでの「下から上へ」の展開を示してきたことになります。

この3では、教員ごとのページを提示します。すなわち、国際学部のすべての教員が、卒業研究および対応する演習・実験・実習科目の視点から、履修を勧める科目を例示します。また、専門分野や研究業績なども紹介します。各教員につき見開き2ページとします。

1ページ目には、演習・実験・実習科目名、学問的特徴とキーワード、卒業論文題目例、1～4年次において奨励される履修科目が表に例示されています。この例示された履修科目の中で、卒業研究と特に関係の深い科目は太字で示してあります。表中の科目はあくまで例示であって、すべてを履修しなければならないわけではありません。履修の可能性を広く示していたり、他学科の科目、学部基礎科目、共通教育の教養教育科目などを載せていたりする場合もあります。また、学部として重視している哲学・思想関連科目と歴史学関連科目も例示しています。

2ページ目には、教員名、教員の専門分野、指導方針、主な執筆論文や著書、当該分野を知るための基本的な文献紹介が示されています。

次のページから、教員ごとのページが始まります。卒業研究や専門分野の視点からも、4年間の履修計画を検討してください。



国際協力論演習

学問的特徴：

グローバル化が進む国際社会の中で、国際協力とは何か、地球市民社会とは何か、世界にはどのような開発に関する諸問題があるのか、開発に従事する関係者はどのような姿勢や心構えでないといけないのか、その問題発見能力や問題解決するための行動力を身に付け、国際協力や地球市民社会を担う人たちの役割を考え、国際協力の基礎から応用を学びます。

キーワード： 国際協力、地球市民社会・国際 NGO・・・国際開発協力・グローバル教育

関連科目一覧：

(太字は卒業研究に特に関係の深い科目)

1 年次	地球市民社会論(重田) /国際関係論／国際政治論／国際法/文化人類学(文化)/ 国際協力論入門(基盤：重田) 、 グローバル・ガバナンス論入門	地域研究論 西洋史概説 日本史概説
2 年次	国際機構論／国際人権法 国際経済論／国際社会論 国際協力論 グローバル・ガバナンス概論(重田)	東南アジア論／中東地域研究 アフリカ論／途上国経済発展論 国際学特殊講義Ⅱ・Ⅲ タイ都市社会論/地球環境政策論 環境と国際協力/時事英語
3 年次	国際協力論実習(重田) 卒業研究準備演習(重田)	アメリカの経済と社会/日米関係 /Japan's International Relations
4 年次	卒業研究(重田)	

卒業論文題目例：

- 「企業がもたらすフェアトレード深化の可能性—CSR(企業の社会的責任)の視点から」(11年度)
- 「ネパールが抱える HIV 感染症への取り組みとその課題」(11年度)
- 「日本の中間支援組織が抱える課題とそれに対するアプローチの提案」(11年度)
- 「原子力との未来を描く村の持続可能性の考察—青森県六ヶ所村を事例に—」(11年度)
- 「若者を取り巻く日本の社会環境—若者批判への反論と生活保護の事例から—」(11年度)
- 「香港市民社会の独自性—変化するガバナンス下での発展」(11年度)
- 「外国人労働者をめぐる法政策の妥当性—日本社会の乖離に生きる外国人の人権とは—」(12年度)
- 「日本の NGO は政府資金を積極的に拡大すべきか—NGO の役割という視点から—」(12年度)
- 「ネパールにおけるダリット女性の差別の現状と課題—真の民主化に向けた彼女らと NGO の取り組み」(13年度)
- 「フィリピン教育分野に関する一考察—学校教育の課題とノンフォーマル教育の可能性—」(13年度)
- 「東日本大震災における高齢者避難の現状と課題—福島県の自治体としての役割分析—」(13年度)

担当教員名：重田康博（しげたやすひろ）



専門分野：国際協力論、国際 NGO 論、地球市民社会論

国際市民社会、特に国際 NGO について学習します。

最初に、国際協力や地球市民社会の概要について理解し、国際 NGO の人道支援、参加型開発、グローバル教育（開発教育）、政策提言、ODA と NGO の関係について考察します。

指導方針：国際協力の基本を学ぶために、『NGO の発展の軌跡』等基本的な文献を読み込み、国際協力、開発問題、地球市民社会特に国際 NGO への理解を深めます。このような文献の読み込みを通じて、問題設定、レジュメの作成、プレゼンテーションの方法、レポートや論文の書き方を学びます。同時に、フィールドワークを行う際の研究計画の組み立て方、問題の発見、インタビューの方法、質問票の作成、資料の収集、報告書の作成等実践について学びます。実際に、国際協力 NGO の事務所（アジア学院、日本国際ボランティアセンター、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン等）や地域おこしの現場（足尾銅山、栃木県モリヨゴ村）を訪問します。さらに、学生と都合が合えば途上国へのフィールドワークを行います。PRA のマッピング、年表づくりをグループ別に行い、それらのプロセスを通して、フィールドワーク、参加型開発、アクション・リサーチの手法を学びます。

主な執筆論文・文献：

重田康博(2005 年)『NGO の発展の軌跡』明石書店

重田康博「第 6 章オックスファムによる世界の貧困問題への取り組み」

(功刀達朗・毛利勝彦編著(2006 年)『国際 NGO が世界を変える』東信堂)

重田康博「第 7 章 NGO と ODA」

(馬橋憲男・高柳彰夫編著(2007 年)『グローバル問題と NGO・市民社会』明石書店)

重田康博「第 4 章ミレニアム開発目標」(田中治彦編著(2008 年)『開発教育』学文社)

重田康博「ポスト開発/ポスト・グローバル化時代における国と市民社会」(宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター (2012)『多文化公共圏センター年報』第 4 号)

重田康博「グローバル時代における国家、市民社会と公共圏—カンボジアの政府と NGO を事例に」

(宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター (2014)『多文化公共圏センター年報』第 5 号)

<この分野を知るために：基本的な文献紹介>

重田康博 『NGO の発展の軌跡』 明石書店 2005 年

本書は NGO の発展の歴史を紹介し、開発協力、緊急援助、参加型開発、キャンペーン、政策提言について取り上げて検証しています。

メアリー・カルドー 『グローバル市民社会論』法政大学出版局 2007 年

本書は、国際関係学者のグローバル・カルドーによるグローバル市民社会を知る上での基本的な文献です。国境を越えたグローバル市民社会アクターに着目し、その定義や起源について描かれています。

ロバート・チェンバース/穂積智夫・甲斐田万智子監訳(1995)『第三世界の農村開発/貧困の解決—私たちにできること』明石書店、本書は開発問題に私たちがどのように関わるのか、開発の基本姿勢を紹介。

ロバート・チェンバース/野田直人・白鳥清志監訳(2000)『参加型開発と国際協力—変わるのはわたしたち』

明石書店、本書は開発問題に関わる外部者が住民とどのように関わるのか、理念や実践を紹介。

功刀達朗・毛利勝彦編著 『国際 NGO が世界を変える』東信堂 2006 年



国際関係論演習

学問的特徴：法学と政治学を中心に、国際関係の構造や制度を考察する。各学生の興味に応じて、法学と政治学の分野に限定せず、経済学、社会学、地域研究、歴史学、哲学・思想などの関連科目を履修することが望ましい。

キーワード：戦争・平和・安全保障・国際機構・国連・平和維持・平和構築・人間の安全保障

関連科目一覧：

(太字は卒業研究に特に関係の深い科目)

1 年次	国際関係論（清水）／地球市民社会論 国際政治論／国際法 ジェンダー論（清水） 戦争と平和をめぐる諸問題（基盤：清水）	地域研究論 西洋史概説 日本史概説
2 年次	国際機構論（清水）／国際人権法 国際経済論／国際社会論 グローバル・ガバナンス概論 International Career Seminar（清水） 3.11 と学問の不確かさ（基盤：清水）	東北アジア論／近現代中国論 東南アジア論／中東地域研究 アフリカ論／途上国経済発展論 国際学特殊講義Ⅱ・Ⅲ 地球環境政策論 環境と国際協力 国際協力論Ⅰ・Ⅱ 時事英語／西洋現代思想
3 年次	Japan-U.S. Relations(日米関係論) （清水） Japan' s International Relations （清水） 国際関係論演習（清水） 卒業研究準備演習（清水）	アメリカの経済と社会 東アジア社会論 東洋史概説 国際時事問題
4 年次	卒業研究（清水）	

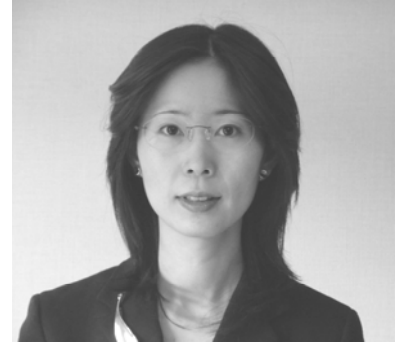
卒業論文題目例：「英国とイラク戦争 ―ブレア政権の外交政策を中心として―」（09 年度）

「アフガニスタン国内避難民が抱える問題―法的保護と UNHCR の活動を中心に―」（10 年度）

「国連による人道的介入に関する考察 ―『保護する責任』概念の登場を受けて―」（11 年度）

「正義と政治のジレンマと命令権者の裁き ―移行期正義の実施は誰のためか―」（13 年度）

担当教員名：清水奈名子（しみずななこ）



専門分野：国際機構論

主に国際連合の安全保障体制について研究しています。
国際関係を考察する際に、国際連合のような国際機構に
代表される制度に注目して、紛争の予防や解決、紛争後
社会の再建の問題を考察しています。

指導方針： 3年次の演習において、国際関係論や国際機構論に関する基本的な学術論文をしっかりと読み込む
作業を重視します。この作業を通して、学術論文とはどのような形式と水準で書くものなのかを理
解してほしいからです。上記二つの分野以外にも、国際法や国際政治の知識を前提に進めますので、
2年次までにこれらに関連する科目を履修しておいてください。また英語文献や資料も使用します
ので、英語の読解力を鍛えておくことも必要です。

主な執筆論文・文献：

『冷戦後の国連安全保障体制と文民の保護—多主体間主義による規範的秩序の模索—』

（日本経済評論社 2011年）

「グローバリゼーションとアジアの地域主義—紛争解決と安全保障を中心として—」

（水島司・田巻松雄編『21世紀への挑戦3 日本・アジア・グローバリゼーション』日本経済評論社 2011年）

『国連安全保障理事会と文民の保護—平和維持活動における任務化とその背景—』『国際法外交雑誌』第
111巻第2号、2012年8月、55～81頁

『保護する責任』と国連システム—普遍的な規範形成とその実施をめぐる諸問題—』『国際安全保障』第40巻
第2号、2012年10月、24～40頁

『人間の安全保障』の危機と『保護する責任』

（吉川元他編『グローバル・ガバナンス論』法律文化社 2014年）

＜この分野を知るために：基本的な文献紹介＞

E. H. カー（井上茂訳）『危機の二十年 1919－1939』岩波書店（文庫白 22-1）1996年

英国の外交官であり、歴史家でもあったカーによる国際関係論の古典的な書物です。1939年に出版
されましたが、このころからようやく国際関係を総合的に捉える学問の探究が始まりました。

メアリー・カルドー（山本武彦他訳）『新戦争論—グローバル時代の組織的暴力—』岩波書店 2003年

内戦時における一般市民の殺害が増えている現代の戦争の特徴を、近世以降の戦争と比較しながら
体系的に分析した研究書。戦争の何が問題であるか、理論的に考察したい人にお勧めします。歴史
的かつ実証的な叙述が、議論の説得力を高めています。

最上敏樹『国際機構論 第2版』東京大学出版会 2006年

日本の学会においてもっとも体系的かつ高度な国際機構に関する教科書であり、研究書としても多
くの新しい論点を含んでいます。この分野に関する必携書です。



国際経済論演習

学問的特徴：国際経済論は狭い意味では、貿易を中心とした国際的な経済関係を対象としてきたが、今日の社会では、企業・銀行の多国籍化が進行し、資本移動に関連する問題も考察の対象となる。また大企業体制が主流になり、そこから発生する問題（コーポレート・ガバナンス等）も考えていきたい。

キーワード：経済成長・平等・自由・ガバナンス・資源分配・独占と競争

関連科目一覧：

(太字は卒業研究に特に関係の深い科目)

1 年次	国際関係論／地球市民社会論 国際政治論／国際法 経済学概論	
2 年次	国際経済論（磯谷）／国際社会論 途上国経済発展論 グローバル・ガバナンス概論 アメリカの経済と社会（磯谷）	マクロ経済学／ミクロ経済学 国際学特殊講義Ⅱ・Ⅲ
3 年次	国際金融論（磯谷） 日米関係論 国際経済論演習（磯谷） 卒業研究準備演習（磯谷）	経済政策論／財政学
4 年次	卒業研究（磯谷）	

卒業論文題目例：「世界金融危機」（10 年度）

「第 3 セクター鉄道の経営問題と地域経済」（10 年度）

「産業空洞化問題と製造業の海外進出」（11 年度）

「日本の TPP 参入とグローバリズムへの懐疑」（12 年度）

「アメリカの医療保障システムにおける問題」（12 年度）

担当教員名：磯谷玲（いそやあきら）

専門分野：国際経済論

主にアメリカを対象として金融・証券制度について研究してきました。ある社会が利用できる資源は有限であり、それをどのような仕組みで分配するのかが企業にとっても、市民にとっても大きな問題です。金融・証券はそのための重要なツールであると位置づけられています。



指導方針： 基本的には、学生らしい自由でのびのびした発想による卒業研究を期待しています。そのために必要なことは(1)目の前の現実に対して疑問をもつこと、(2)その疑問に対する社会的意味づけを知り、先人の答えと格闘すること、です（独りよがりの主張をするのは20歳を超えた大人のすることではありません）。(1)については学生諸氏の努力が不可欠です。(2)については関心に応じて相談しながら進めていきたいと思います。

主な執筆論文・文献：

「アフター・ニューエコノミーと金融危機」

（磯谷玲・豊福裕二，（社団法人）世界経済研究協会『世界経済評論』2009年）

『アメリカ経済の新展開』

（井上博・磯谷玲 編著 同文館出版株式会社 2008年）.

『現代国際金融論』

（奥田宏司、横田綏子，神沢正典，磯谷玲，他計 5 名 法律文化社 2006年）.

<この分野を知るために：基本的な文献紹介>

スミス、リカード、マルクスといった古典、また比較的近年の学者だが古典の域に近くなっているケインズやフリードマンには原典（翻訳）にあたってもらいたいと思いますが、ここでは新書などの比較的「手軽な」文献を紹介します。

金子勝『閉塞経済』 ちくま新書 2008 年

副題に「金融資本主義のゆくえ」とあるように、80年代以降のバブルや構造改革、格差社会等について考察している。

小野善康『不況のメカニズム』 中公新書 2007 年

不況はなぜ生じるのか、それにどう対処すればよいのかと経済学のそして経済政策の大きなテーマである。本書はケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』を「組み直し」新たな不況分析の枠組みを提示する。



国際法演習

学問的特徴：国際問題や人権問題に対する知識・理論を深めるために、国際法や国際人権法の観点を交えながら、学生が個々のテーマについて報告し、相互に討論し合う。本演習とともに、国際関係関連科目のみならず、憲法など法学関連科目も履修し、リーガル・マインドを養うことも心がけて欲しい。

キーワード：人権・平和・法・国家・国連・NGO

関連科目一覧：

(太字は卒業研究に特に関係の深い科目)

1 年次	国際法 (今井) 国際化と人権 (基盤：今井) 法学入門 (基盤) 国際関係論	地球市民社会論、国際政治論
2 年次	国際人権法 (今井) 国際機構論 憲法	民法／日本の政治／国際経済論 ／国際社会論／グローバル・ガバナンス概論／国際協力論 環境と国際協力
3 年次	国際法演習 (今井) 卒業研究準備演習 (今井)	
4 年次	卒業研究 (今井)	

卒業論文題目例：「欧州審議会における人権侵害防止の取組み—チェチエン紛争を事例に一」 (08 年度)
 「セクシュアルマイノリティの人権」 (08 年度)
 「オーバースティの人権問題—在留特別許可の問題点—」 (08 年度)
 「在沖米軍基地と住民」 (09 年度)
 「中国人強制連行から見る戦後補償問題」 (09 年度)

担当教員名：今井直（いまいただし）

専門分野：国際法・国際人権法

国連における人権保障システム、国際人権法の国内的実施、拷問等禁止規範の展開について、研究しています。国際人権法は、人権擁護のために国内裁判や国際手続で実践的に活用できる法なので、NGOや法曹実務家と協力して活動することも重要な仕事と位置づけています。



指導方針：学生が抱いている興味・関心をきちんとテーマ化させて、主に国際法・国際人権法の観点から考察してもらうための方向づけを与えるのが、演習における基本方針です。報告・討論を通じて、調査能力、説明能力、論理展開能力を養う機会にして欲しいと考えています。学生が自分自身の問題意識を確認して、次の卒業研究準備演習や卒業研究の段階に進んでゆく橋渡しをします。

主な執筆論文・文献：

- 『テキストブック国際人権法〔第3版〕』（共著、日本評論社、2009年）
- 「国連人権理事会の創設とその活動に関する一考察」
島田征夫・古谷修一編『国際法の展開と課題』（信山社、2009年）
- 「国籍法違憲訴訟最高裁判決と国際人権法」
季刊・教育法 159号（2008年）
- 「拷問禁止規範の絶対性のゆらぎ — ノン・ルフールマン原則を中心に」
国際人権（国際人権法学会年報）18号（2007年）
- 「国際法における拷問禁止規範の現在」
村井敏邦・今井直監修『拷問等禁止条約をめぐる世界と日本の人権』（明石書店、2007年）
- 「国際人権保障の展開とNGOの役割」
芹田健太郎ほか編『講座国際人権法1 国際人権法と憲法』（信山社、2006年）
- 「拷問等禁止条約の個人通報制度」 法律時報第77巻12号（2005年）

＜この分野を知るために：基本的な文献紹介＞

芹田健太郎ほか編『講座国際人権法』 信山社 2006年 2010年

国際人権法学会企画の4巻本。第1巻『国際人権法と憲法』および第2巻『国際人権規範の形成と展開』（ともに2006年）に続き、第3巻『国際人権法の国内的実施』第4巻『国際人権法の国際的実施』（ともに2010年）も刊行。日本における国際人権法研究の深化を示す。

宮崎繁樹『国際法における国家と個人』（未来社、1963年）『人権と平和の国際法』日本評論社 1968年
国家間の関係だけを対象とする国際法研究が当たり前であった当時、個人を中心として国際法を再構成しようとした画期的な書。宮崎は、日本では未知の領域であった「国際人権法」研究のパイオニア的存在であり、これらの著作により宮崎の理念であるヒューマニティが理論として結晶化された。

チャールズ・A・ライク（邦高忠二 訳）『緑色革命』 早川書房 1971年

原題はThe Greening of America（環境の本ではない）。著者はイエール大学の法律家であり、この本で1960年代後半のカウンター・カルチャーの理論的礎を築いた。まさに「青春」の社会科学、法学。楽観的で脆いが、若者の反抗がいかに社会を変革しうるかを説いた。ある意味で挫折の書、そしてもしかしたら今の僕の原点。25年後、突然、『システムという名の支配者』（早川書房、1998年）で復活。悲しくも、なぜ非人間的な政治社会システムが変化しないかを解明した。しかし、まだ諦めていない。



環境と国際協力演習

学問的特徴：地球環境政治や環境をめぐる国際協力について、理解を深める。また、地球環境保護・保全のための国や地方レベルでの取組みを比較考察し、同一の環境問題であっても各国の取組が大きく異なる要因を、比較政治の観点を中心として理論的に実証的に考察し、理解を深める。多面的構造的な探求を行うためにも、環境関連科目に加え、国際関係・法学・政治学・経済学・行政学・社会学・地域研究などの関連科目を幅広く履修することが望ましい。興味関心に応じ、特定の国や地域等について社会・文化問わず掘り下げておくことも、さらに望ましい。

キーワード：地球環境管理・国際協力・国際協調・環境政治・環境政策・ガバナンス・市民社会

関連科目一覧：

(太字は卒業研究に特に関係の深い科目)

1 年次	環境と国際社会 (基盤 高橋若菜) 国際関係論／地球市民社会論 国際政治論／国際法	地球環境と化学 (基盤) 環境と生物化学 (基盤) 環境教育 (基盤) 自然観察入門 (基盤)
2 年次	環境と国際協力 (高橋若菜) 地球環境政策論 (高橋若菜) 国際社会論／国際経済論／国際機構論 グローバル・ガバナンス概論	国際協力論ⅠⅡ／国際時事問題 途上国経済発展論 地域社会論／西洋現代思想 日本の政治／地方自治論 行政学／行政法／ジェンダー論 都市地理学／人口地理学
3 年次	環境と国際協力演習 (高橋若菜) 卒業研究準備演習 (高橋若菜)	
4 年次	卒業研究 (高橋若菜)	

卒業論文題目例：「東京都の再生可能エネルギー戦略策定までの背景」 (09 年度)

「生態移民政策効果の批判的検討～アオリクガチャーを事例として～」 (09 年度)

「中国における都市ごみ分別回収の実態―国・都市・家庭の三層での取組に着目して」 (10 年度)

「1983 年に制定が見送られた環境影響評価法は、なぜ 1997 年に導入されるに至ったのか―環境政策コミュニティの変化に着目して」 (10 年度)

担当教員名：高橋若菜（たかはしわかな）

専門分野：地球環境政治

越境大気汚染管理、低炭素社会形成、循環型社会形成分野を中心に、地球環境政治（アクターと制度の相互作用）について研究しています。近年は廃棄物資源管理政策の日瑞比較に力をいれ、2012年度は、スウェーデンでの在外研究に従事しました。一方、東日本大震災を受けて、福島からの避難者支援に取り組み、原発事故後の市民社会についても考察しています。



指導方針：3年次の演習において、関連の学術書を講読するとともに、受講生の関心と照らし合わせながら、地球環境保護・保全のための国内での取組みについて、フィールドスタディを行います。受講生は現地調査を主体的に進め、その結果を各々レポートにまとめます。また、他大学のゼミ交流の一環で、受講生の関心に即したテーマを選び、討論もしくは議論を行います。この作業を通じ、地球環境協力をめぐる諸問題を多面的・構造的にとらえる思考・判断力や、論点を的確にまとめ表現し、議論を展開するための技能・表現力を磨き、卒業研究に備えます。なお、受講生の関心が海外にある場合、英語や対象地域の言語の読解力やコミュニケーション力を鍛えておいてください。ゼミへの積極参加と自発的学習態度を期待します。

主な執筆論文・文献：

“Problems of Environmental Cooperation in Northeast Asia: The case of Acid Rain” in P. Harris eds. International Environmental Cooperation, Colorado UP, 2002)

「廃棄物・資源管理政策の発展軌跡に関する日韓比較分析」（柳下正治、鈴木克徳、横田勇と共著）『宇都宮大学国際学部研究論集』第29号 2010年、49-60頁。

「欧州長距離越境大気汚染レジーム パワー、利益、アイデア、アクター、制度の相互作用」『国際政治』第166号、2011年、71-84頁。

「新潟における福島乳幼児・妊産婦家族と地域社会の受容—福島原発事故後の市民社会を考える」『アジア・アフリカ研究』52巻3号、2012年、16-47頁。

＜この分野を知るために：基本的な文献紹介＞

R・カーソン（青樹繁一訳）『沈黙の春』新潮文庫 1974年

アメリカの一海洋学者であった著書が、膨大な調査をもとに、化学物質の危険性を世に問いました。環境研究の古典的書物と位置づけられます。

J・マコーミック（石弘之他訳）『地球環境運動全史』岩波書店 1998年

環境保護運動のみならず地球環境保全への国際社会の取り組みを、地球的視野で総括した地球環境政治の通史。

G・ポーター他（信夫孝司訳）『入門地球環境政治』有斐閣 2001年

地球環境政治にまつわる論点をコンパクトにまとめた入門書。地球環境政治の標準的なテキストとして、米国の大学等でも用いられています。



行政学演習

学問的特徴： 国内外の様々な政策領域のうち、自分なりに関心を持ったテーマについて、現地調査を踏まえた考察を行う。人間行動の営みの結果である政策を考える場合、国際社会学科、国際文化学科にかかわらず国際学部が開設している科目すべてが何らかの形で関係してくる。したがって、国際機関や国家、地方自治体、NPO、地域社会、コミュニティのいずれかに何らかの関心を持っているならば、特定の履修すべき科目があるわけではないが、以下に例示する。

キーワード： 政策・政府・地方自治体・国際社会・国際文化・都市・地域社会・コミュニティ・生きがい

関連科目一覧：

(太字は卒業研究に特に関係の深い科目)

1 年次	現代政治の理論と実際 (基盤：中村祐司) イギリス文化論	
2 年次	行政学 (中村祐司) 国際学英書講読 (中村祐司) 地方自治論 (中村祐司) / 余暇政策論 (中村祐司) アジア比較地誌論 国際コミュニケーション論 (文化)	近現代中国論 日本の政治 アメリカ文化論 (文化) 東西比較文化論 (文化)
3 年次	日米関係論 アジア近現代思想論 卒業研究準備演習 (中村祐司)	東洋史概説 アメリカの経済と社会 東アジア社会論 日本思想史
4 年次	卒業研究 (中村祐司)	

卒業論文題目例：

「栃木県の産学官連携のあり方を考えるー地域金融機関を加えた新たな可能性ーシャッター通りの再建へのあり方とはー」

「コミュニティビジネスのパワーとはーコミュニティビジネスの地域への影響を探るー」

「地球温暖化に立ち向かうにはー環境自治体の可能性と課題ー」

「中心市街地活性化におけるパートナーシップのあり方ー青森県青森市・栃木県宇都宮市を事例にー」

「都市におけるバイオマスの活用ー愛知県名古屋市の事例ー」

「森林資源活用による地方活性化ー岩手県住田町を事例にー」

担当教員名：中村祐司（なかむらゆうじ）

専門分野： 行政学・地方自治・政策学

国内外のあらゆる政策領域に関心がありますが、主に地元である栃木県における地域政策課題やコミュニティ社会の課題をめぐり、審議会委員やまちづくり委員、研究室からの提言等を通じて実践的に関わっています。



指導方針： 3年次の演習では、前期は各自あるいはグループ単位でテーマを見つけた上で現地調査にもとづいてレポートを作成し、それにもとづく報告を行い、その成果を研究室HPに掲載します。演習に入るために特定の履修科目の取得は義務づけられておりませんが、できれば上記掲載の私の担当科目を履修すれば、演習における指導の趣旨や目的がよく理解できると思います。

主な著書：【単著】

『スポーツの行政学』（成文堂、2006年）

『”とちぎ発”地域社会を見るポイント100』（下野新聞新書2、2007年）

『2008年北京オリンピックの研究—統治から協治へ—』（国際学部行政学研究室編、2009年）

【共著】

『地域学』（弘前学院大学地域総合文化研究所編、2006年）

『新たな行政参加の在り方に関する調査研究報告書』（総務省大臣官房企画課、2006年）

『イギリスの行政とガバナンス』（成文堂、2007年）

『地域・自治体・大学による連携・協働』（国際学部行政学研究室編、2008年）

『新しい公共と自治の現場』（コモンズ、2011年）

<この分野を知るために：基本的な文献紹介>

寄本勝美編『公共を支える民—市民主権の地方自治—』コモンズ 2001年

公共サービスの担い手は行政だけではなく、企業もNPOも住民も担い手です。いわゆる「協働」の先進的な実践例が豊富に盛り込まれた好著です。

寄本勝美『リサイクル政策の形成と市民参加』有斐閣 2009年

本書の帯にあるように「政治家、官僚、自治体、企業、住民、市民団体、研究者など、様々な関係者の行動を精査し、容器包装リサイクル法の制定・改正の過程」を政策プロセスの現場に常に身を置いて分析した力作・良書です。これからインタビュー調査や現地調査を経験する学生必読の文献です。



地域社会論Ⅰ実習

学問的特徴：人類学や社会学の研究手法であるフィールド・ワークによって、ローカルな場である村落社会を理解し、そのうえでグローバルな現代社会を考えます。ここで重要なのは、ものごとを単純に考えるのではなく、批判的な視線をもつことです。この実習では、参加者が協力し、村落調査をおこないます。この調査の訓練をとおして、独力でフィールド・ワークをおこなえるようになることを目指します。

キーワード：村落社会・フィールドワーク・生活・ローカル・グローバル

関連科目一覧：

(太字は卒業研究に特に関係の深い科目)

1 年次	地域研究論 社会学入門（基盤）	国際関係論 日本史概説 西洋史概説 ジェンダー論
2 年次	地域社会論Ⅰ（古村） 情報処理（古村） 文化人類学（文化） 途上国経済発展論	民族誌学（文化） 西洋現代思想（文化） 環境と国際協力 国際社会論 地方自治論
3 年次	地域社会論Ⅰ実習 卒業研究準備演習（古村）	
4 年次	卒業研究（古村）	

卒業論文題目例：

「核燃料サイクルの語り——青森県六ヶ所村を事例として」（2012 年度）

「語られるフクシマを超えて——福島県会津若松市を中心とした原発避難者の生活から」（2013 年度）

「現代農村に生きる女性たち——栃木県高根沢町を事例に」（2013 年度）

担当教員名：古村学（こむらまなぶ）

専門分野：村落社会学・社会人類学・知識社会学

おもに日本の離島などの村落社会において、フィールド・ワークをおこなっています。「ふつう」に生活をおくっている人々の視点から、さまざまグローバルな現象を読みなおす研究をおこなっています



指導方針： わたくしの指導方針は徹底したフィールド主義です。フィールドでの経験は、知識面だけでなく、考え方や生き方にまで大きな影響を与えるものです。実習では、事前学習、フィールド・ワーク、データの分析、報告書作成といった社会調査の一連の作業をおこないます。この実習を通じて、自らの力で社会調査をおこなえる力を養い、卒業論文に向け一月以上の住み込みでのフィールド・ワークをおこなってもらいます。フィールドでの経験を実り多いものとするために、社会学や人類学などをはじめとした関連科目を履修しておいてください。

主な執筆論文・文献：

「ケニアにおける観光——サファリ・ツアーとビーチ・リゾート」

（松田素二・津田みわ編『エリア・スタディーズ ケニアを知るための55章』明石書店 2012年）

「エコツーリズム研究」

（江口信清・藤巻正巳編『観光研究レファレンスデータベース 日本編』ナカニシヤ出版 2011年）

「エコツーリズムと自然保護——八重山諸島西表島を事例として」

（江口信清・藤巻正巳編『貧困の超克とツーリズム』明石書店 2010年）

「日本の離島における観光——自然観光からエコツーリズムへ」

（藤巻正巳・江口信清編『グローバル化とアジアの観光』ナカニシヤ出版 2009年）

<この分野を知るために：基本的な文献紹介>

宮本常一『忘れられた日本人』岩波書店（文庫青 164-1）1984年

日本各地での古老からの聞き取りをもとにした民俗学の古典的名著。辺境の地に生きる人々から学ぶことの面白さを伝えてくれる。

鳥越皓之『家と村の社会学 増補版』世界思想社 1993年

日本の伝統的村落社会の基本原理であった家と村の実体を描いた書籍。家と村という原理は、現在では消えつつあるが、村落社会を理解する上では欠かすことのできないものである。

古川彰・松田素二『観光と環境の社会学』新曜社 2003年

観光開発による「地域おこし」という視点から、村落社会の現在のすがたを描いた論文集。多様な視点から、地域社会にとっての観光の意味を知ることができる。



地域社会論Ⅱ 演習

学問的特徴：研究することの意味を根底から問おうとする意識を問題意識といいます。自分が関わってきた社会学や地域研究は、認識主体である個人が自ら問題（対象・目標・方法）を設定しなければ学問自体がスタートしないという点で、とりわけ問題意識を追究することは重要になります。この演習では、様々な資料や題材を用いながら、問題意識について考えます。

キーワード：問題意識・下層・ホームレス・外国人・外国人児童生徒教育・地域・多文化共生

関連科目一覧：

（太字は卒業研究に特に関係の深い科目）

1 年次	国際政治論 国際法 国際関係論入門（基盤）	西洋史概説 日本史概説
2 年次	国際経済論 国際社会論（田巻） 現代日本社会論（基盤：田巻） グローバル・ガバナンス概論 国際機構論 国際協力論Ⅰ・Ⅱ 国際人権法	地球環境政策論 環境と国際協力 東北アジア論／近現代中国論 東南アジア論／西アジア論 アフリカ論 国際学特殊講義Ⅱ 国際学特殊講義Ⅲ 日本の政治 ヨーロッパ思想構造論 西洋現代思想
3 年次	日米関係論 Japan's International Relations 国際関係論演習 地域社会論Ⅱ（田巻） 卒業論文準備演習（田巻）	アメリカの経済と社会 国際時事問題 東洋史概説
4 年次	卒業研究（田巻）	

卒業論文題目例：「在日外国人の子どもたちの夢を叶える教育支援」、「関東大震災と朝鮮人虐殺について」、「外国人住民を取り巻く近況と日本人との交流―栃木県日光市に焦点を当てて～」
 （以上、2011 年度卒業論文の一例）

担当教員名：田巻松雄（たまきまつお）



専門分野：社会学

社会学とは、立場や価値観の異なる様々な人々が共に生きられる社会の在り方を追究する学問と言えるでしょう。そのための現状分析と理念や政策の提示が主な課題となります。主に、グローバルな人の移動や世界的な現象としてのホームレス問題、故郷夕張の地域問題について調査研究してきました。「共生」は、仲良くすることではなく、最低限の相互理解と互いの生を保障しあうことを目指すものです。

指導方針： 3年次の演習において、まず、問題意識の重要性を自覚することを目指します。そして、様々な現実や研究と向き合いながら、問題意識のあり方について広く考えると共に、自身の問題意識を議論の遡上に載せましょう。自身の生活と共に他者の生活に目を向ける視点と態度の必要性を考えます。出来るだけ多くの文献・論文等をしっかり読み、問題意識について議論を重ねましょう。

主な執筆論文・文献：

『世界ホームレス百科辞典』デービッド・レビンソン編集代表、駒井洋監修、田巻松雄監訳者代表、明石書店、2007年

田巻松雄「多文化共生と共生に関するノート」『宇都宮大学国際学部研究論集』第26号、2008年10月号

『栃木県における外国人児童生徒教育の明日を考える』（研究代表者 田巻松雄）

水嶋司・田巻松雄編著『日本・アジア・グローバル化』日本経済評論社、2011年

田巻松雄編『夕張は何を語るか 炭鉱の歴史と人々の暮らし』吉田書店、2013年

田巻松雄『地域のグローバル化にどのように向き合うか』下野新聞社、2014年

<この分野を知るために：基本的な文献紹介>

大谷信介編『問題意識と社会学研究』ミネルヴァ書房 2006年

社会学者（田巻も1章を担当）が自身の問題意識を振り返りながら、問題意識のあり方を多面的に論じている異色の書。問題意識は、個人の原点や生き様、時代背景、異文化との接触、社会への怒り、対象者からの学び等と深く関わり、それらから大きな影響を受けていることが論じられています。

北川隆吉監修、田巻松雄他編『地域研究の課題と方法』（理論編・実証編）文化書房博文社 2006年

グローバル化の影響や意味を多面的に検証しつつ変容する各地域の現実を理解すること、その体系的な理論化を図ることなどを目的に、約20人の研究者が刊行した地域研究の最新の成果。

梶田孝道『新・国際社会学』名古屋大学出版会 2006年

「国際社会学の基礎理論」、「国家を横断する主体と現実」、「変貌する人種／民族／国家」の三部構成で、国際社会学のパラダイムと研究領域などを幅広く理解できるテキスト。



タンザニア南東部農村で祭のため協同脱穀をする女性たち

途上国経済発展論演習

学問的特徴：発展途上国（主にアフリカ）の貧困と豊かさ・経済発展・格差に関して、現状及び既存の理論的説明を理解した上で、各自が興味を持つテーマについて考察する。状況の多角的理解と問題意識の明確化のためにも、関連科目の幅広い履修が望ましい。

キーワード：貧困・豊かさ・経済格差・国際開発・内発的発展・アフリカ

関連科目一覧：

（太字は卒業研究に特に関係の深い科目）

1 年次	社会開発入門 （基盤：阪本） 地域研究論 地球市民社会論	文化人類学（文化） 国際関係論 比較文化論（文化）
2 年次	途上国経済発展論 （阪本） アフリカ論 （阪本） グローバルガバナンス概論 国際社会論 国際経済論 国際協力論 I, II 地域社会論 I, II 民族誌学	中東地域研究 東南アジア論 国際学特殊講義 II, III 統計学 国際キャリア開発基礎、特論 東西比較文化論（文化） 環境と国際協力
3 年次	途上国経済発展論演習（阪本） 卒業研究準備演習（阪本）	
4 年次	卒業研究（阪本）	

卒業論文題目例「開発の中の女性像と文化の中の女性像を超えて—ザンビア、ベンバ族を事例として」（11 年度）
「ルワンダにおける物乞いと障害の関係について」（10 年度）
「社会とトイレの発展—トイレの多様性と人・環境への配慮」（10 年度）
「観光を通して買う文化・売る文化—バリとマサイの比較研究—」（08 年度）
「食を分かつということ—何が分配に至らしめたか、それは何をもたらしうるか—」（07 年度）
「近代化による新しい価値観が自然と人間の関係に与える影響—カラハリの狩猟採集民の定住化を例にあげて—」（07 年度）
「アフリカ紛争に関する一考察—シエラレオネ紛争におけるアクターの活動—」（07 年度）
「アフリカとアジアにおける貧困の違いとは—ケニアとバングラデシュを事例に一」（06 年度）

担当教員名：阪本 公美子（さかもとくみこ）

専門分野：アフリカ地域研究

アフリカ、特に東アフリカに位置するタンザニアを研究対象としています。しばしば問題とされるアフリカの貧困のみならず、人びとの生活の背景となる文化や社会構造に興味を持ち、主に農村において現地調査を行っています。



指導方針： 3年次の演習において、それぞれの問題意識に基づき、各自の興味のあるテーマについて掘り下げ研究を始めるとともに、論文や資料などの収集、研究方法、論理的思考、論文作成技術などについて学びます。2年次までに、授業内外における幅広い学習や体験を通じて、それぞれの問題意識を磨いておいて下さい。「何に興味があるかわからない」のが最も困ります。日本語だけでなく外国語の論文や資料も読みこなせることによって世界が広がりますので、1～2年次から十分に語学も鍛えて下さい。

主な執筆論文・文献：

Social Development, Culture, and Participation: Toward theorizing endogenous development in Tanzania
(春風社 2009 年)

「東アフリカの内発的発展」

(西川潤他編『社会科学を再構築する—地域社会と内発的発展—』明石書店 2007 年 pp.220-234)

「アフリカ・モラル・エコノミーに基づく内発的発展の可能性と課題」

(『アフリカ研究』第 70 号 2007 年 pp.133-141)

「開発と文化の調和と対立—タンザニア南東部における地域・ジェンダー・世代—」

(『宇都宮大学国際学部研究論集』第 20 号 2005 年 pp.15-28)

「タンザニアにおける「貧困」の歴史的形成—スワヒリ文化に対する潜在的偏見を超えて—」

(『混迷する国際社会と共生へのビジョン』2004 年 pp.115-136)

<この分野を知るために：基本的な文献紹介>

西川潤『人間のための経済学』 岩波書店 2000 年

貧困と豊かさについて、さまざまな理論を多角的に検証しつつ、人間を中心に据えた経済学を再構築する名著。

斎藤文彦『国際開発—ミレニアム開発目標による貧困削減』 日本評論社 2005 年

経済開発や社会開発について、わかりやすくかつ具体的に説明した教科書。

大林稔・石田洋子編著『TCSF アフリカ政策市民白書』2005-2008 晃洋書房 2004-2009 年

対アフリカ支援について、市民の視点から協同作業によって執筆した白書。2005 年から 2008 年までシリーズで出版。

吉田昌夫「熱帯アフリカ」『地域研究』 古今書店 2002 年

アフリカの自然環境から社会まで、バランス良く紹介。



中東地域研究演習

学問的特徴：中東地域を中心に、社会・経済・政治問題を、現地の文脈において分析する手法を獲得する。中東地域に関する基礎的な知識を有していることが望ましい。そのうえで、学生はそれぞれの興味に応じて、経済学、政治学、人類学などに関する知識を有していることが望ましい。

キーワード：民族・地域研究・国民統合・表象

関連科目一覧：

(太字は卒業研究に特に関係の深い科目)

1 年次	国際政治論 国際経済論 西アジアの社会と文化 （基盤：松尾） 歴史と表象 （基盤：松尾）	文化人類学
2 年次	中東地域研究 （松尾） 地域研究概説 （松尾） 経済学概論 マクロ経済学	アジア比較地誌論 西洋史概説 国際金融論 途上国経済発展論 民族誌学
3 年次	中東地域研究演習 （松尾） 卒業研究準備演習 （松尾）	途上国経済発展論演習 国際経済論演習
4 年次	卒業研究（松尾）	

卒業論文題目例：「ムスリムの理念と現実—事実上の政教分離体制と社会秩序の維持方法—」（09 年度）
 「フランスにおける移民問題—ホスト社会と移民社会との民族的・社会的軋轢について—」（08 年度）
 「不可分の聖地エルサレム—国家建設の過程における宗教とナショナリズム—」（07 年度）
 「集団の形成と表象」（07 年度）

担当教員名：松尾昌樹（まつおまさき）

専門分野：地域研究（中東）・歴史社会学

中東、特に湾岸アラブ諸国の国民統合について研究中。

世界で最も経済的に豊かな地域でありながら、非民主的な政治・社会体制が温存されている湾岸アラブ地域は、独自の政治・社会発展を遂げてきました。その様子を、社会学や政治学、歴史学の手法を用いて明らかにする課題に取り組んでいます。



指導方針：3年次の演習では、中東地域研究の基本となるような文献を輪読します。そこでは、日本とは異なる社会をどのように把握することができるのか、また国民とはどのように一つにまとまるのか、といった事柄が中心的な課題となります。輪読の後に、各参加者の関心に即したテーマで調査・発表を行います。参加者が進んで学習や調査に取り組む姿勢が求められます。

主な執筆論文・文献：

「湾岸産油国 レンティア国家のゆくえ」（講談社 2010 年）

「イマーム国の自己表象」

（『宇都宮大学国際学部研究論集』第 25 号 2008 年 3 月）

＜この分野を知るために：基本的な文献紹介＞

大塚和夫『イスラーム的 世界化時代の中で』NHK ブックス 2000 年

板垣雄三『歴史の現在と地域学：現代中東への視角』岩波書店 1992 年

池内恵『アラブ政治の今を読む』中央公論社 2004 年

羽田正『イスラーム世界の創造』東京大学出版会 2005 年

上野千鶴子編『構築主義とは何か』勁草書房 2001 年

ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体』（多数の版あり）



ラテンアメリカ論

学問的特徴：ラテンアメリカの地理、歴史、経済、社会、文化を研究対象とし、これらの個別の事例に依拠しつつ、国家間の関係や交流を分析し、そこに存在する共通性や相違点などを考察する。

キーワード：ラテンアメリカ社会・ラテンアメリカ経済・ラテンアメリカの政治・ラテンアメリカの文化

関連科目一覧：

(太字は卒業研究に特に関係の深い科目)

1 年次		スペイン語基礎 I・II (基盤) 国際関係入門 (基盤) 国際関係論／地域市民社会論／ 国際政治経済論入門／比較文化論 (文化)
2 年次	An Introductory Course to Latin America (スエヨシ) Contemporary Socioeconomic and Political Issues in Latin America (スエヨシ)	スペイン語応用 I・II (基盤) スペイン語基礎 III・IV (専門導入) スペイン語会話 (スエヨシ) スペイン語講読 A・B ポルトガル語 I・II 国際経済論／国際社会論／途上国経済発展 論／マクロ経済学／アメリカの経済と社 会／キリスト教文化論
3 年次	Seminar in Latin American Studies (スエヨシ) 卒業研究準備演習 (スエヨシ)	スペイン語講読 C (スエヨシ) スペイン語講読 D スペイン語文章表現 (スエヨシ) 国際時事問題／経済政策論／国際金融論 Japan's International Relations
4 年次	卒業研究 (スエヨシ)	

卒業論文題目例：

「日本人とペルー人の消費傾向の比較と考察 -2 国間の経済的関係向上の可能性-」(12 年度)

「ペルーリマ市の日系社会における日本語継承の発展と可能性」(12 年度)

「母親の神様とメキシコ女性のあり方に関して」(11 年度)

「Culture and Development: Analyzing Filipino Culture in the Context of Development」(11 年度)

「The Nation-State and Models of Regional Integration: Theoretical Implications of an Ontological Nation-State in the Study of Regionalism」(11 年度)

担当教員名：スエヨシ・アナ (Sueyoshi Ana)

専門分野：ラテンアメリカの財政政策

ラテンアメリカ及びカリブ海沿岸における長期経済成長と財政政策、内生的な経済成長についての研究を専門としています。宇都宮大学に赴任してからは、日本におけるラテンアメリカ出身の労働者の状況とその子供の教育、ペルーへ帰国した子供の教育、ペルーの日系社会を通じて形成された日本に対するイメージについての研究も行っています。



指導方針： 研究指導は基本的に、専門科目の講義と演習を通じて、ラテンアメリカの社会、文化、経済、政治、歴史などを紹介し、学生に興味のあるテーマを選択させる形で行います。学生には選択した分野の学術論文を読ませ、卒業論文のテーマを十分に絞らせると同時に、セミナーを通じて、資料やデータの収集、参考文献の整理、データの分析、文章の書き方など論文執筆に必要なことを適時指導していきます。学術研究は先行研究の理論枠組みを十分に理解した上で、自らのアプローチにより結論を導き出すことが重要です。また、卒業論文の執筆は英文でも邦文でも構いませんが、英文による執筆を希望する場合は英語科目の履修が必要になります。

主な執筆論文・文献：

- ・「*Nikkei Peruvian Children between Peru and Japan: Developing a Dual Frame of Reference*」
(*The International Journal of Interdisciplinary Social Sciences*, Common Ground, University of Illinois, Urbana Champaign, Vol. 5, Number 12, 2011, 45-59)
- ・「Pre and Post Stabilization and Structural Reforms in Latin America-An assessment」
(『宇都宮大学国際学部』研究論集 第 30 号 2010 年 10 月、7 項～24 項)
- ・「Total Factor Productivity, Growth Convergence and Fiscal Policy in Latin America and the Caribbean: Stylized Facts since the 1960s」
(『宇都宮大学国際学部』研究論集 第 28 号 2009 年 10 月、1 項～11 項)

<この分野を知るために：基本的な文献紹介>

- ・Hillman, Richard S. and Thomas J. D' Agostino (2011) *Understanding Contemporary Latin America*, fourth ed., Boulder: Lynne Rienner Publishers Inc.
社会、政治、経済、文化、ジェンダー、教育、宗教などを歴史的根拠に依りながら、多角的に現代のラテンアメリカを捉えることにより、ラテンアメリカにおける問題を解りやすく紹介しており、入門者のテキストとして最適である。
- ・Skidmore, Thomas E. and Peter H. Smith (2010), *Modern Latin America*, seventh ed., New York: Oxford University Press.
20 世紀末までの現代ラテンアメリカの歴史（植民地時代、寡頭政治、輸出代替工業化、軍事政権、民主主義、新自由主義）を総合的に網羅しており、国家または地域別にその特徴を紹介している。
- ・Franko, Patrice, *The Puzzle of Latin American Economic Development* (2003), second ed., Rowman & Littlefield Publishers Inc.
経済学の理論が丁寧に説明されており、経済学の入門者にも読みやすく、米国の大学においてもテキストとして採用されている。



アジア比較地誌論演習

学問的特徴： アジア地誌の理解を基礎として、アジアにおける社会・文化事象の地域的多様性とその意義を考察する。地域間の比較考察にあたってアジア各地の地域研究の成果と地誌学・人文地理学の素養に依拠する部分が大きいため、それらの関連科目を積極的に履修しておくことが望ましい。また、隣接分野として文化人類学・民族誌学の視点も大いに参考となる。

キーワード： アジア・地誌・人文地理学・生活文化・地域的多様性

関連科目一覧：

(太字は卒業研究に特に関係の深い科目)

1 年次	地域研究論 比較文化論 (文化)	日本史概説 (文化) 人文地理学入門Ⅰ (基盤：佐々木史郎) 人文地理学入門Ⅱ (基盤：佐々木史郎) 西アジアの社会と文化 (基盤) 野外調査論 (基盤)
2 年次	アジア比較地誌論 (佐々木史郎) 東北アジア論 (佐々木史郎) 文化人類学 (文化) 東南アジア論／中東地域研究 東アジア社会史	国際社会論／近現代中国論 自然地理学／地域分析基礎論 韓国文化論 (文化)／中国文化論 (文化) 日韓文化交流史 (文化) 民族誌学
3 年次	地誌学概論 A／地誌学概論 B アジア比較地誌論演習 (佐々木史郎) 卒業研究準備演習 (佐々木史郎)	人口地理学／都市地理学 東洋史概説
4 年次	卒業研究 (佐々木史郎)	

卒業論文題目例：「風土がもたらす食文化の相違」(13 年度)

「南京事件をめぐる日本国内の主要論点について」(12 年度)

「日本人の『辛さ』の受容の変遷と韓国輸入食品との関わり」(11 年度)

「関東地方における郷土料理『しもつかれ』文化の分布」(11 年度)

「景観における色の嗜好の地域差について」(10 年度)

担当教員名：佐々木史郎（ささきしろう）

専門分野：人文地理学・韓国研究

人間活動の地域的展開のあり方を地理的諸条件との関係で考察しようとするのが人文地理学ですが、私はその中でも特に文化事象の地域的多様性に着目する文化地理学という分野を勉強しています。韓国・日本・中国東北部をはじめとした東アジアの生活文化、とりわけ住居形態や居住様式の地域性に関心があり、調査研究を続けています。



指導方針： 社会・文化双方に関わることの多い科目なので、できるだけ多様な関心、多角的な視点をもって対象に臨む姿勢を重視します。3年次の演習では、各自の関心に沿った専門文献の紹介や文献調査による課題研究を課しますが、文献の丹念な読み込み・整理とともに、学生間の討議の中からも、新たな着眼や研究のアイディアが得られるよう、積極的な質疑を促したいと思います。また、現地観察やインタビューも資料収集の重要な手段ですので、フィールドワークを伴った研究例をぜひ参照してほしいと思います。

主な執筆論文・文献：

『「もの」から見た朝鮮民俗文化』(分担執筆、新幹社、2003 年)

「韓国家における部屋の呼称の地方差について(Ⅱ)—主寝室の呼称にみる中部地方と嶺南地方の対比を中心として—」(宇都宮大学国際学部研究論集、第 34 号、2012 年)

「韓国家における複列型間取りの諸形式とその分布をめぐるいくつかの課題について」
(宇都宮大学国際学部研究論集、第 27 号、2009 年)

「第二次世界大戦以前の邦文文献にみる韓国家の地理学的研究の軌跡(Ⅲ)—1930 年代における日本人地理学者の調査活動を中心として—」(宇都宮大学国際学部研究論集、第 25 号、2008 年)

＜この分野を知るために：基本的な文献紹介＞

中川正・森正人・神田孝治『文化地理学ガイダンス』 ナカニシヤ出版 2006 年

衣食住、スポーツ、メディア、観光、店舗や商品など、ありふれた日常の風景の中からも、自分なりの研究テーマや研究のアイディアを見つけ出せると説く文化地理学の入門書。

佐藤基次郎『生活文化と土地柄—生活地理学序説』 大明堂 2000 年

日常生活の中の身近なことから、その地理的背景や分布のひろがりを通して見直すと、地理学研究の対象として深く・多様な意義をもつことがわかってきます。今となってはやや古風な筆致と映りますが、土地と人間の関係という地理学本来の関心を再認識させてくれる隠れた好著だと思います。

岡正雄・江上波夫・井上幸治監修『民族の世界史』(全 15 巻) 山川出版社 1983~1991 年

世界各地で展開してきた多様な民族文化が世界史にどのような足跡を印してきたかを知ることのできるシリーズ。政治・外交史や経済史とは別の視点からの論者が豊富。歴史学や民族学の関心にとどまらず、地誌的な関心にも多くの示唆をもって応えてくれます。



東南アジア論実習

学問的特徴： 社会学を中心に、フィールドワークをとおして、タイ、ベトナム、フィリピン、インドネシアなど、東南アジアの国々の社会・経済・政治の諸相と動態、日本との関係、国際協力などについて学ぶ。社会学に限らず、関心のある科目を積極的に履修することが望ましい。

キーワード： 社会学・フィールドワーク・東南アジア・国際関係・国際協力

関連科目一覧：

(太字は卒業研究に特に関係の深い科目)

1 年次	国際関係論／国際政治論 地球市民社会論 社会学入門 (基盤)	地域研究論 日本史概説 西洋史概説
2 年次	東南アジア論 (マリー) タイ都市社会論 (マリー) 国際経済論／国際社会論 グローバル・ガバナンス概論	地域社会論 I / II 途上国経済発展論 アジア比較地誌論 東北アジア論 国際協力論 I / II 現代日本社会論
3 年次	東南アジア論実習 (マリー) 卒業研究準備演習 (マリー)	東洋史概説 アジア近現代思想論 国際時事問題
4 年次	卒業研究 (マリー)	

卒業論文題目例：

- 「グリーン・ツーリズムと地域住民—岩手県遠野市の事例から」(12 年度)
- 「タイ農振地域における教育環境と学習意欲—シーサケット県プランクー中高一貫校を事例に—」(11 年度)
- 「タイにおける華人系学校の変容—広肇学校を事例に—」(10 年度)
- 「市町村合併と地域社会—青森県旧浪岡町を事例に—」(10 年度)
- 「タイの一村一品運動 (OTOP) と行政の役割—チェンマイ県の事例を通じた考察—」(07 年度)
- 「タイに暮らす日本人—海外子女から見た日本のグローバル化—」(05 年度)

担当教員名：MALEE KAEWMANOTHAM（まりー けおまの一たむ）



専門分野：社会学(地域社会学)

タイの地域住民組織について実証的に研究しています。工業化・都市化が進むタイでは地域格差が拡大し、さまざまな地域問題・都市問題が生じています。こうしたなかで、住民の権利と自治を保障する望ましい社会開発のあり方を考えています。

指導方針： 3年次の実習においては、東南アジアをフィールドとして、社会調査の実践的な能力を養成します。テーマの選択、仮説の構築、分析枠組の設定などの調査設計、タイでの現地調査、調査結果の分析、レポートの作成まで一連の作業を行います。そのためには、日頃から内外の社会問題への関心を深めるとともに、社会科学の基礎的な素養を身につけておくことが望まれます。現地調査を行ううえで、タイ語が多少なりともできるのが望ましいので、タイ語の履修をお勧めします（タイ語ができなくても受け入れます）。

主な執筆論文・文献：

「バンコクにおける地域社会開発政策の展開と地域住民組織」

（中田実・板倉達文・黒田由彦編『地域共同管理の現在』東信堂 1998年）

「バンコクのスラムにおける住民活動と地域リーダー——ヤーンナワー区チュムチョン・チャオプラヤーの事例」

（『宇都宮大学国際学部研究論集』第25号 2008年）

「バンコクのスラムにおける住宅問題と住民参加プロジェクト——「永住の家」のプログラムをめぐって」

（『宇都宮大学国際学部研究論集』第26号 2008年）

＜この分野を知るために：基本的な文献紹介＞

上智大学アジア文化研究所編『新版 入門 東南アジア研究』 めこん 1999年

「東南アジアに関心を持ち、この地域を一から学ぼうとする人たちのために編纂された」（はじめに）入門書であり、東南アジアに長期間暮らし、現地語を身につけた研究者によって書かれている。

北原淳編『東南アジアの社会学 家族・農村・都市』 世界思想社 1989年

「『東南アジア』の『社会』に関する平易な解説をめざした大学生向けの教科書、参考書」（はしがき）。社会学の立場から、フィリピン、インドネシア、タイの「家族・親族」「地域社会」の特徴や構造を明らかにしている。

鶴見良行『バナナと日本人 フィリピン農園と食卓のあいだ』 岩波新書 1982年

日本で多く売られているフィリピン産バナナを題材に、農園経営をめぐる多国籍企業の暗躍、農園労働者の貧苦、そして明治以来の日本と東南アジアとの歪んだ関係を鮮やかに描き出した名著。



情報ネットワーク概論実習

学問的特徴：インターネット等の情報ネットワークは、その構築・管理に係る情報工学的学問と、社会のインフラや国民の日常生活に係る社会学的学問という幾つもの側面があります。国際学部の学部生としては、後者である社会学的アプローチが適切かと思われませんが、そのために情報ネットワークの仕組みや基礎知識を身につけないといけません。その上に、自分の興味に応じて、コミュニケーション論、社会学、行政学、経済学等の関連科目を履修することが望ましいです。

キーワード：情報ネットワーク、コミュニケーション、行政、経済、地域社会

関連科目一覧：

(太字は卒業研究に特に関係の深い科目)

1 年次	情報処理基礎 (倪) 異文化間コミュニケーション	地球市民社会論
2 年次	情報処理 (倪) 情報ネットワーク概論 (倪) データベース入門 (倪) 行政学 統計学	行政法 I 行政法 II 地域社会論 I 地域社会論 II 国際コミュニケーション論 対人コミュニケーション論 経済学概論
3 年次	情報ネットワーク概論実習 卒業研究準備演習 (倪)	国際金融論
4 年次	卒業研究 (倪)	

卒業論文題目例：「クール・ジャパンの力」 (23 年度)

「インターネットセキュリティ」 (22 年度)

「電子マネーの現状と可能性」 (21 年度)

「中国の地場企業が IT 巨人に圧勝した要因分析」 (20 年度)

「仮想通貨が実体経済に与える影響について」 (18 年度)

担当教員名：倪永茂（にーよんも）

専門分野：情報学、情報工学

311 東日本大震災で見られたように、情報ネットワークが孤立した地域同士、個人同士、個人と地域を結びつく大変重要な存在になった。情報ネットワークに対する理論的検証と、情報セキュリティ等の社会的問題を中心に研究を行なっている。とくに、情報ネットワークによって作り出されたバーチャル空間の可能性と問題点について深い興味をもっています。



指導方針： 3年次の実習において、それまでに蓄積された情報ネットワークに対する基礎知識をフル動員して情報ネットワークの仕組みや特徴を一つ一つ確認していきます。基本的な管理の仕方、通信プロトコルに準じたアプリケーションの仕組みを理解してもらいます。また、情報の整理、情報の発信に必要な技術を学習し、身につけてもらいます。その後の卒業研究準備演習において、卒論のテーマを決め、先行研究の調べ方、モデルの立て方、論述展開の仕方、卒論の書き方等について習得します。

主な執筆論文・文献：

「Windows2000 環境で使う情報リテラシー」

（徳田・東海林・倪・永井 サイエンス社 2000 年）

「ボットネットに見る日中両国のインターネット事情」

（『宇都宮大学国際学部研究論集』第 24 号 2007 年）

「通信プロトコルにおけるチャネル有界性の検証法(3プロセス)」

（『宇都宮大学国際学部研究論集』第 35 号 2013 年）

＜この分野を知るために：基本的な文献紹介＞

伊東 乾 『絶対情報学』 講談社 2006 年

日常的に行なわれているコミュニケーションを情報学の視点から考察し、知的創造力に昇華させるための知識情報を整理分析し、ふだん見逃してしまいがちなことを研究対象と結びつける手がかりとして、活用すべき図書です。

Robert M. Baird 『Cyberethics: Social & Moral Issues in the Computer Age』 Prometheus 2000 年

情報ネットワーク社会を歴史的に、文明論的に考察し展望する古典です。知的とはなにか、人間関係とはなにか、プライバシーの本質とはなにか、民主主義の根幹とはなにかを深く洞察し、これから到来する情報ネットワーク社会のあり方を鋭く分析しています。情報ネットワークの社会に対する影響を考える上で重要な一冊といえます。

西井美鷹・神崎洋治 『体系的に学ぶインターネットセキュリティ』 日経 BP ソフトプレス 2008 年

インターネットやネットワークのしくみやセキュリティを豊富なイラストと写真を交えてわかりやすく解説している。様々なセキュリティの技術はもちろん、クラッキング、不正侵入、コンピュータウイルス、スパイウェア、ネット詐欺等のネット社会に潜む脅威への防衛策を紹介しています。



近現代中国論演習

学問的特徴：中国を中心にしながら、東アジア地域の国際政治について研究を進める演習である。

キーワード：中国の政治・外交、東アジア国際政治

関連科目一覧：

(太字は卒業研究に特に関係の深い科目)

1 年次	国際政治史（基盤） 国際政治論（松村）／国際関係論入門 中国語入門基礎／中国語入門	政治の世界（基盤）
2 年次	近現代中国論（松村） 中国語講読 ABC（松村）	中国文化論（文化） 日本の政治 国際機構論 学術英語講読
3 年次	国際時事問題（松村） 近現代中国論演習（松村） 卒業研究準備演習（松村） 中国語講読D	日米関係論 Japan's International Relations
4 年次	卒業研究（松村）	

卒業論文題目例：〔すべて 2013 年度提出予定論文です〕

「第二次世界大戦後の日本とドイツにおける戦争責任—アジア女性基金の活動を例に見る戦後補償政策—」

「米韓同盟と米華同盟の比較研究（1950 年代）」

「米中接近の史的考察（1970 年代）」

「1950 年代後半の日中関係断絶までの歩み」

担当教員名：松村 史紀（まつむら ふみのり）

専門分野：現代中国をめぐる国際政治

現代中国をめぐる国際政治の成り立ちを、歴史的に研究しています。国際社会は、大きな戦争を経て、平和の秩序づくりを進めてきました。では、現代の東アジア地域には、第二次世界大戦と冷戦という二つの戦争を経験して、どのような秩序が生まれているのでしょうか。このような問題を解き明かすために、中国、アメリカ合衆国、旧ソ連、日本などを含めた大国間政治の史的プロセスをたどっています。



指導方針：何よりも、三つの力をつけてもらうことが目標です。一つは、「知的関心」。できるだけ学問的な関心の幅を広げた上で、広い視野から卒業研究の対象を絞っていくことを重視します。できるだけ意味のある「できごと」を分析してもらいたいと思います。次に、「知的作業」。テーマ設定から論文作成までの知的作業の流れを会得できるよう頑張りましょう。特に重視したいのは、文献の読み込み方、レジュメ作りです。最後に、「外国語文献の講読」。日本語文献を中心にしつつも、英語か中国語で情報（新聞、論文など）を得られるよう心がけてもらいたいと思います。

主な執筆論文・文献：

- (1) 松村史紀『「大国中国」の崩壊—マーシャル・ミッションからアジア冷戦へ』勁草書房、2011年12月
- (2) 共編著『東アジアにおける二つの「戦後」』国際書院、2012年3月
- (3) 共編著『東アジア地域の立体像と中国』早稲田大学現代中国研究所、2011年5月
- (4) 共編著『20世紀満洲歴史事典』吉川弘文館、2012年11月
- (5) 松村史紀「二つの中ソ同盟の比較考察（1945-1950）」『アジア太平洋討究』第19号、2013年1月

＜この分野を知るために：基本的な文献紹介＞

毛里和子『現代中国政治（第三版）』名古屋大学出版会、2012年

現代中国政治に関して、総合的に解説した書籍。内容の構成が充実しており、論文の組み立て方を学ぶ上でも参考になる。

フランク・ディケーター（中川治子）『毛沢東の大飢饉』草思社、2011年

教科書の類ではないが、現代中国を考えるための必読書。1950年代末の「大躍進」運動が、じつに4500万人の死者を出したという衝撃的な内容。

Edward H. Carr, *Conditions of Peace*, (New York: The Macmillan Company), 1943

いま、東アジア国際政治は危機のなかにある。第二次大戦の勝者〔中国〕と敗者〔日本〕のいずれもが、相手の「現状変革」を非難する。ここに危機の根深さがある。では、勝者と敗者はどのような平和を構想できるのだろう。難題の水脈をたどるためにも、あらためて学ぶべき古典。



言語学演習

学問的特徴：言語学や比較文化論などを中心に、ことばの知識・獲得・使用について考察する。各学生の興味に応じて、外国語や日本語、コミュニケーション、各国文化論、歴史学、哲学・思想、社会学などの関連科目を履修することが望ましい。

キーワード：ことば・構造と機能・言語獲得・外国語・日本語・比較・コミュニケーション・経験科学

関連科目一覧：

(太字は卒業研究に特に関係の深い科目)

1 年次	言語学 (佐々木一隆) 比較文化論 国際英語コミュニケーション 異文化間コミュニケーション	イギリス文化論
2 年次	言語と音声 文化人類学 専門外国語科目：関連外国語の講読、会話、文章表現など 対照言語学 (佐々木一隆) 英語学特殊講義 A,B/日本語論 日本語教育 I, II/日本語教育方法論 対人コミュニケーション論 国際コミュニケーション論	日本語史 身体表現論 哲学概論 西洋現代思想 西洋史概説 アメリカ文化論 日本文化論 その他の文化論 国際社会論 日本史概説 A
3 年次	言語と認知科学 言語学演習 (佐々木一隆) 卒業研究準備演習 (佐々木一隆)	東洋史概説 日本史概説 B
4 年次	卒業研究 (佐々木一隆)	

卒業論文題目例：「統語の日英語比較：X-bar 理論とその関連理論」 (08 年度)

「英語とドイツ語との文法比較を歴史的観点から捉えなおす」 (10 年度)

「言語としてのインターネット：パラ言語としてのインターネットスラング」 (10 年度)

“Japanese Terms of Address: The Relation Between Culture and Business Communication” (10 年度)

「生成文法研究史」「英語の児童文学における文法と文体」「英語の変種」 (11 年度)

「日本語話者の英語学習における諸問題：言語類型論を中心として」 (12 年度)

「ユーモアと関連性理論：ジョークから落語・漫才まで」 (12 年度)

「母語獲得の第一歩としての二語発話：日英語の文法獲得に着目して」 (12 年度)

担当教員名：佐々木一隆（ささきかずたか）

専門分野：英語学・言語学

生成文法理論と呼ばれる言語理論に基づいて、主に英語と日本語の名詞句構造について研究しています。例えば、the excellent student と「その優秀な学生」は日英語ともに可能な表現ですが、日本語では「その物理が優秀な学生」とも言えるのに、英語では the excellent in physics student とは言えません。不思議です。私はこうした問題を中心に言語の諸問題に興味があり、その解明に取り組んでいます。



指導方針：3年次の演習では、言語学に関する英語の文献をしっかりと読み込む作業を重視します。この作業を通して、仮説を事実によって検証していくという経験科学の方法も体験します。言語研究には、理論と事実に関する知識、当該言語の運用能力、文化や社会背景を把握する能力が必要であり、基盤となる哲学も求められます。3年次までに、言語研究に深く関係する科目と関連科目を履修しておいてください。こうした科目の履修を前提に卒業研究準備演習と卒業研究が行われます。

主な執筆論文・文献：

“Derived Nominals and Grammatical Dynamism: A Comparative Syntax of English and Japanese,”
Studies in English Linguistics, The Taishukan Publishing Company, pp. 558-564, 1997.

『日本語学キーワード事典』（共著）、朝倉書店、1997年。

『大学生のための現代英文法』（共著）、開拓社、1999年。

“A Story of *Nearby*: A Morphological, Syntactico-Semantic, Discourse-Based, and Developmental Perspective,” *An Enterprise in the Cognitive Science of Language*, Hituzi Syobo Publishing, pp. 129-137, 2008.

「名詞の前位修飾について」『英語語法文法学会第21回大会予稿集』, pp. 96-103, 2013.

<この分野を知るために：基本的な文献紹介>

大津由紀雄ほか『言語研究入門：生成文法を学ぶ人のために』研究社 2002.

言語研究によるこころの解明への手引書。生成文法を分かりやすく解説している。

Akmajian, Adrian et al. *Linguistics: An Introduction to Language and Communication*. Fifth Edition.

The MIT Press. 2001. 言語の構造と機能について体系的に論じた定評のある入門書。

Chomsky, Noam. *Lectures on Government and Binding*. Foris Publications. 1981.

生成文法における統率・束縛の概念について、また、初期の原理とパラミターによるアプローチについて論じた本格的な専門書。

Quirk, Randolph et al. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. Longman. 1985.

包括的な英文法書。特定の言語理論に偏らずに、豊富な実例を示している点で定評がある。

Lakoff, George and Mark Johnson. *Metaphors We Live By*. The University of Chicago Press. 1980.

認知言語学の立場から、日常使われているメタファーなどの比喩を論じている。



日本語論演習

学問的特徴：日本語の文法論と語彙論を中心にとりあげる。それぞれの研究法に基づいて、おもに現代日本語（話しことば・書きことば）を分析するための調査方法をまなぶ。言語学関連の入門的授業をはじめ、調査対象とする言語の性質に応じて文化人類学や文学、日本語教育などの授業を履修しておくことが望ましい。また、基本的な統計学の授業も履修することが望ましい。

キーワード：現代日本語・古代日本語・地域語・文法・語彙・日本語と他言語との対照

関連科目一覧：

（太字は卒業研究に特に関係の深い科目）

1 年次	日本語の表記（基盤：高山） 日本文学（古典）（基盤：高山） 言語学 日本文化論（文学編） 日本文化論（歳時編）	日本文化 A, B 日本史概説
2 年次	日本語論（高山） 日本語史（高山） 民俗誌学 対照言語学 言語と音声	日本語教育 I 日本語教育 II 日本語教育方法論 統計学
3 年次	日本語論演習（高山） 卒業研究準備演習（高山）	言語と認知科学
4 年次	卒業研究（高山）	

卒業論文題目例：「助辞『は』の分類」（11 年度）

「現代のキャッチコピーにおける語用論的分析」（10 年度）

「現代における栃木方言の認識と使用実態—世代間調査を通して—」（09 年度）

「現代日本語における外来語の効用—コミュニケーション上の機能から—」（08 年度）

担当教員名：高山道代（たかやまみちよ）

※ 平成 26 年度はお休みいたします。

専門分野：日本語学

日本語は世界の言語のなかでどのような点で普遍性また独自性をもつかを、文法的視座にたった分析をとおしてとらえていきたいと考えています。また、その際には現代語だけでなく、その背景となる歴史的変容を視野に入れながら、体系的にとらえたいとかがえています。



指導方針： 3年次以降の演習ではテーマの設定、言語資料の調査、分析、発表、文章化などの作業をとおして日本語学の基礎的な研究法をまなびます。また、研究テーマと関わる基礎的な学術論文をよみ、自身でおこなった調査や分析との関係性について検討します。課題にそって研究をすすめる基本的な力や論文構成力などを身につけてほしいと思います。

主な執筆論文・文献：

- 「平安期日本語における動詞述語文の主語標示—ノ格とガ格のふるまいから」
（須田淳一・新居田純野偏『日本語形態の諸問題』2010年）
- 「主語表示の名詞ノと名詞ガ—源氏物語における用法から—」
（『対照言語学』第18号 2008年）
- 「『伊勢物語』におけるヒト名詞-ヲに関する一考察—主体との関わりから—」
（『外国文学』第57号 2008年）
- 「古代日本語のハダカ格における語と語の関係性—統語構造上の関係と意味上の関係—」
（『国語と国文学』第82巻11号 2005年）
- 「古代日本語のヲ格があらわす対格表示の機能について—ハダカ格との対照から—」
（『国文学解釈と鑑賞』70巻7号 2005年）

＜この分野を知るために：基本的な文献紹介＞

池上嘉彦『意味の世界—現代言語学から視る』日本放送出版協会 1978年

英語をはじめとした他言語との比較をとおして、日本語のことばの意味と認識のしかたとのかかわりについてかかれた入門書です。何気なくつかっている自身のことばの意味について考えるきっかけを与えてくれます。

小池清治『大学生のための日本文法』有精堂 1987年

人物列伝的に文法学説がとりあげられ、それぞれの学説の相違を考えながらよむことができます。大学生を対象にわかりやすくかかれています。

高橋太郎『日本語の文法』ひつじ書房 2005年

現代日本語の文法について体系的にかかれた教科書であり、研究書としても評価されている一冊です。問題をときながらよみすすめるように構成されており、文法現象についてふかく考えさせてくれます。



国際英語コミュニケーション演習

学問的特徴：英語は世界の様々な地域で使用されているため、地域ごとの音声特徴がある。この演習では代表的な英語の音声の特徴を、発音記号も駆使しながら学習する。受講に当たり、「言語と音声」を履修しているか、英語音声学に関する知識を持っていることが望ましい。

キーワード：英語・音声学・母音・子音・イントネーション・変種

関連科目一覧：

(太字は卒業研究に特に関係の深い科目)

1 年次	国際英語コミュニケーション (湯澤・モリソン)	
2 年次	言語と音声 (湯澤)	言語学 言語と認知科学 対照言語学 統計学
3 年次	国際英語コミュニケーション演習 (湯澤) 卒業研究準備演習 (湯澤)	言語学演習
4 年次	卒業研究 (湯澤)	

卒業論文題目例：「日本における英語科教育はどうあるべきか」(10 年度)

「日本人英語学習者の英語の発音について」(10 年度)

担当教員名：湯澤伸夫（ゆざわのぶお）

専門分野：英語音声学・音響音声学

英語音声の特徴を分節音とプロソディの両面から研究しています。
標準英音と標準米音の違い、地域変種、最近のイギリスの発音特徴、
英語教育に効果的な表記法、日本人英語学習者の英語発音の特徴、
音響分析などに関心があります。



指導方針： テキストを用いながら、世界で使用されている代表的な英語の音声を取り上げ、それぞれの特徴を
読んで理解するだけでなく、正確に知覚しできるだけ忠実に再現できることも重視します。発音記
号が正確に読め（英英辞典と英和辞典の発音記号の違いの理解も前提）、標準英音と標準米音の知
識があると、授業の理解が促進されます。

主な執筆論文・文献：

‘Perception of Secondary Stress in English Words: A Case of Native Speakers’

（『応用言語学と複合領域研究』，日本英語音声学会中部支部，2009 年）

‘An Acoustic Analysis of the Rise-Fall: A Case of Nonsense Utterances’

（『東北大学言語学論集』第 19 号，東北大学言語学研究会，2010 年）

「音声習得に影響を与える要因」

（富田かおる他編『リスニングとスピーキングの理論と実践—効果的な授業を目指して』大修館書店，
2011 年）

<この分野を知るために：基本的な文献紹介>

Melchers, G and Shaw, P. *World Englishes*. 2nd edition. Hodder Education. 2011.

世界で使用されている英語の特徴を知るための基本テキストで、音声はインターネットからダウンロードできる。最近の改訂により、内容の充実が増した。

Roach, P. *English Phonetics and Phonology: A Practical Course*. 4th edition. Cambridge University Press. 2009

英語音声学の基本知識を身に付けるための必読書で、英文は読みやすく、内容も分かりやすい。付属の CD はテキストの理解を助ける。

J. Wells. *Accents of English*. Cambridge University Press. 1982

世界の英語の音声を詳述したテキストで、音声表記も詳細で初学者には難しいかもしれないが、いろいろな英語の音声を勉強したい人には避けて通れない良書である。



対人コミュニケーション論実験

学問的特徴：心理学的な研究法に基づき、主に対面の対人コミュニケーションについて分析するための調査と実験のやり方について学ぶ。入門的な心理学関係科目と基礎的な情報処理能力を身に付け、統計学を履修しておくことが望ましい。言語学、比較文化論、文化人類学、哲学・思想関連科目を履修し、さらに、興味に応じて特定の分野に集中して履修してみるとよい。

キーワード：コミュニケーション・感情・表情・心理学・非言語

関連科目一覧：

(太字は卒業研究に特に関係の深い科目)

1 年次	言語学 人間関係の心理学 認知心理学入門（基盤：中村真）	比較文化論
2 年次	対人コミュニケーション論（中村真） 文化人類学 統計学 身体表現論	西洋現代思想 哲学概論 表象文化論 言語と音声 言語と認知科学 民族誌学 国際社会論（社会）
3 年次	対人コミュニケーション論実験（中村真） 卒業研究準備演習（中村真）	
4 年次	卒業研究（中村真）	

卒業論文題目例：「注目教示が顔の記憶に与える影響」（10 年度）

「面接場面における当惑感情が視線行動に及ぼす影響」（08 年度）

「身体的コミュニケーション行動が印象形成に及ぼす影響」（07 年度）

「大学生の感情表出：状況が及ぼす影響の日露比較」（05 年度）

「お辞儀が対人関係に及ぼす影響」（05 年度）

担当教員名：中村真（なかむらまこと）

専門分野：感情心理学

感情とコミュニケーションの心理学について研究しています。特に、顔や表情に焦点を当て、感情のコミュニケーションにおける表情と文脈の重要性、感情のあらわし方の文化差に興味を持っています。



指導方針： 3年次の実験においては、研究方法の基礎についてテキストを通して学ぶとともに、実際に調査や実験をやりながら、研究計画、実施、分析、まとめの作業を行います。この作業を通じて、自分自身で研究を実施するための基本を理解してもらいたいと思います。そのために、まずは共通教育で入門的な心理学関係科目を履修して基本的な用語などに慣れておくとい良いでしょう。情報処理の基本的なスキルはデータ処理やレポート作成に必須ですし、統計学は分析のために必要な考え方を学ぶことにつながります。

主な執筆論文・文献：

- 「顔と心ー顔の心理学入門」
（吉川・益谷・中村（編）サイエンス社 1993 年）
- 「人はなぜ笑うのかー笑いの精神生理学ー」
（志水・角辻・中村（著）講談社 1994 年）
- 「感情と発達」
（『感情心理学入門』大平（編）有斐閣 2010 年）

<この分野を知るために：基本的な文献紹介>

マリアン・ラフランス 『微笑みのたくらみ』 化学同人 2013 年

心理学を中心にした様々な分野における、笑顔に関する研究を網羅的に取り上げています。引用文献のリストも充実しており、研究のヒントを得るための情報源としても活用できる図書です。

大坊郁夫 『しぐさのコミュニケーション』 サイエンス社 1999 年

非言語的コミュニケーションをテーマにした心理学的研究を網羅的に取り上げている。この分野の全体像を知るのに役立つとともに、具体的な研究のイメージをつかむためにも有益です。

マルコ・イアコボーニ 『ミラーニューロンの発見』 早川書房 2011 年

他者への共感や自己意識の形成といったコミュニケーションの根本が、「物まね細胞」と呼ばれる脳細胞のネットワークによって支えられていることが分かってきた。新しい研究成果を分かりやすく解説しています。

比較文化論演習



学問的特徴： This seminar explores different topics in comparative culture studies by examining examples from Japanese and western cultures. By considering first the question of “What is Culture?” and understanding how and why we create social stereotypes based on our identity and perspective, students will get a deeper awareness of their own culture and sensitivity to the culture of others.

キーワード： 文化コミュニケーション・intercultural communication, ・cultural awareness, ・applied linguistics

関連科目一覧：

(太字は卒業研究に特に関係の深い科目)

1 年次	比較文化論 (ライマン)	イギリス文化論／イギリス文学史／アメリカ文化論 国際英語コミュニケーション 日本事情
2 年次	東西比較文化論 (ライマン)	芸術文化論／日本文化論 西洋現代思想／韓国文化論 中国文化論／ドイツ文化論 日欧比較文学論／ヨーロッパ思想構造論／翻訳文学論
3 年次	英語文章表現 A (ライマン) 英語文書表現 B (ライマン) 比較宗教論 (ライマン) 卒業研究準備演習 (ライマン)	東西比較文化論演習 対人コミュニケーション論実験 日米関係論
4 年次	卒業研究 (ライマン) 文化コミュニケーション研究 (ライマン)	

卒業論文題目例： Humor Differences between Japan and English Speaking Countries (January 2010)

A Cross-cultural Analysis of Relationship Building (January 2010)

南インドにおけるインカルチュレーション (January 2007)

Cross-cultural Comparison of Working Mothers (January 2007)

The Role of Shinto in Modern Society (January 2007)

担当教員名： Andrew Reimann (アンドリュー ライマン)

専門分野： 私の主な研究は社会言語学であり、中でも異文化コミュニケーションに重点をおいています。英語は世界共通語とされていますが、世界各国の多くの人々が様々な環境や文化を持っている中、コミュニケーションをとるには単に言語だけではなく、その背景になる環境や文化を理解した上で交流することが重要であります。この授業では世界の文化を比較し、人々の異なる価値観を理解するために、言語や宗教や歴史や社会や世界情勢を学びます。



指導方針： This course aims at addressing the need for more balanced and practical cultural learning in order to raise students' awareness levels and develop real intercultural communicative competence. Applying ethnographic research methods students are taught about how to explore and interact with other cultures locally. By approaching difference as a resource rather than as a barrier and by engaging in ethnographic research through observation, participation, interviews, surveys, interaction with others and reflection on discoveries, learners will develop their own world views as well as the skills they require to communicate.

主な執筆論文・文献：

Reimann, A. (2012). *Raising Cultural Awareness as part of EFL Teaching in Japan*, Lambert Academic Publishing GmbH, Saarbrücken, Germany. ISBN:978-3-659-18795-7

Reimann, A. (2012). *Ethnographic Encounters*, Critical Incidents for Raising Cultural Awareness. DTP Press, Tokyo, Japan. ISBN 978-4-86211-314-6

Reimann, A. Intercultural Communication and the essence of humour. *Journal of International Studies*, Utsunomiya University. Vol. 29, February 2010. (pp. 23-35).

Reimann, A. *Cultural Awareness Raising Tasks for the Classroom*. In Task-based Learning, A. Shehadeh & C. Coombe (eds.) TESOL, 2009.

<この分野を知るために：基本的な文献紹介>

Ruth Benedict. *The Chrysanthemum and the Sword* 1946

Edward T. Hall. *Beyond Culture* 1976 *Understanding Cultural Differences* 1993

James Spradley. *The Ethnographic Interview* 1979 *Participant Observation* 1980

The 3 authors listed provide examples of ground-breaking research and methodology in cultural studies. Each title helps develop perspective and an understanding of how to view cultures objectively.



日欧比較文学論演習

学問的特徴：比較文学的手法にもとづき、日本とヨーロッパの文学を、その背景となる文化、社会、思想、芸術を視野におきつつ、その相違点、共通点および影響関係を探ることによって、各々の文学の本質をより明らかにする。各学生の興味に応じて、特定の文学および文学ジャンル、また特定の諸分野を、自身の研究に有機的に関連づけられるよう、履修しておくことが望ましい。

キーワード：比較文学・日本文学・ヨーロッパ文学

関連科目一覧：

(太字は卒業研究に特に関係の深い科目)

1 年次	比較文化論 イギリス文化論	西洋史概説 日本史概説
2 年次	イギリス文学史 (市川) 日欧比較文学論 (市川) 芸術文化論 日本文化論 フランス文化論 アメリカ文学史	キリスト教文化論 東西比較文化論 表象文化論 ヨーロッパ思想構造論 西洋現代思想
3 年次	卒業研究準備演習 (市川)	ヨーロッパの歴史と文化 日本思想史 比較児童文学論
4 年次	卒業研究 (市川)	

卒業論文題目例：「ハムレットはなぜ復讐を遂行することが出来ないのか」(12 年度)

「マザーグースの訳者の比較研究」(10 年度)

「ペロー童話における『教訓』とその効果」(09 年度)

「『リア王』における狂気に関する考察」(09 年度)

「日本近代文学におけるハムレット像」(06 年度)

担当教員名：市川裕見子（いちかわゆみこ）

専門分野：比較文学

主に近代のイギリスおよびフランスの文学と、その影響を大きく受けた、日本の明治時代以降の近・現代文学を扱っており、比較文学的手法を用いながら、それらの特質およびあり方を探求しています。



指導方針： まず、文学作品とは言語を媒介とした芸術作品です。と同時に、自然、人間、社会のありとあらゆる事象についての、虚構の形をとった言説でもあります。これらをより深く理解するため、比較文学的手法を用い、また他時代、他言語圏の文学作品、批評、先行研究を照らし合わせることによって、その特質を浮かび上がらせてゆくこととします。演習においては、この目的に沿って各自が興味をもった作品、テーマを選び、研究成果を口頭発表してもらいます。その後他のゼミ・メンバーおよび教官との質疑応答、ディスカッションを経て、成果をさらに練り上げ、発展させてゆきます。

主な執筆論文・文献：

「『舞踏会』—芥川とロチを繋ぐもの」

（富田仁編『滅びと異郷のテーマ』 思文閣出版 1994 年）

「作家の子の一記録—有吉玉青『身代わり』の場合」

（大澤吉博編『テキストの発見』 中央公論社 1994 年）

「スタンダードとシェイクスピア その二 シェイクスピアとの関わり II. 青年時代」

（『宇都宮大学国際学部研究論集』 第 17 号 2004 年）

「三島由紀夫『朱雀家の滅亡』ジェンダーの観点から」

（増田裕美子編『日本文学の「女性性」』 思文閣出版 2011 年）

<この分野を知るために：基本的な文献紹介>

比較文学はまだ新しい学問分野で、歴史的に浅いこともあって、この学問ジャンルを知るための、皆さんにおすすめできる包括的かつ概括的な、適切な教科書がまだ見つかりません。むしろ個々の文学作品や文学ジャンルを比較文学的手法で解析したすぐれた研究書は少なからず出ていますので、それらについては、授業、演習の中で随時紹介したいと思います。

ある意味で不完全な入門書を読むよりも、既存の各国文学史について書かれた書物などを読み、流れを把握したり重要な作品を知ったりし、また特定の文学論や批評を読んで文学に対する見方を知る。そしてなによりもまずは、すぐれた文学作品と虚心坦懐に向き合い、味読し、想念をめぐらすことをおすすめします。



翻訳文学演習

学問的特徴：テキストとイメージを中心に、私達はどのようなふうに意味を生産するのかを考際する。各学生の解釈も含めて、文化とメディアによって、アイデンティティーの構築方針を見てみましょう。

キーワード：to signify • representation • identity • image • gender • power • ideology

関連科目一覧：

(太字は卒業研究に特に関係の深い科目)

1 年次	国際英語国際コミュニケーション (モリソン・湯澤) 日本事情 (モリソン)	イギリス文化論 イギリス文学史 アメリカ文化論 比較文化論
2 年次	翻訳文学論 (モリソン) ジェンダー論	芸術文化論 日本文化論 西洋現代思想 韓国文化論 中国文化論 ドイツ文化論 日欧比較文学論 ヨーロッパ思想構造論
3 年次	英語文章表現 A (モリソン) 英語文章表現 B (モリソン) 翻訳文学論演習 (モリソン) 卒業研究準備演習 (モリソン)	比較宗教文化論 対人コミュニケーション論実験 日米関係論
4 年次	卒業研究 (モリソン)	

卒業論文題目例：

担当教員名： モリソン・バーバラ

専門分野： 翻訳文学論

修士は日本文学で博士が英文学を専門とした私は、カルチュラル・スタディーズについて研究しています。テキストとイメージ、カルチュラルリタリシー、ジェンダーとアイデンティティ。こういうキーワードを授業でよく使います。



指導方針： 3年次においては、カルチュラル・スタディーズの基礎についてテキストを通じて学ぶとともに、文学、メディア、芸術、ポピュラー・カルチャーにおいて学生の興味がある所を研究します。論文は、映画でも、イメージとテキスト、つまりメディア／イメージの生産を検討するものが望ましい。日本語と英語で研究しますので、英語の読解力を備えておくことも必要です。

主な執筆論文・文献：

Lines of Force: Finding One's Place in Shiga Naoya's *A Dark Night's Passing*

(線の力: 志賀直哉の『暗夜行路』)(宇都宮大学外国文学研究会 28号 2009年)

Refiguring Kristeva and Irigaray in the Buddhist Intellectual Tradition

(宇都宮大学外国文学研究会 58号 2009年)

Feminist Theory and the Practice of Female Genital Mutilation (FGM) Written for the Opening Anniversary of the Center for the Multicultural Public Sphere (CMPS)

(フェミニスト理論と女性性器切除: 多文化公共圏センター記念日を認めている為)

(宇都宮大学外国文学研究会 26号 2008年)

Assessing James Joyce (宇都宮大学外国文学研究会 57号 2008年)

Scenes of Salvation: Rhetorical Strategies and Representations of Self Between Christian and Buddhist Epistemes

(救の現場: キリスト教と仏教思想に表れる人間の本性) (宇都宮大学外国文学研究会 25号 2008年)

<この分野を知るために：基本的な文献紹介>

『越境する日本文学研究 カノン形成・ジェンダー・メディア』 New Horizons in Japanese Literary Studies: Canon Formation, Gender and Media. Edited with Introduction by Haruo Shirane.

(ハルオ・シラネ) 2009 年

現在考えられる最高の研究者たちによって書かれた文学（日本）の文学批評です。日本語と英語両方とも書いてあり、研究書としても多くの新しい論点を含んでいます。

バトラー・ジュディス（竹村和子訳）『ジェンダー・トラブル』 青土社 1999 年

学生にとって挑戦です！この本を読んでいると人生の重要な変更が行われると思う。

Representation: Cultural Representations and Signifying Practices. Edited by Stuart Hall. Sage Publications 2003 年

授業でよく使われているカルチュラル・スタディーズの専門性の高い研究書です。学生のため書かれた本です。



表象文化論演習

学問的特徴：表象文化論は人間の営みにおける様々な表現を扱う学問です。文学や芸術などの学問領域に収まらない事象、たとえば映画やファッションなども対象とし、方法論も合わせて創造的に考えていこうとするものです。その一方で、文学や芸術など歴史の深い学問は、表象文化論にとって重要な基礎となっていますし、社会と表現の関係に対する視点も役立ちます。履修にあたっては文学や芸術、文化論はもちろん、一見関係ないような領域にもチャレンジしてほしいと思います。

キーワード： 文化、芸術、文学

関連科目一覧：

(太字は卒業研究に特に関係の深い科目)

1 年次	イギリス文化論 比較文化論	西洋史概説 日本史概説
2 年次	表象文化論 芸術文化論 ロシア文学 日本文化論 アメリカ文化論 フランス文化論 東西比較文化論 日欧比較文学論	ヨーロッパ思想構造論 西洋現代思想 翻訳文学論 キリスト教文化論
3 年次	卒業研究準備演習（大野）	比較思想論
4 年次	卒業研究（大野）	

卒業論文題目例：

担当教員名：大野 斉子（おおのときこ）

専門分野：表象文化論、ロシア文学、ロシア・フランス比較文化

ロシアを中心に、フランスとの比較の視点を取り入れながら文化、文学の研究を行っています。メディア、香水、ファッション、宮廷文化などを題材とし、表象の中に時代や社会の変化を探ることを目指しています。



指導方針： 表象文化論は扱う対象の幅が広く、それだけにテーマを探すにあたって一人一人が、自分の興味や疑問を追求する姿勢が求められます。授業では表象文化論とはどのようなものかを紹介しつつ、自分の考えを文章にまとめる技術について学びます。英語やそれ以外の外国語の力や、文化・芸術以外の領域の知識は、必須ではありませんが備えておくとい良いでしょう。

主な執筆論文・文献：

「1840年代のロシアの木版画」

（『ロシア語ロシア文学研究』第33号 日本ロシア文学会 2001年）

「女帝の身体」

（『ロシア18世紀論集』第3号 東京大学大学院人文社会系研究科スラヴ語スラヴ文学研究室 2006年）

「黎明期のロシア映画産業とハンジョンコフ社の活動」

（『SLAVISTIKA』第23号 東京大学大学院人文社会系研究科スラヴ語スラヴ文学研究室 2007年）

＜この分野を知るために：基本的な文献紹介＞

文化・芸術・文化の多様性と面白さを教えてくれる本として、以下の2冊を紹介します。

多木 浩二『眼の隠喩—視線の現象学』（ちくま学芸文庫、2008年）

表現や事象をいかに読み解くか？この本で示された方法と思考の深さは、表象文化論だけでなく、学問の面白さを教えてくれます。論文集なので、興味のある個所を読むだけでも十分楽しめます。

高山 宏『近代文化史入門 超英文学講義』（講談社学術文庫、2007年）

文学がどれほど多様な文化領域とつながっているかを教えてくれる啓発的な本です。博学に裏打ちされた視点の独創性と、文化の水脈を掘りあてる楽しさに触れてください。



ドイツ文化論演習

学問的特徴：

ドイツとドイツ語圏（オーストリア、スイス等）に関する文化、歴史、社会とヨーロッパの思想構造（ものの考え方）に関して多様なテーマを調査追究します。これら人文諸科学は数学のように法則・原理の公式があるものではなく、従って「文化・思想とは何か？」という問いに対する答えも一様ではありません。歴史における精神構造と社会構造との一接点に現代に通じる生きた「思想」とその原理を分析する営為に新しい発見があることがこの学問の価値であり、特徴であり、面白さです。

キーワード：ヨーロッパ、アジア、文学、哲学、思想、宗教、自然権、啓蒙主義、科学

関連科目一覧：

（太字は卒業研究に特に関係の深い科目）

1 年次	ドイツ語基礎Ⅰ、Ⅱ ドイツ語基礎Ⅲ、Ⅳ（渡邊） 文化人類学	国際関係論 西洋史概説 異文化間コミュニケーション
2 年次	ドイツ語講読 A・B・C・D（渡邊） ドイツ文化論（渡邊） ドイツ語会話 ドイツ語文章表現 表象文化論・比較文化論 国際経済論（社会）	ドイツ語応用Ⅰ・Ⅱ（渡邊） フランス文化論 イギリス文化論 西洋現代思想 国際法（社会） 中東地域研究（社会）
3 年次	ドイツ語講読（渡邊） ヨーロッパ思想構造論（渡邊） ドイツ文化論演習（渡邊） 卒業研究準備演習（渡邊）	アジア近現代思想論 アメリカの経済と社会（社会） 東アジア社会史（社会） 近現代中国論（社会） 国際政治論
4 年次	卒業研究（渡邊）	

卒業論文題目例：チェコの宗教と民族意識（2012）、M. エンデ・ファンタジー考（2013）
日本の食糧廃棄問題と今後の展望（2013）、宇都宮大学国際学部の教育について（2013）等

担当教員名：渡邊直樹（わたなべなおき）

専門分野：ドイツ文化・思想

ドイツ近代の精神、レッシング、ゲーテ、カント、ヘーゲル、ウェーバー等には現代に通じる思想とエネルギーの根源があります。日本の近代化は良しにつけ悪しきにつけヨーロッパを模範としています。この意味で、現在 EU の牽引車でもあるドイツを中心とするヨーロッパの歴史・社会・文化・芸術・思想を知ることは、日本を知ることでもあり、まだまだ豊かな「知」の宝庫を訪ねることでもあるのです。



指導方針：現在、グローバル人材の要諦としての外国語、課題発見・解決、コミュニケーション能力が要求されています。ドイツ語圏・ヨーロッパと日本との比較において Critical Thinking、Logical Thinking、Presentation、Discussion を通して、文化・社会・歴史・人間精神について新しい知の発見とものの考え方・見方を追究します。単なる知識修得ではなく「考える」ことの意味と訓練を行いたいと思います。

主な執筆論文・文献：

「レッシング 一啓蒙精神の文芸と批評」（渡邊直樹著、同学社 2002 年）

「Goethe und Friedrich der Grosse 一Über den „nationalen Gehalt“ der deutschen Literatur」『ゲーテ年鑑第 XLVL』（第 46 巻）2003 年

「モーゼス・メンデルスゾーンのユダヤ啓蒙主義 一人間の権利と宗教的権力との対立」（慶應義塾大学『藝文研究』第 91 号 2006 年）

「ケンペルと 18 世紀ベルリンの啓蒙主義者ドームとの思想史的連関についての研究」（科学研究補助金「挑戦的萌芽研究」（2007-2009）報告書 2010 年）

基本文献の紹介

○ 浜本隆志、柳原初樹著 『最新ドイツ事情を知るための 50 章』（明石書店） 2012.
本書は最新のドイツについて一通りの情報を掲載しています。好きなところも嫌いなところもわかる本です。

○ ヨーロッパ史入門（全 10 冊）、岩波書店 2004 年～

本書はヨーロッパ史の専門家による著書の翻訳です。簡潔かつ分かりやすい解説書です。

○ バンジャマン・アンジェル、ジャック・ラフィット著 田中俊郎監修 「ヨーロッパ統合 一歴史的大実験の展望」（知の再発見双書 122） 創元社 2005.

EU 成立の歴史から現状について問題点を含めた入門的解説書として紹介します。

○ ロバート・クーパー（北沢 格訳）「国家の崩壊」日本経済新聞社 2008 年

本書は、グローバル社会とは何か、の基本課題を知るための入門書として紹介します。



民族誌学演習

学問的特徴：民族誌は文化人類学のフィールドワークの報告書です。民族誌は対象社会に長期に住み込み、現地語から始めて、対象文化を理解することから出発します。この演習ではゼミ生が関心をもつ文化の資料を収集し、問題設定をし、実現可能な調査を立案することを目指します。

キーワード：文化人類学・民族誌・文化相対主義・参与観察

関連科目一覧：

(太字は卒業研究に特に関係の深い科目)

1 年次	異文化間コミュニケーション／文化人類学 (柄木田)／ 文化人類学入門 (基盤：柄木田)／ 民族誌入門 (基盤：柄木田)	地域研究概説 西洋史概説 日本史概説
2 年次	民族誌学	アジア比較地誌学 東アジア社会論，東アジア社会史，アフリカ論，中東地域研究
3 年次	卒業研究準備演習(柄木田)	
4 年次	卒業研究(柄木田)	

卒業論文題目例：「インディオ文化の変容-」(09年度)

「祭りのイベント化に関する考察」(09 年度)

「妖怪の場所性の変化ーネットワーク社会への変遷と共にー」(08 年度)

「居住地域の故郷化にむけてー故郷喪失論の精察と居住地域の現状の把握」(08 年度)

担当教員名：柄木田康之（からきたやすゆき）

専門分野：文化人類学

文化人類学は異文化理解のための学問です。人類学者は、個々の文化の価値は独自であるとする文化相対主義と、長期の住み込み調査＝参与観察法というフィールドワークの方法で異文化を理解します。



指導方針：文化人類学の立場から第三世界の社会文化変容に関連する諸問題を検討します。この授業では植民地主義、ジェンダー、エスニシティ、地域共同体と世界システムの接合等の今日的テーマを選択し、各自文献・フィールド調査を行い、問題意識を発展させることを目標とします。参加者は自ら自由なテーマを選択し、口頭発表を行い、最終的にレポートを執筆します。レポート執筆までの過程で、テーマの選択、大学・公共図書館の利用、文献リストの作成、研究ノート作成、配布資料・発表スライドの作成、口頭発表、議論、レポートの執筆を経験します。また文献研究を超えてフィールドワークにもとづく研究を歓迎します。

主な執筆論文・文献：

「ヤップ離島の土地獲得戦略における階層関係の持続と変容」

（塩田光喜編『島々と階層―太平洋島嶼国における近代と不平等』アジア経済研究所 2002 年）

『ミクロネシアを知るための 58 章』

（共著 明石書店 2005 年）

『環境と資源利用の人類学―西太平洋諸島の生活と文化―』

（共著 明石書店 2007 年）

「国家と文化的アイデンティティ」

（吉岡政徳監修『オセアニア学』京都大学出版会 2009 年）

<この分野を知るために：基本的な文献紹介>

ジェームス・ピーコック『人類学と人類学者』岩波書店 1988 年

（再版『人類学とは何か』同時代ライブラリー 岩波書店 1993 年）

個別の地域文化社会の自らの体験にもとづく理解と、人類社会全体の文化の比較研究という、相反する人類学の魅力を巧みに伝える人類学案内。

トーマス・エリクセン『人類学とは何か』世界思想社 2009 年

互酬性、親族、自然、思想、アイデンティティなどの伝統的人類学のテーマを通じて文化、社会、比較という人文社会科学の中心概念を精査する奥深い人類学入門書。

小田亮『構造主義のフィールド』世界思想社 1994 年

タブー、互酬性、政治組織、神話という構造主義の伝統的テーマから近代家族、国民国家、文化相対主義の今日的意味を問うフランス構造主義にもとづく人類学入門書。



日本文化論演習

学問的特徴：日本文化に関して伝統の継承と断絶、西洋受容による近代化の影響という視点から文献講読と実技体験を通して考察する。他者への日本文化発信を想定した実習的内容の比重が高い演習である。卒業研究への前提として、1、2 年次の関連科目で、文献と図像資料による講義内容を理解し、自ら考察してレポートをまとめる基礎能力を身につけていることを必要とする。

キーワード：伝統・近代化・西洋受容・生活文化・文化発信

関連科目一覧：

(太字は卒業研究に特に関係の深い科目)

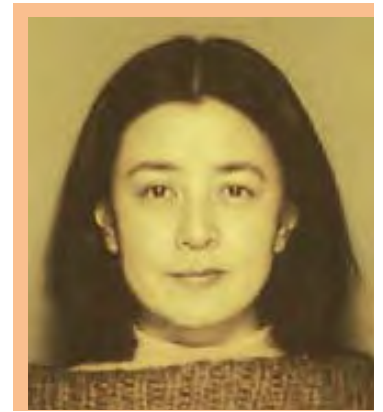
1 年次	日本文化 A (基盤：松井) 日本文化 B (基盤：松井)	歴史と文化、歴史と民族 日本史概説、東洋思想
2 年次	日本文化論 (文学編) (松井) 日本文化論 (歳時編) (松井)	各国を対象とした文化論の科目 東西比較文化論
3 年次	日本文化論演習 (松井) 卒業研究準備演習 (松井)	日本思想史 アジア近現代思想論
4 年次	卒業研究 (松井)	

卒業論文題目例：「花札研究—江戸庶民の中に生きる日本文化の表象を考察する」 (06 年度)
「純愛小説の定義—片山恭一、市川拓司、松久淳・田中渉の作品から考える」 (06 年度)
「芋銭の見た牛久沼」 (06 年度)
「青森市の観光とねぶた祭り」 (07 年度)
「現代日本人と民族衣装としての和服—日本人と和服のこれから」 (09 年度)
「海外における日本文化の戦略」 (13 年度予定)
「日本文化における間」 (13 年度予定)
「日本の歳時のルーツと変遷」 (13 年度予定)

担当教員名：教員名：松井貴子（まついたかこ）

専門分野：比較文学比較文化・日本近代文学・日本文化

西洋受容による日本文学の近代化について、西洋美術の影響という視点から、俳句の詩学をテーマとして研究しています。様々なジャンルを横断して見出される日本文化と他文化との異質性と同質性に関心を持っています。



指導方針： 基盤科目と3年次の演習では、実習を取り入れて日本文化を体験的に学びます。文献資料や図像資料を調査、解釈し、考察して文章にまとめるのを、基礎的には1、2年次から身につけて下さい。後期の準備演習と4年次の卒業研究において、受講生各自のテーマに応じた論文作成を指導します。必要な資料調査を十分に行うこと、資料に基づいて自分で考えること、他人の考えと自分の考えを峻別して表現すること、他人に読んでもらうための文章を書くこと、これらは、論文作成に不可欠であると同時に、社会に出てからも必要かつ有用なことです。

主な執筆論文・文献：

- 『写生の変容—フォンタネージから子規、そして直哉へ』（明治書院 2002年、第7回比較文学会賞受賞）
「正岡子規のジャンル意識—西洋受容と写生論構築」（『文学』岩波書店 2008年7-8月）
「俳句の特質と季節認識—多文化への発信」（2010世界日本語教育大会「多文化の中の日本語教育と日本研究」論文集 台湾国立政治大学外国語文学院編 大新書局 2010年）
「俳人としてのチェコ人大学生—チェコ共和国パラツキー大学での俳句講義と句会」（『宇都宮大学国際学部研究論集』30号 宇都宮大学国際学部 2010年）
「ハワイの冬の俳句」（『宇都宮大学国際学部研究論集』33号 宇都宮大学国際学部 2012年）
『俳句』試訳—アメリカ発俳句入門（『外国文学』61号 宇都宮大学外国文学研究会 2012年）

<この分野を知るために：基本的な文献紹介>

尾崎秀樹『日本と日本人—近代百年の生活史』 講談社 1975年

幕末明治から太平洋戦争後までの日本が概観されており、時代認識を形成することができる。

国学院大学日本文化研究所編『近代化と日本人の生活』 同朋舎出版 1994年

日本の近代化による変化について、身体・共同体・都市・国家など広い視野から論じられている。

石川実・井上忠司編『生活文化を学ぶ人のために』 世界思想社 1998年

文化研究の入門書で、日本文化について考えるための視点や方法について知ることができる。

菅原正子『日本人の生活文化 くらし・儀式・行事』 吉川弘文館 2008年

近代化以前の日本文化について、中世を中心として、現代との共通点、相違点を考察し、年中行事の起源についても言及している。



中国文化論演習

学問的特徴：歴史や思想、宗教、言語、文学など人文諸学の観点から、中国の文化の様態やその背景となっている中国社会の構造を考察する。履修にあたっては、社会学科開設の東アジアの地域研究に関する科目のほか、日本を含めた他地域に関する歴史、哲学・思想、人類学などに関する科目を受講することが望ましい。また、中国語の学習は必須である。

キーワード：東アジア・中国・華人社会・香港・台湾・歴史・思想・宗教・伝統・近代化・博物館

関連科目一覧：

(太字は卒業研究に特に関係の深い科目)

1 年次	言語学／比較文化論 地域研究論	地球市民社会論／国際関係論 国際法／国際政治論
2 年次	文化人類学／芸術文化論／東北アジア論 中国文化論（松金）／アジア比較地誌論 東南アジア論／近現代中国論 中国語会話（松金） 中国語講読 A／中国語講読 B 外国語臨地演習（中国語）（松金）	日本文化論／韓国文化論 西洋現代思想／哲学概論 ヨーロッパの歴史と文化 ヨーロッパ思想構造論 東西比較文化論／民族誌学 日本史概説 A／西洋史概説
3 年次	アジア近現代思想論（松金） 東洋史概説（松金）／中国語文章表現 中国語講読 C／中国語講読 D（松金） 中国文化論演習（松金） 卒業研究準備演習（松金）	日本思想史 日本史概説 B
4 年次	卒業研究（松金）	

卒業論文題目例：「『台北歌壇』－短歌を読み続ける台湾の人々」（03 年度）

「中国文学からみる美－清朝文言小説『聊斎志異』より」（03 年度）

「宮古・八重山における台湾からの移住者」（05 年度）

「現代日本における『三国志』表象」（06 年度）

「政策と現場の乖離から見る『攻めの農政』－台湾国際食品見本市を事例として」（07 年度）

「台湾における『日本』の保存－歴史的町並みとしての日本式家屋保存」（08 年度）

「植民地台湾における帝国日本と『うた』」（09 年度）

「東アジアにおける近代女性像の形成」（10 年度）

「現代社会における『日の丸』の多様化－スポーツマンガの分析を通して」（11 年度）

「植民地台湾における学校登山の意義」（12 年度）

担当教員名：松金公正（まつかねきみまさ）

専門分野：東洋史・中国宗教社会史・植民地史

東アジアにおける仏教の接触、交渉、変容過程について、異文化接触、植民地と近代といった視角から、とくに中国南部・台湾をフィールドとして研究しています。



指導方針： 日本にとって近くて遠い東アジアについて、簡単に表面だけを理解しようとせず、異文化としての視点から、分かりにくいのが当たり前と考え、ゆっくり粘り強く、少しずつでも自分の力で解明していくことを愉しんで欲しいと思います。そのためには、第三者からの伝聞による中国理解を脱する必要があり、ぜひ臨地演習や交換留学などを利用して、自分の眼で中国に触れてください。ただ、現地調査は、正確な文献読解と史料批判に基づいた上で獲得された知識の基礎に立ってこそ、意義深いものとなるので、1－2年の間に中国語力を高め、歴史・地理、哲学・思想、政治・社会など、興味と符合する科目を履修し、外国理解の基礎的知識や方法論を獲得しておいてください。

主な執筆論文・文献：

「植民地時期日本佛教對於臺灣佛教近代化的追求與摸索－以曹洞宗立學校為例－」(中国語)

(『臺灣文獻』55-3 國史館臺灣文獻館 2004 年)

「真宗大谷派台北別院の『戦後』－台湾における日本仏教イメージ形成に関する一考察－」

(五十嵐真子・三尾裕子編『戦後台湾における〈日本〉－植民地経験の連続・変貌・利用－』風響社 2006 年)

「植民地期における日本仏教による台南地域への布教」

(崔吉城・原田環編『植民地の朝鮮と台湾－歴史・文化人類学的研究－』第一書房 2007 年)

「台北故宮と『中華』との距離－『建院 70 周年』と『建院 80 周年』との間の連続性と非連続性－」

(沼崎一郎・佐藤幸人編『交錯する台湾社会』アジア経済研究所 2012 年)

＜この分野を知るために：基本的な文献紹介＞

家近亮子ほか編『5 分野から読み解く 現代中国』 晃洋書房 2005 年

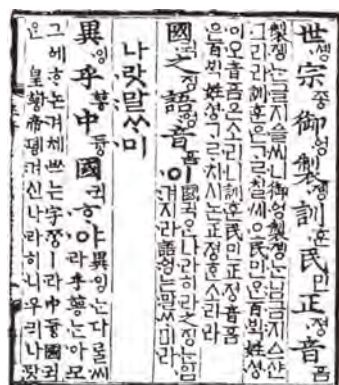
新進気鋭の中国研究者が、現代中国の現状や研究状況に関し、歴史、政治、経済、社会、外交の 5 分野を中心に紹介した書物。中国の基礎的情報を知るための必読書であり、中国に興味があるが、まだ、どのような分野について研究するか、焦点が定まっていない人はぜひ読んでみてください。

上田信『伝統中国－〈盆地〉〈宗族〉にみる明清時代－』 講談社 1995 年

族譜や故事など民間の資料を駆使し、漢民族がいかに中国の伝統を形成していったのか、という点を論じた中国「伝統」社会を考える書物。「中国ってなんだか古そう・・・」と思っている人が読めば、その具体的な事例の面白さと、その事例を読み解く難しさに触れることができるはず

若林正文『台湾－変容し躊躇するアイデンティティ－』 筑摩書房（ちくま新書 318） 2001 年

植民地以後の台湾の歴史を中国との関係や台湾アイデンティティの形成を軸に論じた概説書。中華世界と日本とのかかわりを考えるための必読書です。



韓国文化論演習

学問的特徴：比較文化的な視点から韓国の文化と社会を考察する。韓国の文化と社会を知る上で基本となる言語を履修することが望ましい。さらに韓国社会が長年育んできた美意識や自然観、死生観、世界観といった文化への理解を深めるために文学や歴史学、哲学・思想、文学人類学、美学、地理学などの関連科目を履修することが望ましい。

キーワード：恨（ハン）と情（ジョン）・上昇志向・ハングル・デフォルメの美・両班精神

関連科目一覧：

（太字は卒業研究に特に関係の深い科目）

1 年次	韓国文学 （基盤：丁） 比較文学 （基盤：丁） 朝鮮語Ⅲ・Ⅳ （丁）	比較文化論 文化人類学 異文化間コミュニケーション
2 年次	韓国文化論 （丁） 日韓文化交流史 （丁） 朝鮮語購読(A)(C)	中国文化論 東西比較文化論 日本文化論 東北アジア論 東アジア社会史／東アジア社会論
3 年次	朝鮮語購読(B)(D) （丁） 韓国文化論演習 （丁） 卒業研究準備演習 （丁）	
4 年次	卒業研究 （丁）	

卒業論文題目例：植民地期朝鮮の日本語教育—「国語」としての日本語（13年度）

日本と韓国の若者文化の比較—日韓共同制作ドラマ『friends』（13年度）

清溪川復元がもたらしたもの—自然と文化の再生（13年度）

大学受験から見る日韓学歴社会の比較—ドラマ「ドラゴン桜」と「勉強の神」（13年度）

現代日本社会と外国人—「在日」のアイデンティティの在り方をめぐって（13年度）

キリスト教はなぜ韓国でひろまったのか—日本との比較から（13年度）

担当教員名：丁貴連（チョン・キリョン）

専門分野：比較文学比較文化

比較文学比較文化について研究しています。とりわけ、ヨーロッパ文学の影響を強く受けた日本の近代文学が、韓国や中国、台湾といった東アジア地域の近代文学に及ぼした影響関係の解明を行っています。



指導方針： 3年次の演習においては、韓国社会が長年育んできた文化や歴史、政治、文学、美意識に関する文献（専門書、新聞雑誌、学術論文など）を調べる作業を行います。それらの作業を通して韓国文化の特質をつかめますが、その際に日本や中国、欧米といった他文化との比較を通して韓国文化の特質を浮き彫りにするのが求められます。

主な執筆論文・文献：

著書：『媒介者としての国木田独歩—ヨーロッパから日本、そして朝鮮へ』（翰林書房、2014年）

論文：「新女性」の愛と性、そして「恋愛至上主義」—有島武郎『石にひしがれた雑草』と廉想渉『除夜』を手掛かりとして（『外国文学』第62号、2013年3月）

共著：「朝鮮文壇と独歩—日本留学・ジャーナリズム・国語教育」（『テキストたちの旅程—移動と変容の中の文学』花書院、2008年）

<この分野を知るために：基本的な文献紹介>

李在鉉（丁貴連・筒井真樹子訳）『韓国文学はどこから来たのか』白帝社 2005年

本書は韓国文化を支える文化的背景を、韓国の神話・伝説・歴史書・古典文学から現代小説・演劇、詩、美術、映画に至るまでさまざまな文献を用いて解説した文学論であると同時に韓国人の精神世界がどのようにして形成されたのかをたどった文化論でもあります。

小倉紀蔵『韓国は一個の哲学だ』講談社現代新書 1998年

儒教（とりわけ朱子学）を軸としながら、韓国人のものの考え方や言動、性質、行動様式、価値観の背後にある韓国人の思想体系を分かりやすく解説した入門書です。

尹藤亜人・大村益夫・梶村秀樹・武田幸男監修『朝鮮を知る事典』平凡社、1986年／1994年

韓国の生活、風俗習慣、特徴的な事物、歴史、文化のすべてに渡る1200項目が韓国文化の魅力を伝え、疑問に答える百科事典です。この分野を知る上でもっとも基本となる書物です。



＜ディドロ肖像画＞

フランス文化論演習

学問的特徴：フランス語文化圏（アフリカ、アジア、アメリカにおける旧植民地を含む）の文化・社会・歴史について、各自の関心に基づいて、調査・研究・発表する。フランス語関連科目、フランス文学、西洋史概説、地域研究概説、キリスト教文化論、国際関係論、西洋現代思想などの科目を履修しておくことが望ましい。

キーワード：西洋史・インド＝ヨーロッパ語・キリスト教・ギリシア＝ローマ文化・共和主義・植民地主義・共生／寛容

関連科目一覧：

（太字は卒業研究に特に関係の深い科目）

1 年次	フランス語基礎Ⅰ・Ⅱ フランス語基礎Ⅲ・Ⅳ フランス文学	国際関係論 地域研究論 西洋史概説
2 年次	フランス語応用 A・B（田口） フランス語講読 A・C（田口） フランス文化論（田口） フランス語会話（夏休み・集中） 西洋現代思想（田口）	キリスト教文化論 現代芸術論
3 年次	フランス語講読 B・D フランス語文章表現（田口） フランス文化論演習（田口） 卒業研究準備演習（田口）	中東地域研究論（社会）
4 年次	卒業研究（田口）	

卒業論文題目例：「日本とフランスにおけるカフェ文化の交流史」（13 年度）

「日本とフランスにおける出生率の変化の比較研究」（13 年度）

「日本とフランスにおける庭園文化の比較」（11 年度）

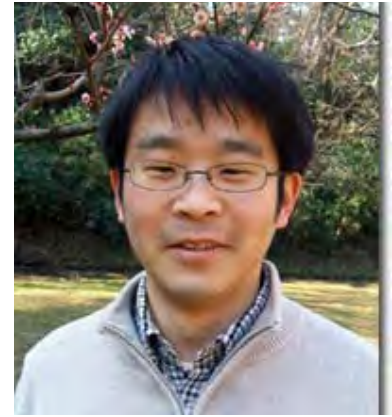
「フランスにおける移民と 2005 年暴動」（10 年度）

「19 世紀フランス美術におけるジャポニズムの影響」（09 年度）

担当教員名：田口卓臣（たぐちたくみ）

専門分野：フランス文学・思想

モンテスキュー、ヴォルテール、ルソー、ディドロを初めてする 18 世紀フランスの思想と文学について研究しています。民主主義、政教分離^{せいきょうぶんり}、世論^{いっぷいっふせい}、一夫一婦制など、いわゆる「近代的」な価値観^{はうが}が萌芽した当時のフランス文化史に注目することで、現代社会の前提条件、そしてその変容の可能性やリスクについて考えています。



指導方針： 3 年次の演習では、フランス語文化圏に関する基本的な文献について、各自の関心に基づいて調査・分析・まとめの作業を行ないます。この作業を通して、「研究とは何か」を具体的に理解するとともに、教育の究極目標である「自学自習」の態度を身につけてほしい、と考えています。言語の習得を抜きに文化の理解などありえませんか、2 年次までに、できるだけ多くのフランス語科目を履修しておいてください。また、キリスト教、古代ギリシア=ローマ、植民地主義、共和主義などの観点から、西洋の思想・文学・芸術・歴史を学んでおくことも重要です。

主な執筆論文・文献：

『ディドロ 限界の思考 ―小説に関する試論―』

（田口卓臣（著） 風間書房 2009 年）

『ディドロ著作集 第 4 巻 美学・美術』

（鷺見洋一・井田尚（監修） 田口卓臣（共訳） 法政大学出版局 2013 年）

「今、ディドロを読むために」

（逸見龍生、王寺賢太、田口卓臣（座談会） 『思想』「ディドロ生誕 300 年」 2013 年）

＜この分野を知るために：基本的な文献紹介＞

田村毅・塩川徹也・西本晃二・鈴木雅生編『フランス文化事典』丸善出版 2012 年

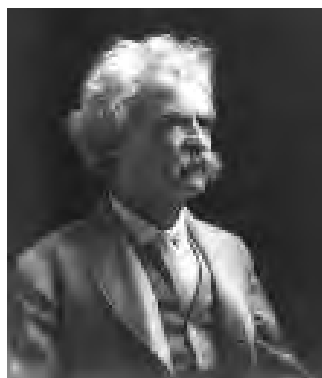
文学、美術、建築、歴史、政治などに関わる古今東西のキーワードを見開きで解説する中項目事典。フランス語圏文化の全体像を知るのに非常に役立ちます。私も、カフェ、核家族、死刑制度、鉄道、絵の具等について寄稿しています。

菅野昭正・木村尚三郎他編『読む事典 フランス』三省堂 1990 年

フランスの歴史、地理、政治、経済、教育、社会、科学技術などに関して、踏みこんだ解説を行っています。巻末の詳しい索引をもとに「事典」として使用することもできます。

福井憲彦編『フランス史』山川出版社 2001 年

現在考えられる最高の研究者たちによって書かれたフランスの通史。初学者にも読みやすくできています。巻末の参考文献のリストを手がかりに、各自の調査・研究を進めてください。



アメリカ文化論演習

学問的特徴：米国の民族や歴史、文化について考察する。

キーワード：先住民、清教徒、ロマンティズム、アフリカ系、北部と南部、西部開拓、競争原理など

関連科目一覧：

(太字は卒業研究に特に関係の深い科目)

1 年次	比較文化論 イギリス文化論 西洋史概説	異文化間コミュニケーション 言語学
2 年次	アメリカ文化論 (米山) アメリカ文学史 (米山) イギリス文学史 表象文化論 東西比較文化論 アメリカの経済と社会	芸術文化論 文化人類学 西洋現代思想 哲学概論 ヨーロッパ思想構造論 キリスト教文化論 翻訳文学論 比較児童文学論 日欧比較文学論
3 年次	アメリカ文化論演習 (米山) 卒業研究準備演習 (米山)	比較思想史 比較宗教文化論 ヨーロッパの歴史と文化 日米関係論 アメリカ文学演習 (米山)
4 年次	卒業研究 (米山)	

卒業論文題目例：「移民と向き合うアメリカ」 (11 年度)

「沖縄におけるアメリカの影響とその文化」 (11 年度)

「アメリカの小学校における食育の取り組み」 (11 年度)

「アメリカ先住民と核廃棄物問題」 (11 年度)

担当教員名： 米山正文（よねやままさふみ）

専門分野： 19 世紀米国文学研究

19 世紀米国のロマン主義文学といわれる小説や詩、自伝、旅行記を研究しています。ナショナリズムや市民宗教、人種や階級と文学との関係に注目しています。



指導方針： 3 年次の演習は、発表形式で行っています。テキストの内容に基づいて各自が調査・分析し、発表します。授業ではその発表に基づき、質疑応答を行います。調査や分析のための文献読解力や、発表のための論理的思考力が必要となります。また、与えられていることをただこなしているだけでは力つきません。意欲や好奇心を持って主体的に対象に取り組むことが大切です。

主な執筆論文・文献：

「見える愛国者／見えない水夫／見られる他者——『レッドバーン』と『ホワイトジャケット』における黒人表象」
（吉田廸子編 『他者・眼差し・語り——アメリカ文学再読』 南雲堂フェニックス 2005 年 所収）

「虚構としての〈信〉——『詐欺師』と 19 世紀ユニテリアニズム」

（根本治監修、松崎博・米山正文編 『国家・イデオロギー・レトリック——アメリカ文学再読』

南雲堂フェニックス 2009 年 所収）

＜この分野を知るために：基本的な文献紹介＞

A. トクヴィル『アメリカのデモクラシー』（上・下）岩波文庫 2005 年

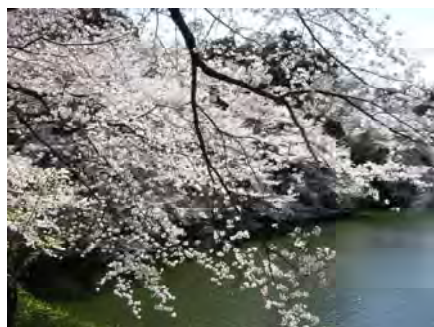
フランスの社会学者アレクシス・ド・トクヴィルの洞察に満ちた米国論です。19 世紀の米国を分析していますが、現在でも十分通用する内容であり、こんにちに至るまで様々な学問分野で広く参照されています。

小田隆裕他編『事典 現代のアメリカ』大修館書店 2004 年

分厚い 1 冊。文字通り事典で、これ 1 冊で現代と過去の米国のことがほぼ理解できるようになっています。「グローバル・システムとしてのアメリカ」「国家意識の成立」「国家の枠組み」「アメリカ的知の枠組み」「多民族社会の実態」「社会改革運動」「経済・技術・発明」「アメリカン・ウェイ・オブ・ライフ」「メディア・カルチャー」「日本とアメリカの関係」という項目に分かれています。

ロナルド・タカキ『多文化社会アメリカの歴史——別の鏡に映して』明石書店 1995 年

ハワイ出身の日系米国人歴史学者による記念碑的労作。米国の歴史を多民族社会という視点から読み直しています。この分野における基本書です。



日本語教育Ⅰ 演習

学問的特徴：日本語教育について、主に教授法や教育プログラムについて、専門的な知識を身につける。

日本語教育、言語学や日本語学、コミュニケーション関連分野の授業科目を履修するとともに、外国語と日本語との比較・対照、また学習者の立場の理解のために外国語の学習が欠かせない。日本の文化についての知識も不可欠であるので、文化や文学、歴史と幅広く履修することが望ましい。

キーワード：日本語・日本語教育・言語教育・外国語教育・教授法・コミュニケーション

関連科目一覧：

(太字は卒業研究に特に関係の深い科目)

1 年次	異文化間コミュニケーション 言語学 国際英語コミュニケーション	文化人類学 比較文化論 日本史概説
2 年次	言語と音声 対照言語学 日本語論 日本語教育Ⅰ (梅木由美子) 日本語教育Ⅱ 日本語教育方法論	外国語科目 対人コミュニケーション論 国際コミュニケーション論 日本文化論 統計学
3 年次	言語と認知科学 日本語史 日本語教育特別演習 日本語教育Ⅰ 演習 (梅木由美子) 卒業研究準備演習 (梅木由美子)	日中語比較論
4 年次	卒業研究 (梅木由美子)	

卒業論文題目例：「日本の文化理解を目的とした日本のアニメを用いた日本語教育—日本で学ぶ韓国人留学生を対象として」(09 年度)

「アメリカの大学における理想的な日本語教師像—英日バイリンガル教師の提案—」
(06 年度)

「テレビ (VTR) 利用した日本語教育のための指導案の提示—日本語教育の現状と効果的教材を考える—」(04 年度)

「非漢字圏学習者のためのよりよい漢字学習法」(01 年度)

担当教員名：梅木由美子（うめきゆみこ）

専門分野：日本語教育Ⅰ

日本語教育のいろいろな分野に関心を持ってきましたが、現在特に関心があるのは、多様化し続けている日本語教育の現場に対応する、新たな指導法、カリキュラムのあり方です。

日本語教育の変化は世界の社会情勢や言語教育の変化の反映でもあり、日本語教育はまさに国際的な学問分野だと言えるでしょう。



指導方針： この演習では、「日本語教育Ⅰ」で得た日本語教育の基礎知識を踏まえ、文献講読や日本語教科書の比較分析などを通して、自らの手で専門的な知識を能動的に身につけていくことを目指しています。また、日本語教育の現状を知るために、地域の日本語教育の見学などもすすめます。この演習を通して、卒業研究やその先の進路につながる勉学の方向付けができることを期待しています。

主な執筆論文・文献：

- 「国際遠隔日本語教育実践と評価」
（日本教育工学会『第20回全国大会講演論文集』2004年）
- 「日本語教育の新しい展開－SCSを利用した授業の試み、遠隔授業の利点と問題点－」
（語学教育研究所『語研FORUM』2002年）
- 「技術研修のための日本語 第7分冊」
（仙名・飯島・梅木〈著〉国際協力事業団 1987年）

＜この分野を知るために：基本的な文献紹介＞

- 石田敏子『改訂新版 日本語教授法』大修館書店 1995年
日本語教育の歴史、教授法、教育項目、スキル別指導法、評価法、カリキュラムの立て方、教師の心構えなどが具体例とともにわかりやすく解説されている日本語教育の総合教科書です。
- 東海大学留学生教育センター編『日本語教育方法論』2005年
複数の専門家が日本語教育について解説しており、日本語教育とはどのようなものかを知るための全容を把握するのに役立つ概説書です。
- J.V.ネウストプニー『新しい日本語教育のために』1995年
日本語教育の今後について文化、コミュニケーション行動、テスト、教師養成などを海外の事例を含めた広い視点から様々に問題提起をしており、日本語教育を志す人にはぜひ進めたい本です。
- 小柳かおる『日本語教師のための新しい言語習得論』スリーエーネットワーク 2004年
日本語教育は言語教育の一つです。言語を教える/習得するとはどういうことか、日本語教育に携わるにあたって知っていてほしい言語習得理論が詳しく解説されている本です。



日本語教育Ⅱ 演習

学問的特徴：外国語学習の成果を「母語と目標言語とを話す多言語話者になること」と捉える。学習上の言語学的問題（言語自体の難しさ）と教育学的問題（学びにくさ）を材料とし、学問による自分ならではの問題解決の楽しさと達成感を体験し、言語コミュニケーションの多様さに驚いてほしい。自分のスタイルで国際交流してきた人や真剣に外国語学習と取り組む人を大歓迎。

キーワード：マルチリンガリズム・言語学・言語と思考や文化との相対性・成功する外国語学習法

関連科目一覧：

（太字は卒業研究に特に関係の深い科目）

1 年次	多言語コミュニケーション学 A・B （基盤：吉田） 日本語表記論 （基盤） 言語学／異文化間コミュニケーション文化人類学／比較文化論	認知心理学入門 （基盤） 日本事情 （基盤） 伝統的論理学 （基盤） 地域研究論／イギリス文化論 （すべての外国語科目）
2 年次	日本語教育Ⅰ/ 日本語教育Ⅱ （吉田） Linguistic Typology and Language Communication （吉田） 日本語教育方法論 言語と音声／言語と認知科学 対照言語学／日本語論／日本語史 英語学特講Ⅰ／英語学特講Ⅱ 民族誌学／対人コミュニケーション論 身体表現論 東西比較文化論／翻訳文学論	韓国文化論／中国文化論 東北アジア論／近現代中国論 東南アジア論／アフリカ論 国際コミュニケーション論 国際キャリア開発 Japan's International Relations （すべての外国語科目） （留学先で受講する科目等）
3 年次	卒業研究準備演習（吉田）	（留学先で受講する科目等）
4 年次	卒業研究（吉田）	

卒業論文題目例：「言語使用環境と習得」（13 年度）

「Gott を含むドイツ語慣用表現の研究」（13 年度）

「日本人の謝罪表現」（13 年度）

「文末待遇表現の日タイ対照研究」（13 年度）

担当教員名：吉田一彦（よしだかずひこ）

専門分野：多言語コミュニケーション学(言語学・教育学を含む)、言語科学

1) 言語自体のクレオール性(＝混濁性)、2) 対照言語研究(日本語、タイ語、モンゴル語、フランス語、英語、中国語、テュルク諸語)、3) 文法と語用論の間にあるもの(指示の問題や時間表現など)の解明、4) 言語哲学、5) 科学コミュニケーションの方法、6) 成功した外国語学習者の学習法など。



指導方針： 学習活動自体を文化接触の場と捉え、交流の実践と技能の開発を目指す。さいわい授業や研究室の活動に留学経験のある学部生や留学生が多く参加しており、異なる社会・文化間のコミュニケーションのあり方や視点の置き方や価値観の比較や差異の確認、あるいは、日本語の教育現場で実際に起こりうる相互理解の問題の発見と解決を、実地に行うことができる。多様な学習活動を用意し受講者の関心に応じて選ぶようにしている。教師からの情報提供に加え、模擬授業など教授活動のシミュレーション、インタビュー、グループディスカッションなどをする。学習者の視点を何よりも重視するので、授業では頻繁に発言や意見表明を参加者ひとりひとりに求めている。

主な執筆論文・文献：

「いわゆる「ガ格」標示に関する研究」

(東京外国語大学博士論文 2002 年)

「いわゆる機能語の機能の把握の仕方:語に帰すべきこととそうでないこと」

(峰岸真琴編『言語基礎論の構築』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 2006 年)

「Rethinking Language Learning and Culture Learning」

(International Symposium Report, WoLSEC, Tokyo University of Foreign Studies 2013, forthcoming)

<この分野を知るために：基本的な文献紹介>

黒田 龍之助『はじめての言語学』 講談社現代新書 2004 年

興味深い実例をとおして人の言語に科学的に接近する研究者の観点や方法を学べる本。

竹内 理『「達人」の英語学習法—データが語る効果的な外国語習得法とは』 草思社 2007 年

とても読みやすい実証的研究。良い方法さえ採れば誰でも何歳からでも上達できることがわかる。

塩田 勉『おじさん、語学する』 集英社新書 2001 年

外国語を上達させたおじさんの^{しんちゅう}心中がシミュレートされている。おじさん以外にも大変役立つ本。

菊地・松村・伊勢田・平川・飯田『もうダメされないための「科学」講義』 光文社新書 2011 年

3.11 をリアルタイムに経験した人が自分の問題として学問しようと思うなら必読と言ってもよい。



日本語教育方法論演習

学問的特徴： 第二言語／外国語としての日本語教育の観点から、言語理解と言語産出のそれぞれを取り上げ、言葉の学習とはどのようなものかについて考察する。言語学をはじめ、関連科目を履修することが望ましい。

キーワード： 言語教育・言語習得・言語理解・言語産出・語用論・外国語学習

関連科目一覧：

(太字は卒業研究に特に関係の深い科目)

1 年次	言語習得論 (基盤・鎌田) 言語学 グローバル化と外国人児童生徒教育	認知心理学入門 (基盤) 異文化間コミュニケーション
2 年次	日本語教育方法論 (鎌田) 日本語教育Ⅰ 日本語教育Ⅱ	対照言語学 日本語論 統計学
3 年次	日本語教育方法論演習 (鎌田) 言語と認知科学 卒業研究準備演習 (鎌田)	
4 年次	卒業研究 (鎌田)	

卒業論文題目例： 「謝意表現と日本語教育―「すみません」を中心に―」(13 年度)
「算数文章題における日本語文の複雑さ―外国人児童の教科学習支援のために―」(13 年度)
「外国人児童生徒に対する日本語読解支援に関する研究」(12 年度)
「『断り』の場面に見られる言語行動に関する日韓比較」(12 年度)
「日本語教育における聴解テストに関する研究」(11 年度)
「外国人児童のための教科学習支援と日本語学習」(10 年度)
「日本語読解と文化」(10 年度)
「年少日本語教育におけるリライト教材の役割とその活用」(09 年度)
「日本語教育におけるタスクの役割とその活用」(08 年度)
「日本語指導を必要とする子供たちに対する教科学習支援」(07 年度) など

担当教員名：鎌田 美千子（かまだみちこ）

専門分野：日本語教育学・応用言語学

第二言語／外国語としての日本語の習得と教育について研究しています。語彙や文法の知識があっても十分に使えないといった問題に対する教育方法に関心があります。また、日本語指導を必要とする子どもへの学習支援についても言語的側面から探究しています。



指導方針： 言語習得や外国語教育に関する文献講読や教材分析を通して、日本語教育を展開していく上での問題とその解決を検討していきます。言語学の知識を前提に進めますので、関連科目の履修や専門書の講読等を通して基本的な用語などに慣れておいてください。また、日本語を教えたりサポートしたりする機会や、国内外での日本語教育を知る機会を積極的に持つようにし、この分野への認識が深めてほしいと思います。

主な執筆論文・文献：

「第二言語としての日本語によるパラフレーズの問題とその教育方法」

（『日本語学習支援の構築一言語教育・コーパス・システム開発一』 凡人社，2012 年）

「解答形式の違いに見られる JSL 児童生徒の言語運用—パラフレーズに着目して—」

（『宇都宮大学国際学部研究論集』 第 27 号，2009 年）

「外国人児童生徒に対する日本語指導の課題と展望」

（『栃木県における外国人児童生徒教育の明日を考える』 平成 19 年度宇都宮大学特定重点推進研究グループ，2008 年）

＜この分野を知るために：基本的な文献紹介＞

岡崎眸・岡崎敏雄著『日本語教育における学習の分析とデザイン—言語習得過程の視点から見た日本語教育—』 凡人社 2004 年

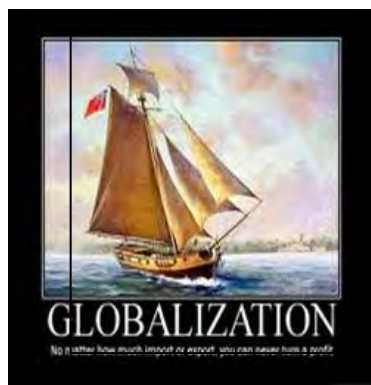
種々の言語習得理論をふまえながら日本語教育の場でどのように学習が実現されているのかを丁寧に概説しています。教材・教室活動における学習の分析も示されており、実際に日本語を教えるときにも役立ちます。

青木直子・土岐哲・尾崎明人編『日本語教育学を学ぶ人のために』 世界思想社 2001 年

日本語教育学とはどのような学問なのかを知るための入門書です。参考文献のリストを通じて、さらに関心ある内容を深く学んでいくことができます。

日本語教育学会編『新版日本語教育辞典』 大修館書店 2005 年

実際に日本語を教える際に役立つ内容が網羅されています。日本語教育に携わる上で必要とされる幅広い知識と実践力を身につける上で有益な一冊です。



（移民と多文化教育演習）

学問的特徴：異なる民族や文化背景を持つ人々が共に暮らす社会のあり方と、その実現を確固たるものにするための教育の有り方について探求する。具体的には、人の移動とグローバリゼーション現象に焦点を当て、これらが各国政府の政策決定プロセスとの相互作用に関する分析を通して、各国の政治、経済や文化の相違がその国のグローバリゼーションにどう反映されているかについて探求する。最後に、グローバル化社会に求められる教育の新たな役割について考察する。

キーワード：グローバリゼーション・移民・多文化教育・外国人児童生徒教育・クリティカル・シンキング（批判的思考）

関連科目一覧：

（太字は卒業研究に特に関係の深い科目）

1 年次	Japanese Communication Arts （基盤：威） グローバル化と外国人児童生徒教育	国際化と教育／教育原論 歴史と表象／文化人類学 国際政治論／国際関係論 現代政治の理論と実態 社会開発入門
2 年次	移民と多文化教育 （威）	日本語教育方法論／日本文化論 対人コミュニケーション論 国際社会論／国際経済論 韓国文化論／近現代中国論 東南アジア論／東北アジア論 アメリカ文化論／民族誌学
3 年次	移民と多文化教育演習 （威） 卒業研究準備研究 （威）	ヨーロッパ思想構造論 西洋現代思想／哲学概論
4 年次	卒業研究 （威）	

卒業論文題目例：

担当教員名：戚傑（チー ジェ）



専門分野：教育社会学 外国語教育

ポスト構造主義・ポスト植民主義の視点から学校教育・言語教育に関する研究・分析を行っています。具体的には、社会や教育がどのようにして人間を形成し、社会の中で、特に教育を通して形成された人間の価値基準が再び社会や教育に作用するプロセスについて論理と実証の両面から検証を試みています。その一環として、グローバリゼーションと多文化教育の在り方に関する研究も行っています。

指導方針： 3年次の演習では、思考・研究能力を養う訓練を重視します。固定観念を持たずに、積極的に問題提起することに心懸け、提起した問題については徹底した理論的思考と実践的探求を繰り返すことが重要です。4年次では、調査方法や研究手法等に関する指導と論文作成の技法に関する指導を中心に行います。本当に興味のあるテーマを選び、全力で取り組んでほしいと思います。

主な執筆論文・文献：

- Diversity and multiculturalism in Japan: what is called into question?. *Educational Research for Policy and Practice*, 10 (2), pp.105-114, 2011 年
- 「日本語と中国語の同形語における語義の転用に関する対照研究」『宇都宮大学留学生教育研究論集』創刊号, 2010, pp.6-28
- War and Beyond: Twentieth Century Curriculum Reform and the Making of a Follower, a Citizen, and a Worker. In B. Baker (Ed.), *New Curriculum History* (pp. 273-293). Boston, MA: Sense Publishers, 2009 年
- The System of Reasoning the Child in Contemporary Japan. In M. Bloch, D. Kennedy, T. Lightfoot and D. Weyenberg (Eds.), *The Child in the World/the World in the Child: Education and the Configuration of a Universal, Modern, and Globalized Childhood* (pp. 143-156). New York: Palgrave Macmillan, 2006 年
- A History of the Present on Chinese Intellectuals: Confucianism and Pragmatism. In T. Popkewitz (Ed.), *Inventing the Modern Self and John Dewey: Modernities and the Traveling of Pragmatism in Education* (pp. 255-277). New York: Palgrave Macmillan, 2005 年

〈この分野を知るために：基本的な文献紹介〉

小坂井敏晶『民族という虚構』東京大学出版会 2002 年

異邦人や少数者の存在こそが人間の同一性を生み出す源泉をなすという視点にたち、民族とは何か／共同体とは何か、を考えるためのテキストとしてよく構成されている。

戴エイカ『多文化主義とディアスポラ』明石出版 2001 年

地球化時代のエスニシティのあり方について、特に国民国家体制が生み出してきた疎外や差別構造とそれらを克服するための方法論について論じた内容です。

「外国につながる子どもたちの物語」編集委員会『クラスメートは外国人』明石出版 2009 年

日本の学校で学ぶ外国人の子供たちが抱える問題を非常に分かりやすく紹介した内容ですが、日本社会のグローバル化を理解するための身近な事例として一読に値します。

4. レポート／論文作成の際の注意事項

(1) 大学で「文章力」を鍛えるメリット なぜ「自分で書いた文章」が大切なのか

大学では、授業に関するコメント、提出課題のレポート、そして卒業論文にいたるまで、たくさんの文章を書くことが求められます。「文章力」を身につけることは、将来どんな職業を選んだとしても、必ず必要になる重要な能力です。

大学で過ごす4年間の間に、自分で調べ、自分で考え、自分で文章を作り上げる作業をくり返すことで、この「文章力」を身につけることができます。

そのためには、レポートや論文が「自分で書いた文章」でなくてはなりません。他人の文章を写すだけで済ませてしまうと、そのときは楽をできますが、結局、本当の「文章力」を養うことはできないからです。

「文章力」を養うのは、社会に出てからでは、もう遅いのです。せっかく4年という長い時間を大学で過ごすのですから、今のうちに、しっかりと「文章力」を身につけ、自分の書く文章に自信がもてるようになってもらえれば、と思います。

(2) コピー・ペーストはなぜ禁止されているのか

みなさんは、コピー・ペーストの問題について聞いたことがありますか？ 他人が書いた文章を、そのまま丸写しして、まるで自分が書いた文章であるかのように偽ることです。社会的にも大きな問題となっていますし、犯罪行為として扱われる例もあるほどです。

大学におけるコピー・ペーストとは、**他の文献、資料、新聞雑誌、インターネット情報、他人の書いたレポートの丸写し**などのことです。このような行為は、試験のカンニングと同じ「不正行為」として禁止されており、単位の取り消しなどの処分の対象となります。

他人の書いた文章を自分のものと偽ることは、他人の権利を侵すという意味で倫理的かつ法的に問題であるだけでなく、せっかくの「文章力」を身につける機会を自分でつぶしてしまうことにもなります。大学で勉強する意味が失われてしまうのです。

（３）だれにどのような迷惑がかかるのか／どのような問題が起きるのか

コピー・ペーストをしても、誰にも迷惑がかからないのだから構わないじゃないか。そう考える人もいるかもしれませんが、しかし、本当に何の問題も起きないのでしょうか。

大学内でコピー・ペーストなどの不正行為が多く見られるようになると、大学側もその防止のために様々な対策をとらなくてはなりません。みなさんが自分で書いた文章であることを証明する「宣誓書」を毎回のようにより要求し、すべてのレポートを徹底的に調べあげ、不正行為が見つかった場合には、厳重に処分せざるをえなくなってしまうのです。

本来ならば、教員と学生との間の信頼にもとづいて、自由にいきいきと学問にいそしむ場であるはずの大学が、学生の行ないにいちいち目を光らせるという、なんとも不自由でぎすぎすした管理・監視の組織に変わってしまうことでしょう。安易に不正行為に手を染めることは、結果として、大学という自由な学びの場に深刻な影響をもたらしかねないのです。

社会に出てから、仕事のなかでコピー・ペーストを行った場合は、問題はさらに深刻になります。状況によっては犯罪行為とみなされ、自分の会社や組織全体に多大な迷惑と損害を与えることにもなるでしょう。他人の文章を丸写しすることが、いかに多くの人々に迷惑をかける危険性を持つかということを、今からしっかり自覚しておくことが必要なのです。

（４）不正行為にならないための正しい引用方法

注意しましょう！たしかに丸写しをすることは問題ですが、他の文献や資料を「引用」してはいけないというわけではありません。むしろ、学問的にレベルの高い文章を書くためには、多くの参考文献や資料を使うことが求められます。

そのため、文章を作成するときの「引用」については、多くのルールや方法が決められています。これらのルールは、大学においてだけでなく、社会に出てからも、また海外においてもきちんと通用するものです。丁寧にしっかり調べて書いた文章であることを証明するためにも、正しく的確な引用方法を身につけておきましょう。

<引用に関する基本的なルール>

- ① どの文章が執筆者自身の文章で、どの文章が引用したものであるかを明確に区別していること。
- ② 引用した情報や文章の出典を、正確にのせていること。

以下では、正しい引用方法の具体例を紹介しますので、今後の学習のなかでいつも参照するようにしましょう。

<引用の具体例>

例① 文献・資料の短い文章をそのまま引用する場合

「 」で引用文をくくり、出典情報を添える。

(文例①)

丸山によれば、自由とおなじように民主主義もまた「不断の民主化によって辛うじて民主主義でありうる」(丸山 1961、157 ページ) のだという。

例② 文献・資料の長い文章をそのまま引用する場合

段を下げて引用文を書き、出典情報を添える。

(文例②)

1946 年 12 月、『文学季刊』第二号に寄せた文章において、坂口安吾は昭和天皇と敗戦の関係に関して次のように述べている。

たえがたきをたえ、忍びがたきを忍んで、朕の命令に服してくれという。すると国民は泣いて、外[ママ]ならぬ陛下の命令だから、忍びがたいけれども忍んで負けよう、と言う。嘘をつけ！ 嘘をつけ！ 嘘をつけ！（坂口 1989、222 ページ）

例③ 文献・資料の文章を、執筆者自身の文章の中にまとめて引用する場合

引用していることが分かる文体で書き、出典情報を添える。

(文例③)

加藤によれば、散文は歩くようなものであり、詩は踊るようなものだというポール・ヴァレリーの説明は、詩と散文の最も鋭い区別の仕方であるという（加藤 2009、19 ページ）。

<文献・資料情報の記載例>

引用の出典として記した文献・資料は、レポートや論文の巻末に「参考文献・資料リスト」としてまとめて記載します。記載する必要があるのは、**編著者名(訳者名)、出版年、書名、出版社名**などです。並べる順番は、日本語文献の場合には著者名(苗字)のあいうえお順とするのが一般的です。また新聞や雑誌、ウェブサイトの情報も、以下のように必ず出典情報を記しましょう。

また、より詳しい手引きとしては、酒井浩二著『論理性を鍛えるレポートの書き方』ナカニシヤ出版(2009年)などを参照してください。

例① 著者が1冊の本をすべて執筆している文献

著者名 出版年 書名 出版社名
丸山真男 (1961) 『日本の思想』 岩波書店

例② 著者が1冊の本をすべて執筆している翻訳文献

著者名 訳者名 出版年 書名
オノレ・ド・バルザック (野崎 歓・青木真紀子訳) (2000) 『幻滅——メディア戦記(上)』
出版社名
藤原書店

例③ 本のなかの一つの文章を引用する場合

著者名 出版年 論文名 本の著者名 書名 出版社名 掲載ページ
坂口安吾 (1989) 「続墮落論」(同 『日本論』 河出書房新社 217～228 ページ)

例④ 雑誌のなかの論文を引用する場合

著者名 出版年 論文名 雑誌名 巻号数
加藤周一 (2009) 「私のヴァレリー」(『現代思想』 7月臨時増刊号 第37巻第9号
掲載ページ
8～27 ページ)

例⑤ 新聞記事を引用する場合

新聞紙名 年月日 掲載紙面
朝日新聞 2009年11月13日 朝刊第3面

例⑥ ウェブサイトの情報を引用する場合

ウェブサイトのタイトル URL アクセス年月日
宇都宮大学国際学部: <http://www.kokusai.utsunomiya-u.ac.jp/> (2009年11月13日参照)

(2009年11月19日作成)

第2部 進路別ガイド



<進路別の履修ガイド>

1 進路に関する基本的な留意点

1) いつからキャリアについて考え始めればよいのでしょうか？

○1年生から自分のキャリアについて考え始めましょう

卒業後のキャリアを考えることは、3年次以降に行う就職活動だけを意味しません。

1年次生の時期から、どのような進路を希望するのか考え始めましょう。

○キャリアと関連づけた履修計画を立てましょう

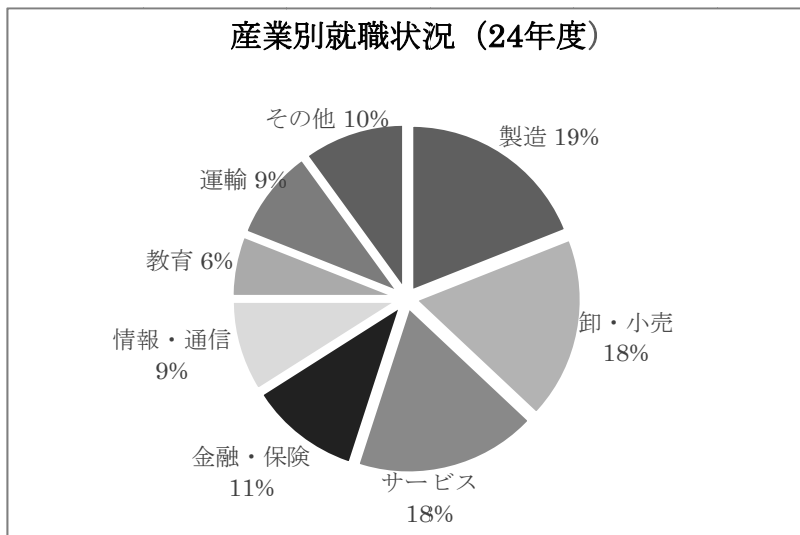
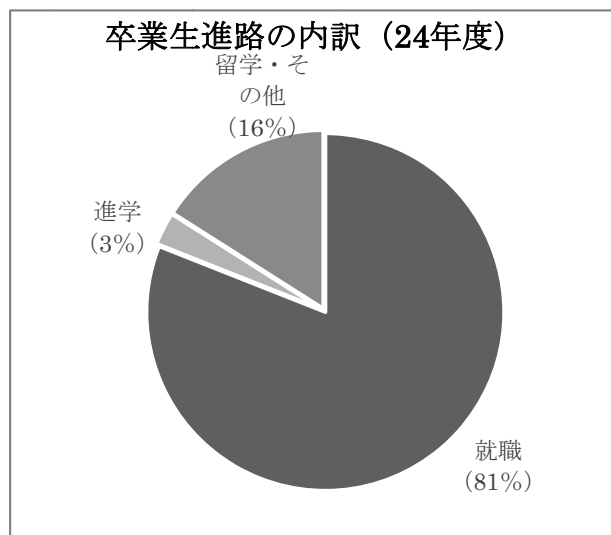
特に国家公務員、地方公務員、教員を志望する学生は、1年次から関連科目の履修計画を立てる必要があります。また大学院進学や留学を希望する場合には、自分が研究したい分野に関係する教員に、早めに相談しましょう。

公務員志望者 ⇒91～93 ページ 教員志望者 ⇒94 ページ
大学院進学希望者 ⇒95,96 ページ 留学希望者 ⇒97,98 ページ

2)国際学部卒業生の進路とは？

○まずは先輩たちのキャリアを知ろう

以下のグラフは先輩たちの進路を示しています。国際学部から多様な産業へ進出し、活躍していることが分かります。



毎年、「**卒業生による就職セミナー**」（6～7月頃と10～11月頃）が大学で開催され、社会で活躍する先輩たちから直接話を聞くことができます。1年次から参加して、先輩たちのキャリアについて積極的に質問してみましょう。

社会で活躍する先輩たちと
直接話すセミナーに、1年生
の時から参加しておこう！



キャリアについて考えるための授業がこんなにたくさんあるんだ！

3) 大学の「キャリア教育科目」を活用して準備しよう

大学には、キャリアについて考えるうえで必要な知識や考え方を学ぶことのできる「キャリア教育科目」が用意されています。4年間の履修計画にこれらの科目を組み入れていきましょう。



＜初期導入科目＞ 「新入生セミナー」（1年次前期）

＜基盤キャリア教育科目＞（1～4年次に履修）

「人間と社会」「キャリアデザイン」「働くことの意味と実際」

「自己実現論」「実践企業人材論」「企業の実際と理論」「宇大で学ぶ」

＜国際学部専門科目＞（1～4年次に履修）

「国際キャリア開発」「International Career Seminar(国際実務英語)」

⇒これらの科目は集中合宿形式です。国際的なキャリアをもつ講師を招いて、他大学の学生と議論しながら進めます。

「国際キャリア実習」

⇒国内および海外の企業や NGO/NPO でのインターン生として、現場で働く体験ができます。



4) UU CareerNavi に登録してキャリア教育・就職支援センターを1年生のときから活用しよう

大学には**キャリア教育・就職支援センター**があり、皆さんのキャリア形成を1年生の時期から支援しています。ガイダンスやセミナーの情報、相談員との進路相談などの情報は、以下の **UU CareerNavi** から簡単に入手できます。早めに登録して、4年間しっかり活用していきましょう。



キャリア教育・就職支援センターのホームページから「**UU Career Navi**」にログインし、『進路希望登録』をすると、以下のようなサービスを利用できます。

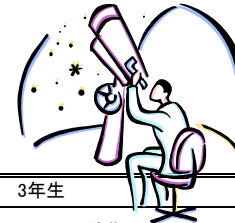
- a. 本学に寄せられた求人情報や会社セミナー情報の検索
- b. 学内で開催する就職ガイダンス・セミナー等の情報確認
- c. 学内で開催する就職ガイダンス・セミナー等の予約
- d. 進路相談の予約
- e. 登録いただいたメールアドレスへ重要なお知らせを配信
- f. 企業、公務員、教員、進学に関する各種情報の確認

PCは、センターHPのバナーからアクセス、携帯、下のQRコードを読み取ってアクセスしてください！



また、キャリアについて考えるための「**キャリアデザインノート**」が全員に配布されます。以上のように、大学として皆さんのキャリア形成を多方面から支援していきますので、4年間を通して積極的に活用してください。

進路をみすえた4年間のスケジュール 国際学部版



☆1年生からできることもたくさんあります！

	1年生				2年生				3年生				4年生			
	前期	夏休み	後期	春休み	前期	夏休み	後期	春休み	前期	夏休み	後期	春休み	前期	夏休み	後期	春休み
キャリア教育に関する授業科目	国際キャリア開発 Intenational Career Seminar （国際実務英語） 国際学部で学んだことを、キャリアにどういかしていくか、国際的なキャリアをもつ多彩なゲストとともに考えます！他大学の学生も参加します！ 新入生セミナー 国際学部でなぜ、何を学びたいか、将来はどのような進路に進みたいか、少人数クラスで話し合います				国際キャリア開発 Intenational Career Seminar （国際実務英語） リピーター歓迎！ファシリテーターや学生委員として、プログラムの運営にも参加できます！ インターンシップ 申し込み開始 社会で働く経験を積む機会です！				国際キャリア実習 国内・国外で国際キャリアに関わるインターンシップ・プログラムです！ インターンシップ 社会で働く経験を積む機会です！				卒業研究 4年間の学びの集大成となる卒業論文を書きます 調査分析・文章作成能力はどんな職業にも必須のスキルです！ 大学院受験準備 大学院入試は10月ごろが多いので早めに準備します			
	教員免許取得 ：教職科目を計画的に履修していきます／1年おきにしか開講されない科目、集中講義もあるので要注意／成績平均点を高く維持することが必要です！															
	公務員試験準備 ：政治・法律系の科目を中心に、早めに関連科目を履修しましょう／1年おきにしか開講されない科目もあるので注意しましょう															
	基盤キャリア教育科目 ：「人間と社会」「キャリアデザイン」「起業の実践と理論」「宇大で学ぶ」など、積極的に受講しましょう！															
学部主催のキャリア教育関連行事	国際学部就職セミナー 学部の卒業生のお話をききながら、自分の将来と進路を考えます！		国際学部就職セミナー 前期とは異なる業種で働いている、学部の卒業生が講師です！		国際学部就職セミナー （予定） 卒業生がどんなふう に働いているか、積極的に質問してみよう！		国際学部就職セミナー （予定） 後半は少人数のグループごとに、じっくり卒業生と話せます！		国際学部就職セミナー （予定） そろそろ業種を決めるこの時期、卒業生から直接経験を聴きましょう！		国際学部就職セミナー （予定） 就職活動直前、学部の卒業生から具体的なアドバイスをもらいましょう！					
	キャリア・フェスティバル 社会の最前線で働いている多彩なゲストが、宇大に集まります！				キャリア・フェスティバル 経験豊かな各業界人から、社会で働くことについて、学べます！				キャリア・フェスティバル 合同企業・公務員等説明会 各企業の人事担当者が多数集結、宇大で説明がきける貴重な機会です！				求人情報の提示・個人面談 なかなか内定がとれないときにも、相談に乗ってもらえます			
	進路・就職相談 センターの教員、キャリア・アドバイザー、ジョブサポーターに、学年を問わず相談ができます！								キャリア教育・就職支援センター主催：多数のセミナー・講座開催 「就職ガイダンス」「ビジネスマナー講習会」「公務員ガイダンス」「教員採用対策セミナー」「就職面接実践講座」など、予約制のセミナーを大学で受けられます！							
学生自身による活動	部活やサークルなどに積極的に参加して、同級生や先輩の知り合いをつくる時期です！				学生同士の部活・サークル・同好会で、大学生活についての情報交換／勉強会・読書会・イベントの企画								就職活動が集中する時期／ゼミや授業も大切に			





☆祝卒業☆
それぞれの進路へと
歩み始めます

キャリア教育・就職支援センターでは「進路・就職相談」を1年生から受けられます！

各業界で働く卒業生(OB/OG)を訪問して、
仕事について積極的に聞きにいきましょう！

2 進路の選択とその時期

すでに述べたように、国際学部卒業後の進路には、a.就職、b.大学院進学、c.留学、があります。この進路をいつ頃決めたらいいのでしょうか。

まず、早く決めなければならない領域は、国家公務員総合職、国際公務員です。そして、近年では地方公務員・国家公務員一般職の試験も難関となっています。これらの領域に進もうとする人は、国際学部の科目履修計画を採用試験に合うようにしていかなければなりません。また受験勉強も1年次から計画をたてねばなりません。国際公務員の場合は大学院の進学（できれば留学して）と、外国語の習熟が不可欠です。こうしたことを考えるなら、1年次の前期終了時までには、決定が必要です。

教員を希望する場合は、教員免許状の取得のための科目を履修しておかなければならないので、1年次からの履修計画が必要です。

その他の領域でも、資格をとる必要があるなら、1年次終了時までには決定をして資格試験準備に入る必要があるでしょう。

こうした領域以外では、3年次の2月までには自分の進路を明確にしておく必要がありますので、希望の職種に合わせてできるだけ早く、情報収集を始めることが大切です。

また就職することに決定したなら、さらにつぎの3つの領域のどれを選ぶか決めなければなりません。

a. 民間企業

b. 公務員等

c. 教職

もちろん、公務員をめざしながら民間企業の就職活動もするということが可能ですが、この時期は卒業論文の準備も行わねばなりません。そのため、公務員試験の受験勉強をし、会社の就職活動をし、卒論の準備を進める、というのは、時間的にも体力的にも非常に厳しいことを覚悟しておく必要があります。

3 民間企業への就職活動

(1) 履修計画

民間企業に就職する場合、希望する業種の特徴に合わせて履修計画を立てられれば、理想的です。例えば、商社に就職を希望しているなら、国際経済に関連する授業科目を中心に履修計画を立てるのがよいでしょう。またコンピュータ・ソフト関連の会社に就職したいのであれば、情報関連の授業科目を選ぶことが望ましいのは言うまでもありません。

しかし企業にはさまざまな職種があります。例えば、商社にも人事を担当する部局もあれば、コンピュータを主に扱っている部局もあります。製造会社でも販売に関連している部局もあれば、製品開発で文化に関連する部局もあります。そのため、どの企業に就職する場合はどの授業科目を履修すべきだ、と一概に言えません。むしろ現実には、自分の一番興味のもてる専攻領域の授業科目を履修し、それに合った就職活動を行う、という方法を採用の方が实际的でしょう。

ただし、就職活動の際には、履修にかかわって、次の点に留意しなければなりません。

① 自分がどのような専攻をし、何を学んだかを明確にすること

これは入社試験の面接でよく尋ねられる事柄です。就職活動は3年次後半から4年次前半にかけて行われることが大部分ですから、まだ卒業論文が十分進んでいない時点ですが、それまでどのようなことを学び、卒業論文でどのようなことを研究しようとしているのか、まとめておく必要があります。

② 「なぜ国際学部で学んだか」を明らかにしておくこと

これも面接など就職活動の中でよく質問される事柄です。次のような体験をした人がいます。面接で、「国際学部で何を勉強しましたか」と質問されて、「経済学を学びました」と答えました。すると、「なぜ経済学部でなく、国際学部で経済学を学んだのですか」と訊かれ、答えにつまってしまったそうです。

国際学部という学部は、全国にもまだ少ないために、企業としては関心をもちます。それで国際学部とはどういう学部なのか、国際学部で経済学を勉強することは、経済学部で学ぶこととどう違うのか、質問するのは当然のことといえます。

したがって、学生としては、国際学部で学ぶ意味をよく考えておく必要があります。例えば、文学部でイギリス文化を学ぶことと、国際学部でイギリス文化を学ぶことには、以下のような違いがあります。

- a. 文学部では、伝統的に文学研究が重視されているが、国際学部では広く文化全体を学べるようにしている。
- b. イギリスの文化を社会的・歴史的な文脈で考察している。

- c. イギリスの文化を世界のさまざまな文化と比較したりし、その影響関係を論じている。

これは一例に過ぎません。他の分野についても同様の特質を出すことができますので、それぞれ整理しておいてもらいたいと思います。

③ 国際学部で学んだことが希望する企業でどのように生かせるか考えておくこと

企業は、大学で学んだことが直接会社で役立つことを必ずしも期待しているわけではありませんが、大学で学んだことがどのように生かせるかについて非常に強い関心を持っています。入社試験を受ける心構えとして、自分がこれまで学んできたことが、就職後どのように生かせるかはしっかり考えておくことは、就職試験全体に大きな影響を与え、また卒業後の仕事の領域を発展させていく力になります。ぜひ自己分析と合わせて、考えてみてください。

(2) 情報の集め方

① 就職支援システム（UU Career Navi）の活用

キャリア教育・就職支援センターのホームページから就職支援システム「UU Career Navi」にログインし、必ず『進路希望登録』をしてください。以下のようなサービスを利用できます。

- a. 本学に寄せられた求人情報や会社セミナー情報の検索
- b. 学内で開催する就職ガイダンス・セミナー等の情報確認
- c. 学内で開催する就職ガイダンス・セミナー等の予約
- d. 進路相談の予約
- e. 登録いただいたメールアドレスへ重要なお知らせを配信
- f. 企業、公務員、教員、進学に関する各種情報の確認

就職関連の情報はキャリア教育・就職支援センターのホームページ及び「UU CareerNavi」でお知らせしていますので、毎日欠かさずチェックすることをお勧めします。



② キャリア教育・就職支援センター発行の『キャリアデザインノート』の活用

国際学部では、毎年4月の1年次生向けガイダンスでキャリア教育・就職支援センター発行の『キャリアデザインノート』を配布しています「学生生活や進路を考える」、「進路に向けた準備」ということについて説明されています。また、本学の先輩の事例やコメントも掲載されており、身近で分かりやすい内容になっています。

このノートを活用し、自分自身を知り、働くということを知り、これからの就職活動に

臨んでください。

③ 大学や学部主催の就職ガイダンスへの参加

年間を通して、キャリア教育・就職支援センターあるいは国際学部主催で、就職ガイダンス・セミナー・模擬試験等が行われますので、積極的に参加してください。就職ガイダンス、ほか、自己分析・エントリーシート講座、職務適性テスト、就職面接実践講座、公務員ガイダンス、教員採用試験対策セミナー、合同企業説明会などが実施されています。3年次生、大学院1年次生を主な対象としていますが、1年次生あるいは2年次生が参加しても一向にかまいません。早い時期から参加することを勧めます。

④ 就職関係資料コーナーの利用

就職に関連した資料は2カ所にあります。

・キャリア・カフェ（基盤教育D棟2階）

下記のような就職関連資料の閲覧と学生相互の情報交換ができるたまり場です。ネット検索用パソコンと求人票出力用プリンタもあります。お茶でも飲みながら気軽に利用してください。

- 就職関連図書・雑誌・情報誌、参考書及び日本経済新聞
- 企業パンフレット、公務員パンフレット及び募集要項等
- 進学（他大学院）等の情報

・キャリア教育資料コーナー（附属図書館3階）

ここには、仕事をするということとはどのようなことか、将来どのように生きていくかなどを考えるための図書と、いろいろな資格・公務員に関する資料が置かれています。

⑤ 教職員への相談

大学全体では、キャリア教育・就職支援センターの職員が就職に関する相談に応じています。国際学部では、学務委員会の教員が就職のアドバイスを行っています。学年指導教員も就職相談に応じてくれます。積極的に相談してください。

平成17年度から、キャリア教育担当の教員が配置され、基盤教育の中で3つの科目が開講されています。実際に仕事をしてきた学外の方々の話を聞く機会もあります。また、キャリア教育・就職支援センターには、キャリア・アドバイザーも配置されています。これらの方々に相談するのもよいでしょう。

⑥ 先輩への相談

早い人は3年次の末あるいは4年次のはじめに内定をもらいます。（正式内定は12

月1日以降になります。それ以前の内定の状態を「内内定」と呼んでいます。そうした先輩から話を聞くと、よい勉強になることでしょう。

⑦ 個人での情報収集

自分が特に希望する領域の就職情報に関しては、自分で集めなければなりません。大学生協や一般書店で販売されている就職手引き書、就職関連雑誌、などで必要な情報を集めることができます。最近では、インターネットによる情報収集が中心になって来ています。「就活手帳」に載っている就職情報サイトなどを活用してください。主な就職情報サイトとしては次のようなものがあります。

リクナビ	http://www.rikunabi.com/
日経ナビ	http://job.nikkei.co.jp/
マイナビ	http://job.mynavi.jp/
しもつけ@ナビ	http://shimotsuke.at-s.com/

(3) 業種

これまで国際学部卒業生が就職した業種は次のように広範囲にわたっています。詳しくは国際学部のパンフレットやホームページで紹介されています。

<http://www.kokusai.utsunomiya-u.ac.jp/juken/career/>

マスコミ・ジャーナリズム

出版・教育・印刷

旅行・観光・ホテル・運輸

卸・小売業

金融・保険

情報・サービス

製造業

建設業

海外法人

その他（医療機関など）

就職をどの業種にするか考えるときに大切なことは、自分の能力と興味をよく考えることと合わせて、企業研究や業種の研究をよく行って、できるだけ広い範囲に可能性を広げておくことです。就職活動をしているうちに、その業種が自分に合わないことが分かることがあります。またどんなに望んでも、試験運に恵まれないこともあります。そうしたときに選択肢に困らないように、第2、第3希望の業種まで考えておくことがよいと思いま

す。それぞれの業種の研究は、たくさんの参考書が出版されていますので、よく研究してください。

(4) 資料請求・企業説明会・就職試験

資料請求，企業訪問，OB・OG訪問，企業説明会，筆記試験，面接試験について大切な点を3つ強調しておきます。

第1は、企業訪問，OB・OG訪問，企業説明会の段階ですでに実質的な就職試験が始まっているということです。企業訪問の時点で企業は学生の人柄や態度を評価し始めています。また企業説明会で適性試験を行ったり，小論文を書かせるところもあります。そうしたことを十分に心得て企業訪問や企業説明会に臨む必要があります。

第2は，近年，大部分の企業が採用しているエントリーシートを十分に研究しておくということです。参考書を活用し，就職ガイダンスに参加したり，キャリア・アドバイザーの先生や指導教員に添削してもらったり，友人に見せて批判してもらったりして研究するといいいでしょう。

第3は，筆記試験について，一般常識試験，適性試験，論文試験について市販の参考書を使って，十分に勉強しておく必要があります。

4 公務員等

(1) 公務員試験とそれに準ずる採用試験

国家公務員，地方公務員の採用試験の他に，それに準ずる採用試験もたくさんあります。試験対策として共通の部分がありますから，公務員をめざす人は幅広く検討しておくといでしょう。次のような採用試験があります。

国家公務員採用総合職試験（法律職と行政職）

国家公務員採用一般職試験（行政職）

国家公務員採用専門職試験（労働基準監督官、国税専門官、法務省専門職員）

裁判所事務官採用総合職試験，同一般職試験

地方公務員採用試験（都道府県，市町村ごと）

警察官採用試験（都道府県ごと）

独立行政法人職員採用試験（約250の独立行政法人が個別に採用）

国立大学法人等職員採用試験（地区ごと）

など

裁判所，労働基準監督官，国税専門官は、国家公務員です。警察官は都道府県ごとに募集が行われ，地方公務員です。国際捜査，国際通訳など，国際化に対応した募集枠が設けられています。独立行政法人は政府系の機関で職員は大部分が国家公務員です。国際協力機構（JICA）や日本貿易振興機構（JETRO）も独立行政法人です。国際学部の学生に適した法人がいろいろあります。採用試験は法人毎に行われます。募集の状況は個別に調べなければなりません。国立大学法人の職員は非公務員ですが，仕事の内容は公務員に準じたものです。採用試験は地区ごとに行われます。県や市町村立の美術館・博物館の職員は地方公務員です。一般行政職の職員が配置される場合と，独自の採用試験が行われる場合があります。後者の場合，学芸員の資格を取得（予定を含む）していると，有利であると考えられます。学芸員の資格を取得するためには，そのための履修計画を立てる必要があります。『履修案内（国際学部）』を参照してください。

最近では，これらの試験の受験希望者が増加し，いずれの試験も易しいものではありません。最近，これらの試験対策の講座を開いている予備校に通う学生も増えています。宇都宮大学でも，宇都宮大学生協主催の公務員試験対策講座が開講されています。このような講座を積極的に受講することを勧めます。

講座の受講生の横のつながりもできているようです。それをさらに発展させて，サーク

ル、研究会ができ、互いに励まし合って勉強ができたらいいと思います。もし指導を依頼されたら、関連分野の教員は協力を惜しまないでしょう。

（２）地方公務員（行政職）の試験科目

以下に、地方公務員（行政職）の試験科目の例を掲げておきます。ただし、これは例であって、試験科目は自治体によって様々です。宇都宮市の例は珍しい例かもしれません。希望する自治体の試験の方法について早めに調べておく必要があります。

◇栃木県職員（大学卒業程度）採用試験 25年度

一次試験

教養試験 必須解答：文章理解（英文を含む。）、判断推理、数的推理、資料解釈

選択解答：社会科学、人文科学、自然科学

専門試験 政治学、行政学、憲法、行政法、民法、刑法、労働法、経済原論、

経済政策、経済史、財政学、社会政策、国際関係、経営学

二次試験

論文試験

口述試験（個別面接、集団討論）

適性検査

身体検査

◇宇都宮市職員採用試験 25年度

一次試験 教養試験（択一問題）、集団面接

二次試験 個別面接、作文試験、適性検査、健康調査

三次試験 個別面接、集団討論

（３）公務員試験・国家資格試験などに関連のある国際学部の特修科目

以下に、国家資格試験、公務員試験などに関連する国際学部の特修科目をあげておきます。ただし、これらの科目を履修すれば試験に対する準備ができることを意味していません。出題内容、傾向と授業の内容が一致しているとは限らないからです。

一致している場合でも、相当の自学自習が必要であることはいうまでもありません。そのようなつもりで、参考として見て下さい。

法律・行政関係の特修科目

国際法／国際人権法／憲法／

行政学／地方自治論／財政学／経済政策論／国際法演習／行政学演習

政治学・国際政治学関係の授業科目

国際関係論／国際政治論／国際機構論／日本の政治／国際時事問題／

Japan-U.S. Relations／Japan's International Relations

経済学関係の授業科目

経済学概論／ミクロ経済学／マクロ経済学／国際金融論／統計学／国際経済論／

途上国経済発展論

その他

時事英語／日本思想史／国際協力論Ⅰ・Ⅱ／国際社会論／地域社会論Ⅰ・Ⅱ

国際時事問題／国際学英書講読

(4) 情報の収集

公務員等を志望する人は、キャリア教育・就職支援センター発行の「キャリアデザインノート」の公務員の章をまず読んでください。キャリア教育資料コーナー（附属図書館3階）、キャリア・カフェ（キャリア教育・就職支援センター）に公務員関係の図書・資料が置いてあります。市販の参考書は非常にたくさんあります。国際的な仕事に関するものを以下に示します。

『国際公務員を目指す留学と就職』アルク、

『国連職員への道』世界の動き社、

『国際派就職事典』アルク、毎年4月

『国際協力就職ガイド』国際開発ジャーナル増刊号、毎年4月

(5) 公務員試験準備の留意点

公務員試験では、参考書を使って、徹底的に準備をしておく必要があります。

それと同時に、いつ試験が行われるのか、どのような試験科目が課されるのかをよく確認しておかなければなりません。

地方公務員を希望する場合は、さらに、その地域の特性や課題を研究しておかなければなりません。試験問題に出されることがあるからです。

地方自治体の中には、受験希望者の見学を受け入れているところがありますので、窓口にお問い合わせの上で、職場見学をしておくとういいます。

5 教員

国際学部では、原則として学科ごとに以下の教員免許状が取得できます。免許状取得に必要な履修科目は『履修案内（国際学部）』を参照してください。

国際社会学科：中学校教諭一種免許状（社会）

高等学校教諭一種免許状（地理・歴史、公民）

国際文化学科：中学校教諭一種免許状（英語）

高等学校教諭一種免許状（英語）

近年、都道府県の教員採用数が激減していて、受験倍率が極端に高くなっていますので、教職をめざすには、早い時期からの計画が必要になっています。教員採用試験は、毎年7月頃から10月頃にかけて行われます。試験には少なくとも1年間の準備が必要です。3年次の前期終了時から本格的な準備に入らなければなりません。もちろん、それ以前から教員免許状を取得するために必要な科目を履修しておかなければなりません。

公立学校と合わせて、私立学校からの求人もあります。こうした情報はキャリア教育・就職支援センターに集められていますから、利用してください。

6 日本語教員と日本語教育プログラム

外国人を対象とした日本語教育に必要な専門知識と能力を身につけたい人のために日本語教育プログラムが開設されています。日本語教員の免許は、教育職員免許法などの法令に定められた国家資格ではありませんが、所定の単位を修得した人には、大学で発行する「日本語教育プログラム修了証書」が卒業時に授与されます。

このプログラムを履修しようとする場合は、2年次4月までに「日本語教育プログラム履修申請書」を修学支援課に提出する必要があります。

7 大学院進学

(1) 一般的な留意点

社会が複雑で多様になりつつある現在、大学院教育の必要性が高まっています。国際的な職場では、専門職に修士の学位は当然視されているといっても過言ではありません。大学院進学により、専門的知識・能力を増大させることができます。

平成11年度(1999年度)には国際学部に大学院国際学研究科(修士課程)国際社会研究専攻・国際文化研究専攻が、平成16年度(2004年度)には国際交流研究専攻が設置されました。もちろん、他大学にも様々な大学院があります。自分が研究したい分野があるか、指導を受けたい教員がいるかが選択のポイントになるでしょう。

平成19年度(2007年度)には国際学研究科博士後期課程国際学研究専攻が設置され、これにともない、修士課程が博士前期課程に名称変更されました。さらに高度な研究をするために、これまでは修了後、他大学の博士課程に進学する修了生がいましたが、今後は国際学研究科の博士後期課程に進学することができます。

(2) 大学院進学のための履修計画

大学院の入学試験では、専攻を希望する分野について専門知識をどれほど持っているか、その分野での研究に対する熱意がどれほどあるか、卒業論文の内容がどのようなものか、外国語能力がどれほどあるか等、が問われます。したがって、大学院に進学するためには、以下の点を考慮して履修計画を立てなければなりません。

a. 専攻分野について一貫性のある履修計画であること

大学院での学習には体系的な知識が必要になりますので、いわゆる「楽勝科目」だけの履修や、一時的な興味にまかした履修は避けなければなりません。できれば大学院進学を考えはじめた時点で、指導教員に助言を仰ぎ、履修計画を立てるとよいでしょう。

b. 質の高い卒業論文を作成すること

大学院では研究能力を養成することが大きな目的となります。一般的には、研究テーマを選ぶ際に学部卒の卒業論文を基礎にして考えます。したがって、卒業研究が非常に大きな意味を持ちますので、卒業論文の作成にあたっては、卒業研究指導教員の指導を十分に受けるように心がけて下さい。

c. 外国語を習得すること

大学院では外国語能力が重視されます。特に外国語で自分の専攻分野の文献が読めることは非常に大切です。そのため、自分の専攻分野の研究に必要な外国語は、卒業に必要な

単位を越えて、十分に履修するように勧めます。自主学習によって能力を高めることも重要です。また、検定試験を受験し、自分の外国語能力を知るとよいでしょう。

(3) 大学院受験の留意点

一般に、大学院の試験には、専門に関する筆記試験、外国語試験、口述試験がありますが、大学院によって異なりますので、あらかじめ調べておくことが大切です。過去問題の情報もできる限り集めてください。ホームページ上に掲載したり、郵送等で取り寄せることができたり、直接行ってコピーができたり、閲覧だけができる、など大学院によって過去問題の公開の仕方が異なりますから注意してください。必要に応じて問い合わせをして確かめてください。過去問題を収録した参考書も市販されています。

大学院の教育では、自主的研究能力を養うことが重要視されますので、学部での研究と、大学院での研究計画の整合性が大切です。したがって、入学を希望する大学で自分の計画する研究が実施できるのか、研究指導をしてくれる適切な教師が得られるのかをよく調べなければなりません。できれば、希望する指導教員に連絡を取って、事前に相談するとよいでしょう。

大学院の試験実施時期をよく調べ、その1年前から試験勉強を始める必要があります。なお、宇都宮大学大学院国際学研究科の入学試験は、毎年9月と2月に行われています。

通常、7月と12月に大学院(博士前期課程)進学説明会が開かれますので、掲示等で確認してください。

8 留学

国際学部卒業後に留学を考えている人には、早い時期からの準備を勧めます。外国語の習得をめざして留学する、いわゆる語学留学の場合は、準備期間は比較的短期間で済みますが、専門領域を勉強するために留学する場合は、相当の準備が必要となります。

(1) 留学目的の明確化

最初に行わなければならないのは、何のために留学したいのかを的確に説明できるようにしておくことです。現在のように留学が流行している状態では、他の人が行くから自分も行きたい、という追随型の留学希望になってしまう傾向にあります。こうした状態では、行けばなんとかなるだろう、という考えに陥りがちですが、留学して偶然により成果が得られるということは、およそあり得ません。目的を明確にしても、その半分が実現すればよしとしなければならないのが現実です。目的はどれほど明確になっていても明確すぎるということはありません。

(2) 留学ための履修計画

外国語習得のための留学であれば、その外国語をできるだけ学習できる履修計画を立ててください。

専門領域を勉強するための留学であれば、外国語の学習と専門領域に関する学習との2つが重要になってきます。外国語については、非常に高い能力が要求されますので、卒業に必要な単位以上の履修が欠かせません。また、外国語で授業を受けるためには、聞く能力、話す能力の他に、読む能力、書く能力が要求されますので、計画的な学習が必要となります(4の「外国語の習得」の項を参照)。専門領域を勉強するためには、まず本学でその領域でよい成績を修めていることは基本ですので、日々の学習に真剣に取り組んでください。その上で、教員、特に指導教員の助言を受けてください。

(3) 留学先の決定と志願

留学の目的が決まったら、その実現にどの大学または大学院がふさわしいかを決めなくてはなりません。インターネットや雑誌などいろいろな媒体から多くの情報を収集して、大学を選びましょう。そして、できればその大学から大学概要と入学案内を送ってもらいましょう。大学が決まったら、大学案内に同封されている志願票を使って入学を志願します。

(4) 外国語の習得

留学には、その国で生活するための外国語能力と、自分の専攻する分野を学習するための外国語能力が必要となります。この2つは関係するものですが、どちらか1つで大丈夫ということはありません。特に専門に関する外国語能力は、教えることのできる人が限られますので、よく専門の先生から指導を仰いで、日本にいる時に、留学先で使用されている言語で書かれている専門書を通して勉強しておくといよいと思います。

アメリカとカナダの大学ではTOEFLという英語能力検定試験を受験して、一定の点数をとっていなければ、入学が許可されません。学部レベルでは220点（CBT・コンピュータ版テスト）、大学院レベルではそれ以上の点数を求めているのがふつうです。この試験は、東京のテストセンターで毎月行われていますが、結果が出るのに試験後2週間はかかります。

英語では他に、TOEIC、英検、国連英検、IELTSなどの検定試験があります。他の外国語にも同様の検定試験があります。留学を希望するならば、これらの外国語能力検定試験で高得点を取ることをひとつの目安として学習をするのもよいでしょう。

9 まとめ

卒業後の進路は、4年間の大学生活の総決算と言っても過言ではありません。大切なことは、自分の将来について長期にわたる意識的な準備をすることです。本当はその分野に進みたかったのに、気づいたときは準備不足で手遅れだった、ということがないように、自分が本当にやりたいことを明確にする作業を早くから実施することを強く勧めます。皆さん一人一人が、自分の夢や希望を実現していくことを心から願っています。

参考資料 平成10～24年度卒業生の進路

	10年度	11年度	12年度	13年度
国内就職者	54	69	82	79
国外就職者	0	0	4	4
帰国者(就職・進学)	2	2	4	4
大学院進学者	26	23	2	1
各種学校進学	3	4	14	13
留学者	4	6	3	5
自営業	1	1	5	6
家庭(主婦)	1	3	3	2
自由業	1	8	3	3
国内未就職者	13	12	5	10
合 計	105	128	125	127

	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
企業・団体等	73	57	77	65	97	83
公務員	8	6	5	5	7	3
教員	2	1	1	4	7	4
大学院進学	8	15	10	19	14	12
その他進学(専門学校を含む)	4	7	4	5	11	2
留学(語学留学含む)	3	3	6	1	0	2
家事	3	3	2	0	0	5
その他(社会人を含む)	1	7	4	3	5	0
未就職(不明者を含む)	13	24	17	16	10	6
帰国(留学生)	0	2	0	0	0	1
合 計	115	125	126	118	151	118

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
企業・団体等	110	95	96	96	63
公務員	8	8	4	11	3
教員	3	4	4	6	2
大学院進学	13	8	7	4	3
その他進学(専門学校を含む)	5	1	0	0	0
留学(語学留学含む)	1	0	0	0	0
家事	1	0	0	0	0
その他(社会人を含む)	8	11	10	9	4
未就職(不明者を含む)	9	10	12	13	9
帰国(留学生)	0	0	0	0	
合 計	158	137	133	139	84

※平成14年度から、分類を変えています。

この数字は卒業時点のもので、それ以降に就職が決まっているケースがあります。

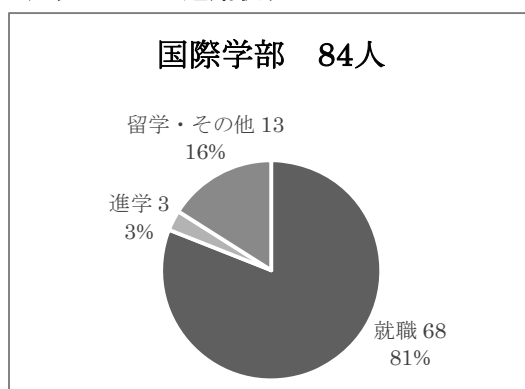
平成20年度～24年度 就職者の産業別 就職状況、及び進学者

学部 産業別項目	平成24年度			平成23年度			平成22年度			平成21年度			平成20年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
農 林 漁 鉱 業			0			0			0			0		1	1
建 設 業	1	2	3		1	1		1	1	1	2	3	1	1	2
製 造 業	1	12	13	5	4	9	5	6	11		12	13	5	7	12
電気・ガス・熱供給・水道			0		3	3			0	1		0			0
情報通信業		6	6	1	9	10	2	9	11		12	13	4	10	14
運 輸 業	1	5	6	4	6	10		5	5	1	11	11	1	8	9
卸売・小売業	3	9	12	3	18	21	2	13	15		14	18	3	17	20
金融・保険業	1	7	8	3	10	13	2	15	17	4	11	12	4	8	12
不動産・賃貸業		2	2	1	1	2	1	5	6	1	1	1	2	5	7
学 術 研 究 等			0	1	2	3			0			0	2	3	5
飲食店・宿泊業		4	4	2	3	5									
学 習 支 援		2	2	1	6	7		3	3		2	2	2	5	7
医療・福祉業			0	1	5	6		5	5		2	2		1	1
サービス事業	3	4	7		6	6	4	18	22	5	13	18	2	18	20
公 務 員		3	3	5	6	11		4	4		8	8	2	6	8
教 員		2	2	2	4	6	1	3	4	4	2	6		3	3
進 学			0	0	4	4	1	6	7	3	6	9	6	10	16
そ の 他			0	6	16	22	8	14	22	6	15	21	8	13	21
計	10	58	68	35	104	139	26	107	133	26	111	137	42	116	158

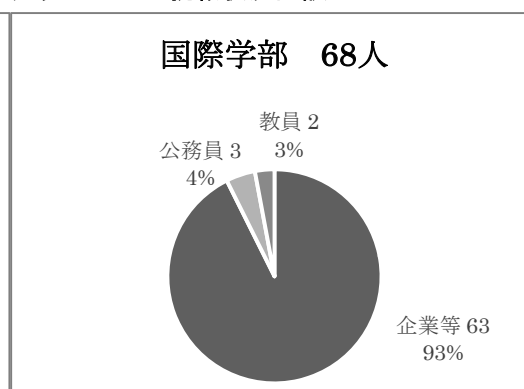
平成24年度 卒業生の進路状況

(円グラフ)

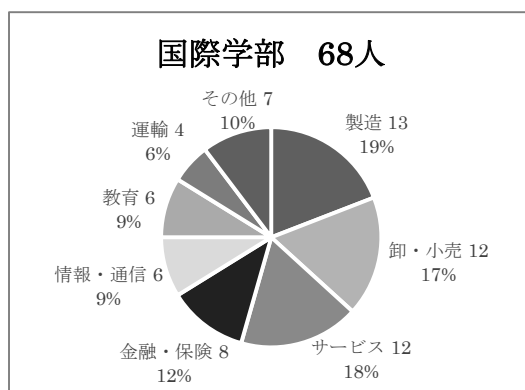
グラフ1. <進路状況>



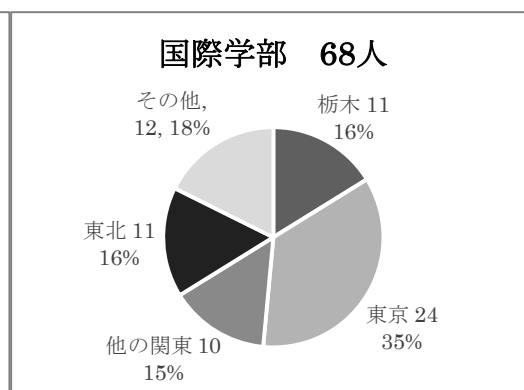
グラフ2. <就職状況内訳>



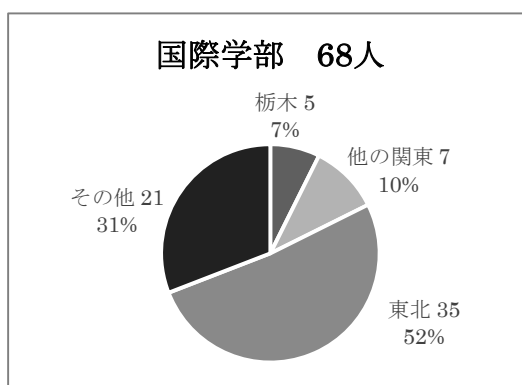
グラフ3. <産業別就職状況>



グラフ4. <就職先の本社所在地>



グラフ5. <就職者の出身地域>





特定非営利活動法人
国連 UNHCR 協会

小野由香子

(国際文化学科卒)

世界には紛争や迫害などを理由に故郷を追われ、難民・避難民となった 4000 万近くの人々が、国連の難民支援機関である U N H C R (国連難民高等弁務官事務所) の援助を必要としています。私は、UNHCR の公式支援窓口である国連 UNHCR 協会で、継続寄付を呼びかける仕事をしています。定額の支援を続けていただくと、緊急時には迅速な援助物資の支給が可能となり、長期の資金計画が必要な学校教育や職業訓練なども安定して進めることができます。私は新卒で国際協力業界に就職できるスキルを持った人材ではありませんでした。志の炎を絶やさない努力をしながら、5 年間ウェブ業界で経験を積みました。こちらに勤めて 5 年になりますが、人道危機の勃発時にはウェブを通じての訴求が非常に強いです。今、学生の皆さんには、自分の選択に社会的意義があるかどうかを考えてほしい。複合的な問題が存在する世界では、「世界は変えられる」と信じる人たちの働きが求められています。



TV ディレクター

谷澤壮一郎

(国際社会学科卒)

海外のニュースを扱う報道番組のディレクターとして働き始めて 5 年になります。現在は NHK 国際放送局で英語の報道番組を担当し、主にアジア各地のニュースリポートを制作しています。番組や特集を企画する際に最も重要なのは、“自分は何に興味があるのか”を突き詰める事です。誰も行かない場所へ行き、誰も知らないネタを発掘し、誰も見た事がないモノを伝える—これが私の仕事の醍醐味です。宇大の国際学部には、揺れ動く世界情勢から各国の文化事情に至るまで、多岐にわたる興味深い学問が用意されています。先生方や仲間との出会いも非常に刺激的でした。一方で、浅学な私の場合、座学で得た知識は、実際に現場へ行くことでようやく自分のモノになったと思います。学生時代に訪れたイラクという戦場や、インド洋大津波の被災地・アチェでの出会いと経験は、今も自分を新たな現場に駆り立てる原動力になっています。時には教室を出て各々の“現場”へ赴き、現実にもち当たる—そこから新たな発想や表現が生み出されると信じています。

写真：湾岸戦争の証言ドキュメンタリー番組の取材で、元仏外相のロラン・デュマ氏と



栃木県庁 (真岡県税事務所)

高橋 優

(国際社会学科卒)

2008 年度に国際社会学科を卒業し、栃木県庁に就職しました。現在は県庁の出先機関で、県税の徴収の仕事にあたっています。県庁への志望動機は栃木県の環境問題に取り組みたいというものだったため、正直、予想外の配属でした。しかし、県民と直接触れ合う機会も多く、県民の生活状況や目線を学べる今の職場が、県職員としての初めての「仕事」でよかったと思っています。私の職種は、数年毎に異動があります。これから、さらに想像もしないような職場に配属されるかもしれません。ですが、学生時代、多様な知識や経験が、物事を理論的に考える力と対応力を養うということを学びました。その学びを生かし、今の職場で得た経験は将来の職場・仕事に、そして自身の糧になると考え、日々精進しています。知識や経験だけでなく、友人や先生など、国際学部で得たものは私にとって全て一生物です。みなさんの学生生活も、そんな素晴らしいものになるように期待しています。



(株) JTB 関東 本社営業部
教育事業チーム

北城 加奈子

(国際文化学科卒)

私は、さいたま市で旅行会社に勤務し営業の仕事をしています。

小学校から大学まで、教育にかかわる団体をお客様とし、遠足から修学旅行、海外研修や合宿などを取り扱っています。担当校に通い、ツアーを獲得することから始まり、手配、打ち合わせ、添乗、清算まで一連の流れがすべて仕事の内容となります。

教育旅行を通して、未知の可能性をもつ子供たちや希望に満ち溢れた学生たちに、一生に一度の経験や、貴重な体験の機会を与えられる仕事でもあります。

高いアンテナと広い視野を持ってお客様に向き合う姿勢は、国際学部で過ごした日々から得たものであり、人のサポートをすること、段取りを考えて先回りした準備をすることが基本のこの仕事は、大学時代にアメリカンフットボール部のマネージャーを経験したことが生かされていると思っています。

